ふに於ては貸借上不公平の結果を生せさるを得す之を防かんか爲め公私債務の金額を改訂するか如きは到底其煩に堪ゆへからす殊に小額の鐵道運賃及郵便料金の如き定額のものにありては貨幣價格の低落に應して之を改正せんとするも端數を生し之を果すと能はさるへし去れは貨幣改造の費用は之を國庫の負擔となすを甘するも經濟上斯る混雜を來し不公平の結果を生する虞ある以上は佛國の提議に依て萬國共通貨幣の制を立つるは不可なる旨を報告したり

英國にては右ロヤルコムミッションの報告出てしより以來復た萬國共通貨幣の實行を唱ふる者なく爾來此問題は殆と底止の情態を呈せり又獨逸に於ては聯邦の成立と共に千八百七十三年を以て馬克を單位とせる新幣制を立てしを以て歐米列强の貨幣は愈々統一上の困難を加へたり而して之と同時に金銀價格の變動益大なるに至りしかは千八百七十八年巴里に開ける次回の萬國會議に於ては議案の性質一變し米國を始め從來の主義を更めて萬國複本位を主唱するもの多く爾來貨幣に關する萬國會議は何れも複本位に關する會議ならさるはなく萬國共通貨幣實行の議は更に愈々困難を加へ今や殆と絶望の觀を呈するに至れり

本章參考書

第一節

Jevons, Money and the Mechanism of Exchange, ch. IX.

第二節

Scott, Money and Banking, ch. V, sec. VI.

Norman, Universal Cambist.

Muhleman. Monetary Systems of the World.

Brown, Merchants' Hand-book.

Haupt, Arbitrages et Parités.

Lejeune, Monnaies, Poids et Mesures des Principaux Pays du Monde.

Blockhuys, Vade-mecum of Modern Metrical Units.

第三節

Jevons, Money and the Mechanism of Exchange, ch. XIV.

Conférence monétaire Internationale, 1867, Procès-Verbaux

Proceedings of the International Monetary Conference of 1878 (Published in Washington), Appendix.

The Report of the Royal Commission of 1868 in P. P. of 1868, vol. XXVII.

第九章　貴金屬の國際的配當と其移動

第一節　貴金屬の國際的配當を支配する法則——第二節　貴金屬の國際的移動に關する英國正統學派の學說を批評す——第三節　信用の貴金屬移動に及ぼす影響——第四節　貴金屬の移動を惹起する普通の原因——本章參考書

第一節　貴金屬の國際的配當を支配する法則

世界各國か其國內に潤澤なる貴金屬の分量を保存せんとに努むるは古今を通して其揆を一にし往時にありては國家の富强は一に其保有する貴金屬の分量如何に依るとの觀念よりして列國爭ふて其輸入を奬勵し其輸出を制抑する方策を旋したりき現今と雖尙ほ斯る觀念の列國法令上に現出するもの尠なしとせす去れと斯の如き政策の正鵠を失せるは素より論を要せさる所にして夫の重農學派の諸學者及ひアダム、スミスか其非なるを闡明せしより後世學者の之を支持する者殆とあるとなし蓋し世界上何れの國と雖も必す自然に其需要に應して貴金屬の國際的配當を受け健全なる幣制と變通なる銀行制度とを有する以上は克く經濟的情況に適應すへき金屬貨幣の分量を保有し得へきか故に法令を以て漫りに之か獲得の手段を講し其流出を防遏せんとするか如きは素より有害無益の擧たるを免れさるなり

抑も貴金屬の移動を支配する法則は一般貨物の移動を支配する法則と異なるとなく其需要急ならす價格比較的小なる場所を去りて需要多く價格比較的大なる場所に就くへきは當然の理なり即ち貴金屬の國際的配當は之を抽象的に言へは其貨幣用竝に其他の用を綜合して國々の之に對する比較的需要によりて定まらさるを得す而して世界上既存貴金屬の配當一旦行はるゝに於ては新に生產せられたる貴金屬は更に國々の比較的需要に應して分配せられ其權衡を得るに至るまて國際間に移動して停まさるへし又或事情より國々の比較的需要攪亂せられ配當の變更を要する場合に於ても貴金屬の移動は自然の結果として起らさるを得すして其移動は再ひ其比較的需要の權衡を得るに至るまて持續すへきなり然れとも比較的需要の權衡の成立は世界各地に於ける貴金屬の比較的購買力をし

て均等を保たしむるに止まり其價格をして世界到る處同一ならしむるものに非らす何となれは國々に於ける貴金屬の價格は一般貨物及貴金屬の運搬費保險料及ひ內國貨物取引の繁閑等によりて定まるものなれはなり

貴金屬の比較的需要の如何にして定るやを知らんと欲せは先つ貴金屬の用途並に其各用途の相互の關係を究めさる可からす貴金屬の需要は之を大別して二種とす曰く貨幣用としての需要曰く工藝用としての需要是なり而して一國內(一經濟區域內)貴金屬の價格は此二者を照合したる結果なるを以て頗る複雜せる事情によりて定まり其消長を攻究すると最も困難なりと雖も貴金屬の價格に對する此二者の相互の關係は極めて單純にして此二者間に於ける貴金屬移轉の自由は常に一方に高價にして他方に廉價なるとを許さす必すや其價格をして同等ならしむへきなり即ち若し一國に於て金屬貨幣大に缺乏し其價格遙に地金よりも高きときは貴金屬地金の一部は直ちに工藝用を去て貨幣用に向けらるへく之に反して貨幣過多にして其價格地金に及はさるときは貨幣の一部は直に鑄潰されて地金となり工藝用に向けられ結局此二用途に於ける貴金屬の價格均等なるに至るへきなり

右述るか如く一國の要する貴金屬の分量は其貨幣用並に工藝用需要の合計に他ならす而して其貨幣に要する分量はヘルフエリッヒ氏の論せしが如く國民の個人的に又共團的に要する所の貨幣の總額にして其總額は或一定の期間に實際支拂に要せらるへき額並に收入支出の時的及人的適合の如何貨幣流通の程度及ひ信用の利用の大小によりて定まり(Helfferich, Das Geld S. 339-)工藝に要する分量は人民の習慣嗜好流行其他種々の事情によりて決せらるへし然而世界諸國各其特異の事情によりて定まれる貴金屬の需要の多寡は所謂國々の比較的需要にして國際間貴金屬の配分を指定し其移動の方向を決するものとす

貴金屬の國際的配當を支配し其移動の方向を指示する法則は其國々の比較的需要なると上述の如し然りと雖も此法則の作用は實際に於ては信用の作用並に幾多の抵抗力の爲めに覆蔽せられ充分に其働きを逞ふすると能はさるを常とす是れ頗る重要なる事項なりとす抵抗力とは何そや曰く國民の習慣猜忌心貴金屬輸出禁止法正金政策及ひ貴金屬の供給に對する物價の感應の遲緩等所謂經濟的摩

擦なるもの即是なり是等の事情及ひ信用の作用は實際上大に貴金屬の國際的移動を左右し或は其移動を不必要ならしめ或は之を喚起し又或は之を妨碍し其國際的配分をして比較的需要の指示する所に從はしめす貴金屬の比較的購買力をして永く相隔離せしむると往々ありとす

以上論述せしか如く貴金屬の國際的配當竝に之か移動を支配する根本の法則は國々の比較的需要なりと雖も信用の作用及ひ經濟的障碍の存在は往々にして其法則の作用を覆蔽するか故に實際上貴金屬の移動に對し正確なる説明を下さんと欲せは其比較的需要の如何を究むるを以て足れりとせす更に進んて信用の作用竝に經濟的障害を考察し彼此相對照比較せんとを要するや勿論なりとす然れとも元來貴金屬の比較的需要と云ひ信用の作用と云ひ又經濟的摩擦と云ひ何れも皆繁雜紛糾の事項にして到底精密に其各勢力の程度を斗量するを許さゝるを以て國際間貴金屬の移動に對する正確なる説明は現今の學問の程度を以てしては殆と不可能の事に屬すと云ふも敢て過言にあらさるへし去れと貨幣用として一國の要する貴金屬の額を支配する事情竝に之に隨伴して國際間貴金屬の移動を左右すへき勢力の作用に關しては吾人現今の智識の程度を以てするも尚ほ幾分の光明を與ふるとを得さるにはあらさるなり

第二節　貴金屬の國際的移動に關する英國正統學派の説を批評す

ジョン、スチユワート、ミルはリカードーの所説を敷衍して貴金屬の國際的移動に關する學説を敍述せり Ricardo's Works—Mcculloch's edition—ch. VII & "The High Price of Bullion"; J. S. Mill, Principles, Book III, chs. XIX—XXI 其要に曰く

若し或産金國に於て貴金屬の産額の增加を見る時は其影響は先つ同國に於ける貴金屬の價格を下落せしめ一般物價を昂騰せしむへし然る時は同國の物價の平準 Level of prices; Preisniveau は他國の物價の平準に對して權衡を失ひ之か爲め輸入は益增加し輸出は愈減少し貿易は所謂逆調を呈するに至り其結果は同國に貨物を輸入する國に向て貴金屬の流出を見るへきなり已にして右と同一の情勢は其貴金屬を收受せし國に於ても亦現はれさるを得すして貴金屬流入の結果は其

國に於ける貨幣の分量を增加し其價格を減し物價を騰貴せしむへきを以て輸出貿易は漸く衰へ輸入貿易は漸く振興すへし乃ち其當然の結果として其國の貴金屬貨幣の一部は其國に貨物を輸入せし第三國に向て移轉せさるを得さるなり之を要するに貴金屬の新供給は先つ其增加を見し國の物價に影響し輸入超過を馴致し貿易上順調を呈せる國に向て順次移轉し諸國の物價の平準再ひ權衡を得るに至て始て歇むへきものとす

以上は貴金屬の新供給の如何に國際に配分せらるゝやを敍述せしものなるか貴金屬の供給に變化なく單に貨物の側に於ける供給の變化ありし場合に於ても亦同一の理由により貴金屬の國際移動を惹起するものとす今講述の便を計り世界中他の諸國と隔離せる甲乙二貿易國を假想して之を說明せんに若し右甲乙二國の輸出入相平均するときは其二國は各自其賣買取引額に適應する金屬貨幣の分量を維持し其間に正金の移動を現するとなかるへしと雖も今或原因により俄に甲國より乙國に向け或新貨物の輸出を見る時は乙國は從來の輸出のみを以て此新輸入の支拂に充ると能はすして甲國に於ける爲換手形の供給は其需要に超過し其價格下落し遂に正金輸送點を超へ到底乙國より甲國に向け正金の輸送を免れさるなり然而此正金の移動は甲國に於ける貨幣の分量を增加し爲めに甲國の物價の平準を高むと雖も乙國に於ては之に反して其丈流通貨幣の減縮を來し爲めに物價の平準を下落せしむへきなり斯の如くなるときは從來乙國より未た曾て輸出せられさりし貨物も今や乙國に於ける其價格の下落と甲國に於ける騰貴との爲め新に甲國に輸出せらるゝに至るへく又從來甲國より乙國に輸出したりし貨物中其一部は甲國に於ける騰貴と乙國に於ける下落との爲め最早乙國に輸出せられさるに至り結局乙國より甲國への正金移動の爲め國際物價の變動を惹起し終に再ひ乙國より甲國への輸出超過を生し兩國間の貨幣の分量復平するに至りて始て止むへきなりと

右は貴金屬の國際的移動に關し英國正統學派を代表せるジョン、スチユワート、ミルの所說にして從來多數の學者により祖述せられし所なり然れとも是れ唯貴金屬の移動を惹起するものは其比較的購買力なるの一事を指示せしに止まり其移動の原因を究めす又之を左右する幾多の勢力の存在を認めす其說明全く正鵠

を失し到底採るに足らざるを奈何せん何を以てか之を言ふ曰く此學說は左の諸要件を考慮せざればなり

一、貴金屬の產國より輸出せらるゝ貴金屬は單純なる輸送品なるか若くは一種の貿易品なると

二、國際物價の變動は必しも正金の移動を來すものにあらざると

三、貴金屬の用途は單に貨幣用のみに限らざると

四、實際上幾多の障碍は正金の移動をして容易ならしめざると

五、信用は貴金屬の移動に著大の影響を及ぼすと

以下順次右諸項を說明し以て正統學派の學說の缺點を明かにすへし

第一、正統學派の說に據れは貴金屬の產出額大に增加する時は產金國の物價を騰貴せしむるを以て其結果輸入超過を來し貴金屬は貿易の差額を支拂ふ爲め輸出せらるゝものとす故に貴金屬の移動は產金國の貿易逆調を呈せし結果として起る現象なりと云ふに在れとも是實際の事實に適合するものにあらす抑々產金國より貴金屬の輸出せらるゝや單純なる輸送例へは或先進國の事業會社か產金國に於て鑛業を營み其採堀せる貴金屬を本國に輸送するか如き場合に起るに非すんは一種の貿易貨物として輸出せらるゝと多く貿易の結果として生する國際貸借の支拂に供せらるゝか如きは寧ろ稀有の事に屬せり去れは正統學派の如く貴金屬の輸出を以て物價の平準の騰貴より來る輸入超過を俟て始て行るへきものゝ如く解するは決して正鵠を得たるものにあらざるなり蓋し產金國の物價は貴金屬の產出增加の爲め騰貴し貨物の輸入亦貴金屬輸出の增加に應して增殖すへしと雖も貴金屬の輸出は物價騰貴の結果にあらざるなり

第二、抑々各國の物價の平準の相互的動作は所謂國際的物價の均衡を來さんとし正金の移動を指定するものとす然れとも支拂手段としての正金の移動なるものは正金の輸出か最も低廉なる支拂法たる場合の外行はるへきものにあらすして國際物價の失衡より來る貨物輸入の結果たる國際貸借は多くの場合に於て反對の方向を以てする貨物の輸出入を促かし正金の輸出の如きは稀に起る所なりとす(產金國より輸出せらるゝ貴金屬は其國の輸出貨物の一種なると前段に述へしか如し)換言すれは國際貸借の決濟は正金を以てするよりも寧ろ貨物を以てす

ると多く唯正金の現送か最も廉價なる支拂法たる場合に於てのみ之か移動を見る者とす今正統學派の說明法を襲用し玆に貨幣用の外一切用途を有せさる同一種の金屬を以て成る貨幣を用ゐ毫も信用を利用せさる甲乙二國あり共に通商をなすも二國共に世界中他の諸國と全然離隔せられ一切貿易上の關係を有せすと假想せんに若し或原因より甲國に於ける生產費減少し或貨物の價俄に下落する時は甲國の物價の平準は之か爲め稍低落し或貨物は多く乙國に向て輸出せらるへし然るに此輸出ありし爲め甲國は毫も貨物の餘剩を感せす既存の貨幣を以て充分に國內交易の用に應するを得へしとする時は毫も貨幣を輸入するの必要なかるへし乙國に於ては右甲國より輸入せる新貨物に對し新に輸出すへき貨物なきに於ては已むを得す貨幣を輸出して其支拂に供すへしと雖も既に多額の外國品を輸入したる以上は內國品は之か爲めに自ら下落せさるを得すして乙國より甲國への輸出亦自ら增加し結局二國の物價の平準は共に低落し其比は從前と異ならすして貴金屬の移動を要せさるへし

以上は甲國に於ける低廉なる貨物の餘剩の全體か乙國に輸出せられしものと想像せし論なるか實際に於ては斯るとなかるへく甲國より乙國に輸出せらるへきものゝ額は乙國の內國品と其の輸入品との比價をして甲國に於ける內國品の增加と輸入の增加との結果として生せし諸貨物の新比價と均衡を保たしむる點に止まるへし即ち斯の如くなるときは甲乙二國の國際物價の關係は毫も攪亂せらるゝことなくして復た正金の移動を要せさるへきなり

之を要するに國際物價の關係より生する貿易の失衡は普通貨物の輸出入の變化によりて匡正せらるゝを例とし正金の輸出せらるゝは輸入超過の國に於ける諸貨物中正金か最廉なる支拂方便たる場合に於てのみ起るものにして特に正金か其固有の性質として他の諸貨物を排して輸出用に選定せらるへき道理あらさるなり然るに正統學派の學說は國際物價の變動より生する貿易上の失衡は必す正金の移動を惹起し其結果として再ひ國際物價の衡平を攪亂し輸出入の趨勢を變し正金は次第に其原輸出國に回歸し其移動は國際物價の衡平の回復するまて持續すへしと云ふものなり豈正鵠を得たりと云ふを得んや

第三、貿易の結果貴金屬の移動あるも元來貴金屬は貨幣用のみならす工藝用に

も使用せられ此二者の比較的需要は常に均衡を保つへきを以て一國より貴金屬の輸出あるときは其貴金屬は必す右兩途より吸收せられさるを得す又其輸入國は必すしも之を以て交換の媒介として流通せしむるに限らす或は工藝用に供し或は銀行の支拂準備金として庫中に藏し銀行は必しも之れに對して交換の媒介を增發せさるなり隨て貨物に向て提供せられ其需要を增加し物價を騰貴せしむるに限らさるなり然るに正統學派は凡そ輸出せらるゝ貴金屬は必す流通市場より吸收せられ其丈輸出國の流通貨幣を減し物價を下落せしめ又輸入せられたる正金は必す其輸入國に於て流通市場に投せられ物價に影響を及ほさゝるを得さるか如き假設の下に其論をなせり斯る單純なる理法を以てせる結論は複雜せる實際問題を解釋すへき資料と爲すに足らさるや自ら明白なり

第四、正統學派の學說は所謂經濟上の摩擦若くは抵抗力の存在を無視したり即ち同學說は正金の移動並に國際物價の均衡か急速に完全に而も何等の費用障碍なくして行はるへしとの假想の下にあらすんは眞實なるを得す是れ實際と甚しく相違せる所なり凡そ國際貴金屬の分配は貴金屬の餘剩の現はれたる國の如何により自ら遲速あるを免れすして其餘剩か經濟の未た充分に進步せさる邦國に現はるゝときは其國際的分配は自ら遲緩ならさるを得す之に反して經濟の發達著しく銀行の利用盛なる邦國に現はるゝときは其國際的分配は頗る迅速なるへし此事情は交通の進步せる現今にありては餘り重きを置くに足らさるか如しと雖も今日にありても金產國よりの距離大なる國は運送費其他の關係より貴金屬の配分を享くると自ら遲からさるを得す又貴金屬の移動は國民の習慣猜忌心貴金屬の輸出を制抑する法律の存在及ひ物價の容易に貴金屬の供給の伸縮に感應せさる事情の存在等により自ら阻碍せられさるを得さるなり是等は皆所謂經濟的摩擦若くは抵抗力にして正統學派の考慮せさりし所なり

第五、正統學派の學說は諸國の交換の媒介を唯金屬貨幣のみなりと假想し毫も信用の存在を認めさるなり然れとも既に第四章及第五章にも述へしか如く信用は文明國に於ける交換の媒介支拂の手段中主要なる部分を占め而かも各國其利用の程度を異にするを以て其影響は貴金屬の移動上に及はさるを得さるなり然而其影響は甚大にして現今國際間貴金屬の移動は概ね信用の關係より生すと謂

ふも大差なきか如し尙信用の貴金屬の移動に及ぼす影響に就ては次節に於て之を說明すへし

之を要するに正統學派の學說は國々に於ける貴金屬の比較的需要を以て其國際的配當竝に移動を支配するものなりとせる點に於ては正當なりと雖も其移動の行はるへき狀況並に其結果に關し甚しく正鵠を失し且つ其移動に影響を及ぼし之を左右すへき諸勢力の存在を全然無視したるを以て到底實際上の現象を解釋するの資料となすに足らさるなり

第三節　信用の貴金屬移動上に及ぼす影響

抑も信用は單り一國の獲得する所の貴金屬の分量に變化を與ふるのみならす其分量の急激なる變化を融和するの力あるものとす現今の信用制度の下にありては一國の有する金屬貨幣の額は其富力產業の情況若くは支拂の度數多寡により定まるよりも寧ろ信用利用の範圍及巧拙によりて決せらるゝものゝ如くにして經濟最も進步し交易頻繁に信用盛大なる社會にありては交換の媒介を要すると大なるにも拘らす貨幣用貴金屬の需要は却て比較的小なるを例とし信用の制度愈微妙なれは貴金屬の比較的需要愈小に一定の貴金屬の效程愈大なるに至るものゝ如し

正統學派の說に據れは一國の物價平準の騰貴は貨幣の過多を意味し其過剩高の輸出を惹起するものとす然れとも實際上一國の物價の平準大に變動し國際貸借の差著く生するも貴金屬の移動を見るに限らさるなり蓋し現今の世にありては信用の利用は貴金屬の移動をして不必要ならしめ其費用を節せしむること多し今試みに其主要なるものを擧れは第一は爲換の取引なり爲換は或は二國間に直接に取組まれ或は第三國を經由して間接に取組まれ又或は「ブランククレヂット」の方法により季節的片爲換を匡正し克く正金を動かすことなくして國際の貸借を決濟せり(Clare, The ABC of the Foreign Exchanges, ch. XIII, pp.85-87; Goschen, The Theory of the Foreign Exchanges, ch. III, pp. 37-41) 第二は國際的有價證券の取引なり國際的有價證券とは世界的市場を有する公債株券社債券の類を云ひ正金の現送を要する場合に克く其代用を爲し廉價なる支拂法を供せり(Conant, Principles of Money and Bank-

ing, vol. II, Book VI, sec III.) 第三は借國に於ける割引歩合の引上なり國際貸借上借方の位地に在る國に於て俄に割引歩合を引上け其率外國市場に於ける割引歩合よりも高率なるに至る時は貸國の債權者は一時其受取るへき金額を借國に止め以て利率の差を獲んとするを以て借國に於ける割引歩合の引上は正金の移動を阻止するの一方策たるを失はす第四は借國か外國に於て新に債務を起すと是なり借國の新に起せる債務は其公債なると私債なるとを問はす借國の爲換の逆勢を匡正し一時正金の輸出を阻止するに足るものとす是等の方法は何も國際貴金屬の移動を減するものにして現今諸國に於て常に實行せらるゝ所なり加之ならす信用の利用は一國の交換の媒介をして市場の需要に應して自由に伸縮すへき彈力性を有せしめ各國經濟事情の變化動搖と共に生すへき貴金屬移動の必要を減するものとす夫の銀行貸出の情況に應する兌換劵並に振替預金の展縮即是なり是等の信用形態は交換の媒介として金屬貨幣の代用を爲すを以て其利用は大に金屬貨幣の需要を融和し貴金屬の頻繁なる移動より生する費用を節約するの效あるものとす

信用の利用か貴金屬の國際的配分を小ならしめ又其急激なる移動を融和する力あると上述の如し然りと雖も信用は亦屢々貴金屬の國際的移動を惹起す原因を爲すとあり即ち一國が或特殊の必要例へは不換紙幣の整理本位制度の改革等)を充さんか爲め他國に於て公私債を起したる場合の如き若くは國内金融逼迫し金利騰貴の結果自ら外資の流入を促かし他國より正金の輸送を見し場合の如き(例へは恐惶襲來し信用萎縮し正貨の需要俄に加はり金利暴騰せし場合若くは金融市場稍々常軌を脱し信用の保證漸く薄弱を告け金利次第に騰貴せんとする傾向を呈せし場合の如き)何れも信用か貴金屬の國際的移動を惹起す原因を爲すものにして特に後者の場合の如きは吾人の常に多く目擊する所とす蓋し現今の世にありては諸國の貨幣としての貴金屬の需要は流通用よりも寧ろ信用の保證としての需要多きを占むるを以て若し或原因より一國の信用の保證に變化を來すとあるときは國際物價の動搖を要せすして直ちに其國の貴金屬に對する需要に影響し之か移動を惹起すへきなり

之を要するに信用の國際貴金屬の配當並に其移動上に及ぼす影響は頗る著大に

して實際上に於ける貴金屬の移動をして大に正統學派の所說と齟齬せしめ終に或一派の學者(例へはラフリン氏の如き)をして全然正統學派の學說を非認せしむるに至れり蓋し正統學派の說は單に國際物價の失衡を以て貴金屬移動の原因なりとし信用其他之を支配すへき諸勢力の存在を無視したるか故に毫も眞理を含有せすと云ふを得さるも以て實際上の現象を解釋すへき資料となすに足らさるなり

第四節　貴金屬の移動を惹起する普通の原因

貴金屬の國際的移動を支配するものは之に對する國々の比較的需要なると既に論せしか如し然則其需要の消長を來す所の事情は其性質の如何を問はす皆悉く貴金屬移動の原因たらさるを得さるなり蓋し國際貴金屬の比較的需要は其國々に於ける其購買力の懸隔を以て之を卜知するを得へく之か失衡を惹起する事情は即ち貴金屬移動の原因たらさるを得さるなり然りと雖も現今國際間に行はるゝ貴金屬の移動は必すしも國際物價の失衡を俟て始て行はるゝ限りに非す國際物價の如何に拘らす之か移動を生する場合亦尠なしとせす特に前節にも述へしか如く信用の之に及ほす影響の如き頗る顯著なるものありとす今現今國際間貴金屬の移動を惹起する普通の原因を列擧すれは左の如し

第一、產金國よりの輸出、貴金屬の國際的移動の第一の原因は產國よりの輸出なり濠地利南亞弗利加及ひアラスカ等より年々他邦に輸送せらるゝ金の分量は決して小なりと謂ふべからす而して是等產金國より輸出する金は一種の貿易品として輸出せらるゝとありと雖も亦英米に於ける鑛業會社の經營に係る鑛坑より單純なる輸送品として本國に輸送せらるゝと多し隨て國際貸借に關係を有する場合と然らさる場合とを生すへし

第二、國際貸借の決濟、貴金屬の國際的移動の第二の原因は國際債務の決濟なり國際の貸借を生する原因一にして足らすと雖も今其重要なるものを擧れは一、貨物の輸出入、二、外國船舶に支拂ふへき運賃及ひ外國港灣に於ける內國船舶の出費、三、公私外債の募集償還及ひ國際的有價證券の利子又は配當の支拂、五、外國より受取り若くは外國へ支拂ふへき保險料手數料取立料其他類

似の勘定、六、外國旅行者の旅費及ひ出稼人の送金等とす而して是等貸借は爲換の方法により大部分差引勘定を以て消合せらるゝを常とし又其差額は貨物の新輸出入若くは有價證劵の新移轉を以て決濟せらるゝと多しと雖も正金の現送が最廉の決濟法たると亦決して尠なしとせす斯る場合に於ては貴金屬の國際的移動を見るものとす

第三、金銀比價の動搖、金銀の市場比價の動搖か貴金屬の移動を惹起する場合に二あり一は複本位國に於けるグレシャム氏法則の作用より生する場合他は下落せる金屬を本位とせる國の輸出貿易の振興より來る場合是なり然れとも現今に於ては最早純然たる金銀複本位制を採る國なきに至りしを以て金銀市價の變動より來る貴金屬の移動は多く後者の場合に起るものとす即ち金銀の市價動搖する時は本位を異にせる邦國間の貿易に影響を及ほし下落せる金屬を本位とせる邦國の輸出を振興し輸入を萎微せしむると同時に騰貴せる金屬を本位とせる邦國の輸入を鼓舞し輸出を阻碍し爲換の情勢は前者に順にして後者に逆なるへきを以て結局後者より前者に向て下落せる金屬の輸入を見るへきなり然れとも前者に於ける輸出貿易の振興の爲め大に其内國商工業の發達を來し爲めに後者より機械鐵道船舶其他の形態を以てせる資本の輸入を促すに於ては唯前者に於て新たに加はりたる交易上の需要に應するに當り貴金屬の缺乏を感する範圍に於てのみ之か輸入を見るものにして貿易上必すしも輸出超過の情勢を現するに限らさるなり

第四、或國の内國商工業の發達、一國の經濟的進歩著しく其内國商工業大に振興し既有の貴金屬を以て其增進せる交換の用を辨するに足らす信用の擴張を以てするも尚其需要を充たすと能はさるに於ては貴金屬の購買力は大に增加し之か輸入は蓋し數の免れさる所とす然而して斯る場合に於ては其國の外國貿易は比年普通貨物の輸出の增進を見るを常態とし貴金屬は輸入貨物中一の主要なる部分を占むるものとす

第五、銀行法の改正、一國の貴金屬保有高は其經濟上の自然の必要により決せらるへしと雖も銀行法の如何も亦其額を律する一原因を爲すものとす去れは一國の銀行法改正せられ其兌換劵若くは預金に對する正貨準備額に變化を來し又

は其發行する所の兌換劵の額面に變更を生する時は或は正貨の餘剩を來し或は之か補足を要するに至るへきを以て銀行法の改正は貴金屬移動の一原因たるを失はさるなり

第六、信用の情況、一國の金融俄に變調を呈し信用緊縮の形勢を現するときは銀行は汲々として其支拂準備金を維持せんとし商工業者は平素の如く資金の融通を得る能はす其債務の履行上甚しく苦痛を感すへし斯る場合に於ては貴金屬の需要は俄に加はらさるを得すして金利は暴騰し貴金屬の急速なる輸入を要するや論を俟たす恐惶襲來の兆ある場合に歐米市場間に貴金屬の移動を見るか如きは其實例なり既にして市場恢復するに及ては漸く貴金屬の餘剩を來し其需要縮減すへきを以て之か再輸出を見るは亦當然の結果なりとす

第七、割引步合の引上、金融市場變調を呈する場合は勿論平素と雖も或る原因より銀行の支拂準備金薄弱を告け急に回復するの望なく信用の基礎危からんとする形勢あるときは各國の銀行は之に對して種々の方策を施し支拂準備金の潤澤を期すと雖も就中其效果の最も大なるものを割引步合の引上とす割引步合の引上は克く正金の流出を防遏し其流入を促かすの效あるものにして若し一市場の割引步合と他國の步合との差か正金を輸入して尙ほ利潤を生する程大なるに於ては正金の移動を實現するものとす

以上列擧せる所は現今國際間貴金屬移動の主要なる原因を爲すものとす然而して上揭諸原因は之を其性質上より分類して貴金屬新供給の輸送國際債務の辨濟國際貴金屬配分上の變化及ひ金融的移動の四別となすとを得へし即ち前揭第一の原因は第一類に屬し第二及第三の原因は第二類に屬し第四及ひ第五の原因は第三類に屬し第六及ひ第七の原因は第四類に屬するものとす然れとも實際上貴金屬の移動は同一の形式によりて行はれ其原因の何れの種類に屬するやを判別すると困難なる場合往々あり例へは國際證劵の移轉に對して貴金屬の輸送を見る場合の如く或は其永久的賣買により國際貸借を生したる結果として起るとあり或は金融市場の情況により其一時的賣買若くは其を擔保とせる資金の融通を促かしたる結果として起るとあり其原因の性質より云ふ時は前者は第二類に屬し後者は第四類に屬し全く相異なるも其形式は孰れも同一なるを以て若し實際

上屢々起るか如く二原因同時に其作用を現はす時は彼是之を區別し其比例を算定すると容易ならざるか如し

本章參考書

Ricardo, Works (Mcculloch's edition), pp. 79-86,263 ff.
J. S Mill, Principles of Political Economy, Book III, chs. XIX, XXI
Senior, The Transmission of the Precious Metals from Country to Country.
Walker, Money, ch. III.
Nicholson, Principles of Political Economy, Vol II, ch. XXVI, § 11-15.
Roguet, Currency and Banking, ch. IV.
Kinley, Money, ch. VI.
Laughlin, Principles of Money, ch. X.
Whitaker, The Ricardian Theory of Gold Movements and Prof. Laughlin's Views of Money—Quarterly Journal of Economics, Vol. XVIII, No. 2.
Helfferich, Das Geld, II Buch, IV Abschnitt, II Kap. §2-3.
Clare, The ABC of the Foreign Exchanges.
佐野善作　銀行論第三版第三章第四章第七章第八章

第十章　經濟の發達と貨幣の分量

第一節　交換の增加と金屬貨幣の需要——第二節　交換の媒介に對する需要の增加と信用行使の增進——第三節　信用行使の增進と金屬貨幣の增殖との交替的現象——第四節　交換媒介の需要の增加と流通用貨幣の效程の增進——第五節　一國の要する金屬貨幣の額——本章參考書

第一節　交換の增加と金屬貨幣の需要

經濟の發達商業交易の增加が如何に一國の金屬貨幣の需要に影響するやは頗る重要なる問題にして之を解決せんには先つ其國の要する貨幣の額如何其國に行使せらるゝ支拂の具は如何なるものを以て構成せらるゝや金屬貨幣と其代用物との比例は如何經濟の進步は交換の媒介の各成分に如何なる變化を來すへきや等の各事項を討究せさる可からす然れとも是等の事項に關しては英國正統學派の研究殆と絕無にして吾輩現今の知識亦甚た淺薄なり隨て此重要なる問題は尙ほ多く討究の餘地を存せり

凡そ世界上一國の享くる貴金屬貨幣の配分は其國人口の情況交易の多寡及性質物價の高低竝に信用行使の情況等により左右せらるゝと雖も金屬貨幣と其他の支拂の手段との關係は之を明かにすると最も難し何とならは人口の增加交易の增進は大に國民の經濟的活動を皷舞し經濟機關の效程を進むれはなり然れとも其關係の情態を敍述するは全然不可能の事にあらす

惟ふに商業交易の增加は交換の媒介に對する需要を喚起すと雖も必すしも金屬貨幣の增殖を要せさるものとす更に之を詳言すれは交易の增加は交換の媒介の數量的增加若くは效程的進步を要するものにして永時に亘りて論するときは畢に金屬貨幣の數量の增加を要するや勿論なりと雖も其急劇なる增加は必すしも之を必要とせす從來存在せる金屬貨幣を用ゐて一層多額なる交易を行ふの方法に乏しからさるなり

同一額の金屬貨幣を用ゐて一層巨額の交易を行ふ方法の主要なるもの四あり曰く物々交換を多くすると曰く物價の平準を低落せしむると曰く交通を開發し貨幣の效程を增すと曰く信用行使を增進すると是なり而して社會か是等四方法中何れの方法を採るかは其時其場合に最も犧牲の小なるものを採擇すると勿論にして是れ當さに經濟の理の然らしむる所とす然而社會は一時是等の方法を採用して其急に應すへしと雖も交易愈增進し終に是等の方法を以てしては多大の犧牲を爲さるゝを得す新に金屬貨幣の數量を增殖する方却て利益なるとを發見するに至れは玆に始て金屬貨幣の獲得に努むへきなり

經濟の進步と共に交換の媒介を要すると愈切なるに當り之に應せんか爲め社會の常に行ふは犧牲の最も小なる方法にして其主要なるもの上揭の如し而して尙ほ其結果として玆に特に記せさるを得さるは社會は常に其金屬貨幣の保有量を最小の程度に止むる傾向を有すると是なり蓋し金屬貨幣の獲得に要ずる社會の犧牲は甚大なるを以て社會か其商業交通上必要とする貴金屬の分量を超へて之を保有せんとは經濟上不利益にして社會の克く爲し能ふところにあらさるへし去れは如何なる社會と雖も或特殊の事情の存在せさる限りは直接流通上竝に支拂準備用に必要なる分量を超過して貴金屬を保有するか如きとなかるへきや必せり

第二節　交換媒介の需要の増加と信用行使の増進

經濟の發達交換の增加に隨伴して起る交換媒介の需要の增加に應する方策に種々あると前節に述へしか如し而して貴金屬の獲得以外各種の方策中犧牲の最も小なるものを索むれは先つ指を信用行使の增進に屆せさるを得す蓋し物々交換の如きは需要供給の投合を得ると極めて難く其方法に依る交換の犧牲甚大なるは言を須ゆるの要なし又物價平準の下落は貸借關係を攪亂し大に企業の發達を阻害するを以て決して策の得たるものなりと謂ふ可からす又交通の開發は多大の資本勞力を要すると貴金屬の獲得に遜らさるを以て遽かに望み得へき所にあらさるなり然るに信用行使の增進に至つては若し其社會の人民か從來既に之か利用に慣るゝに於ては容易に之を實行し得へく隨つて各種の方策中犧牲の最も小なるものたるは疑を容れさる所とす然りと雖も信用元と貴金屬貨幣を保證として構成せらるゝものなるが故に其增進は無限に之を行ふ可からす或程度を超過する時は恐るへき危險を生すへきを以て其程度以上の擴張は貴金屬の力に藉らさるを得さるなり換言すれは信用の行使は大に貴金屬の需要を減すと雖も其擴張は亦自ら其需要を喚起するものとす

信用の行使を增加するに二個の方法あり即ち一は信用制度其物の改善にして他は從來の制度を維持し其行使の區域を擴張すると是なり例へは信用機關たる銀行に就て謂へは前者は兌換劵竝に預金に關する銀行法の改正又は銀行の合同若くは經營法の改良等によりて行はれ後者は其增設若くは支店出張所の增殖等により行はるゝか如し然而信用行使の增進は特別の障碍の存せさる限り右二個の方法を同時に行ふによりて其目的を達するを常とす

交換媒介の需要の增加は社會の信用制度を刺戟して其改善と擴張とを促かし愈々其行使を盛ならしむると上述の如しと雖も亦之と同時に其利用を容易ならしむるものとす是れ看過すへからさる事項にして世の必要は自ら之に應する方法を供すと謂ふへきなり蓋し人口の增加市街の繁榮交通の開發等は社會各部の商業的關係をして一層複雜にして且つ密接ならしめ各人の經濟的相互倚頼をして

一層切ならしむるものとす要言すれば社會の經濟的結合をして一層鞏固ならしむるものとす而して此變化は各人を接近せしめ其相互の信認を強め以て信用の利用をして一層容易ならしむへきや明白にして愈信用行使を增進せさるを得さるなり

然りと雖も前にも述へしか如く信用の增張は無限に行ひ得へきものにあらさるを以て一旦其限度に達するときは社會は最早他の方法を以てするにあらすんは其增加する交換媒介の需要に應すると能はさるものとす抑も信用增張に限度ありとは信用の分量と其保證たる貴金屬の分量との比例に自ら限度あり其點以上の擴張を許さゝるとの外尙ほ三個の理由の存在に基けり即ち第一は數學上の必要第二は交易增加の程度と信用の增張との關係第三は世の進步に隨伴する支拂期限の短縮即是なり以下順次之を說明せん

第一、數學上の必要　元來交換の媒介は獨り信用のみを以て形成するものに非さるを以て總ての交換の媒介に對する信用の比例は百分百以下ならさるを得さるや勿論なり去れは支拂の額十倍に增加せは信用行使の額亦十倍し得へきも交換の媒介の全體に對する信用の比例は無限に增加すると能はさるは數學上明白なるとなりとす之を代數學上坐標軸式 Co-ordinate を以て說明せば縱線 Ordinate の y は百を超過すると能はさるも橫線 Abscissa の x は無限に增加し得へし然るときは全體の交換媒介に對する信用の比を示す所の曲線 Curve は終に x の軸に平行すへき傾嚮を有すへきなり

第二、交易增加の程度と信用の增張との關係、凡そ信用の利用には自ら單位ありて存し社會に於ける交換媒介の需要の增加か其單位の增殖を値する場合にあらすんは其の利用を增張し得へきものに非さるなり是れ恰も鐵道の運輸上に自ら一定の單位あり其單位以內の擴張を許さゝるか如し蓋し鐵道の營業に於て乘客貨物の增加あるも其增加より生する利益か汽罐車車輛其他の設備の一單位の增加に要する費用を補ふて餘ある場合にあらすんは事業の擴張は鐵道業者の敢てする所にあらさるへし信用と雖も亦然り世の經濟進步し交易增加するも信用の一單位を增加するに要する費用を辨するに足る丈の分量を以てするにあらさるよりは社會は敢て信用の擴張をなさゝるへく其點に達するまては或は物價の

低落を忍ひ或は貴金屬を增殖して交換の媒介に資するを以て却て經濟上利益なりとすへきなり

第三、支拂期限の短縮、經濟の進歩が支拂期限を短縮するの傾向を有するとは蓋し疑ふへからさる所にして賃銀給料等の支拂か漸く年拂若くは季拂より月拂となり更に週拂となるか如きは吾人の目擊する所の事實なり而して支拂期長き時は日常物品の購買上自然長期の掛賣買を要すへきも支拂期短縮する時は自ら現金取引を多く行ふに至るへし而して物品購買の都度現金を以て其代金を支拂ふ時は其一口の支拂高は自然に小額ならさるを得さるか故に信用證劵を使用するよりも寧ろ金屬貨幣を用ゆるを便利となすへきや明かなり

之を要するに交換の媒介に對する需要の增加と信用の利用との關係は亦社會は同一の效用を得へきに於ては犧牲の最も小なる方法を擇むへしとの原則により て支配せられさるを得すして信用か交換の媒介を增加するに最も廉價なる手段たる間は其利用區域の擴張若くは其制度の改善によりて之か利用の增進を見るへし然れとも信用の增張には限度あるを以て既に其限度に達するときは社會は尙進んて之か增張を計らんよりは寧ろ貴金屬を獲得するを以て廉價なりとし一時之か增殖を計るへきなり然而して交換の增加愈熾にして之に對する交換の媒介の需要愈急なるに當り更に貴金屬を獲得して之に應せんより信用の利用を增張する方犧牲小なるに至るに於ては信用の增張は茲に再ひ現出するに至るものとす

第三節　信用行使の增進と金屬貨幣の增殖との交替的現象

前節に述へしか如く經濟進步し交易增加するときはこれに應して交換の媒介の增殖を要すと雖も其增殖は場合により或は信用の擴張により或は金屬貨幣の增加によりて實行せらるへし而して此二者は交替的に實行せらるゝを常とす(然れとも信用の擴張其限度に達し將に金屬貨幣の增加を見んとするに當りては一時物價の下落を見ると往々ありとす)更に之を詳言すれは例へは茲に一定の商業取引額を有する一社會あり一定の金屬貨幣を流通用竝に支拂準備用に使用すと假想せんに若し人口の增加其他の原因より交易盛大を加ふるに至る時は其金屬貨

幣は物價を下落するとなくして之に應するとを得へきや否やと云ふに一時は信用の改善若くは擴張によりて之に應するとを得へきも信用の增進には自ら限度あり無限に膨脹し得へきものにあらさるを以て必す久しからすして窮迫し尙其擴張を計らんとせは莫大の犧牲を忍はさるを得す寧ろ新に貴金屬を獲得して支拂の用に供する方利益なることを發見するの時期に到來すへし然るときは社會は信用の擴張を中止して一層犧牲の小なる貴金屬の獲得に從事すへきなり然れとも貴金屬の獲得も亦固より容易の業にあらす多大の費用を要するとなるを以て其實行前或は一時一般物價の下落を現出するとなきを保せさるなり已にして貴金屬貨幣の或分量新に流通用に加はり交易の增加に應するとを得るときは其獲得は玆に中止せられ交易盛大となり更に交換の媒介の增殖を要し其需要か信用の一單位の增進を値するに足るときは社會は再ひ信用の擴張を實行すへし斯の如くにして信用の擴張と貴金屬の增加とは常に交替的に起るものとす然りと雖も此交替的現象なるものは實際上截然區分し得へきものにあらすして信用の增進と貴金屬の獲得とは同時に實行せらるゝと多し唯或時期に於ては信用の增進の方貴金屬の增加よりも一層顯著にして他の時期に於ては之に反して信用の增進漸く其勢を減し貴金屬の增加盛となり此二現象は交替的に起るを例とすと云ふのみ

以上は或一國に於ける交易の增加に應する交換の媒介の增加の有樣を敍述せるものなるがこの現象の世界諸國を通して現出する情態は決して單純ならす諸國の經濟的進步の遲速と其に伴ふ貴金屬の比較的需要の大小は先つ貴金屬の國際的移動を惹起し畢に世界を通して如上の交替的現象を現出するに至るものとす即ち若し世界中或數國の經濟上の進步特に著しく交換媒介の增加を要すると最も急なるときは是等諸國は先つ之に應せんか爲め各其國內既存の信用機關をして其最大作用を爲さしめんとに努め其餘力盡き愈正貨を獲得せさるを得さるに及んて各自必要に應し其供給を經濟上の進步一層緩慢にして而かも貴金屬の移動上費用の最も小なる諸國に仰くへし即ち斯場合に於ては前者に於ける貴金屬の需要は後者に於けるよりも比較的大ならさるを得さるか故に後者に於ける貴金屬は前者に向て移動し結局諸國の貴金屬に對する比較的需要の均衡を得るに

及んで始めて止むへきなり然る時は前者に比し經濟の進歩一層緩慢なる後者も亦貴金屬の減少と交易の增進との二個の原因より交換の媒介の缺乏を感するに至るへきを以て亦之に應せんか爲め既有の信用機關をして其最大作用を營ましめんとを努め其餘力なきに及んて前者諸國と相帥て終に貴金屬の增加を圖るに至るへきなり斯の如くにして或國の交易の增進は其影響を他國に及ほし尋て世界全般に波及し終には世界全體が恰も一國の如く齊しく交換の媒介の缺乏を訴へ之に應せんか爲めには一國の場合と同しく先つ既存信用機關の作用を高め其限度に達するに及んて貴金屬の獲得に着手し其の適當なる分量を得るに至るまて或は一時物價の下落を現出すへし而して貴金屬の適當なる分量の增加を見るに及んで物價は恢復し再ひ交易の增進に遭ふて復た信用の擴張を見るものとす

第四節　交換媒介の需要の增加と流通用貨幣の效程の增進

凡そ社會經濟の進歩は交通の開發生產法の革新商業取引法の改善等を伴ふものにして斯る時勢に際しては貨物の生產額及ひ其取引額の增加は其當然の結果とし

して起り大に交換の媒介の需要を喚起するものとす而して信用の擴張の之に應する良策たるとは既に論述せしか如くなるか其と同時に流通上に於ける貨幣の效程の增進の交換の媒介の需要に及ほす影響も亦重要なる事項にして看過すへからさるとに屬す

新に交通を開發して貨幣の效程を高むるは交換媒介の需要の增加に應する一手段なりと雖も是れ巨大の出費と或る期間とを要し社會の遽かに行ひ得へき所にあらす然れとも交通の開發は交換媒介の需要を增加せる經濟の進歩其物に隨伴する所の一現象なるを以て經濟進歩し交易增加する社會は即ち交通の益々開發せられつゝある社會なりと認め得へきなり去れは其結果として起るへき流通上に於ける貨幣の效程の增進と交換媒介の需要の增加との關係は必すや信用の擴張に影響を及ほさゝるを得さるなり

抑々流通上に於ける貨幣の效程の增進とは信用の準備以外に於ける正貨幣の仕遂くる仕事の分量の增加を意味するものにして其增加は交通の開發商業取引法の改善等の結果として起り正貨を用ゐて行ふ賣買取引を盛にすると同時に此方

面に於ける正貨の用を減し其一部をして準備用に向はしめ以て信用の擴張に資するを得せしむるものとす即ち社會の經濟進歩し交換貨物の分量大に增加し交換媒介の增殖を要するときは社會は先つ其需要に應せんが爲め先つ信用の擴張を行ふへし然る時は準備用正貨の效程大に增進すると同時に其效用亦大に增加し社會は流通用貨幣の一部を割て準備用に加るを以て利益とするに至るへし然るに斯る場合に於ては交通の開發商業取引法の改善等の結果として流通用の正貨も亦大に其效程を進め從前よりも遙かに多額の交換に資せられ或は其結果として其一部は流通上殆と不用に歸すへきを以て流通用貨幣の一部は茲に其用途を轉して準備用に供せらるゝに至り此兩途に於ける正貨は愈々其效程を高め從前に倍蓰せる貨物の交換を行ひ得るに至るへきなり之を要するに信用の擴張と流通上に於ける正貨の效程の增進とは相須て交易の增加より來る交換媒介の需要を充たすものにして信用の擴張は流通上に於ける正貨の效程の增進に待つ所尠なからさるなり

第五節　一國の要する金屬貨幣の額

一國の要する金屬貨幣の額は吾人今日の智識を以てしては到底確定すると能はさるなり蓋し一國の人口交易の額物々交換及信用取引の多寡貨幣の效程企業の規模交通の情況商業取引の方法及ひ人民開化の程度等は其國の要する金屬貨幣の額を定むる要件なりと雖も是等諸項の精密なる調査は最も困難なる業にして且つ其相互の影響及ひ關係の如き殆と之を知悉すると能はさるなり

然りと雖も本章各節に論せし所は大小各社會の用ゆる金屬貨幣及ひ交換の媒介の比較的分量に關して幾分か光明を投するとを得へきなり例へは茲に或分量の金屬貨幣を有し信用を利用し人口商業共に增進しつゝある一社會ありと假想し實際流通の金屬貨幣の分量をAとし銀行の支拂準備金の分量をBとし信用形式による支拂手段の分量をCとせはA+Bは金屬貨幣の總量にしてA+Cは交換媒介の總額なり然るに今此社會に於て交易增進せは右A+Cのみにては到底之に應すると能はさるに至るを以て社會は必すや或方法を以て交換媒介の增殖を計らさ

るを得さるへし而して現今の文明社會に於て斯る場合に先つ第一に採る方法は信用の擴張なれは茲に從前と同量の準備金を以て一層多額の信用形式の創設を見るへきなり既に信用の擴張あれは準備用正貨の效用は愈增加し其結果準備用及ひ流通用に於ける正貨は復た從前の如く其間に效用の權衡を保つ能はさるに至るべきや明白なり然るに斯の如き際には流通用正貨の效程も亦大に增加すへきを以て假令社會の正貨を以てする交易の數量增加するも之に要する正貨は從前に比し減少すへきを以て茲に準備用及ひ流通用正貨の配分に變化を來し後者の一部は其用途を變して前者に加はり更に一層の信用の擴張に資するに至らん然る時は其結果は左の如くなるへし

$A-X=A'$……流通用金屬貨幣の額

$B+X=B'$……支拂準備金屬貨幣の額

C'……信用形式の額

$C'>C$

$A'+C'$……交換媒介の總額

然り而して右C'はB'即ちBとXとの和の上に構成せらるゝ信用形式の總額なれとも其分量はBの上に構成せられしCに比し絶對的にも比較的にも遙に大ならさるを得さるなり何とならは信用擴張の結果$B+X.C'>B.C$なると明かなれはなり又$A'+C'$は單り數量に於て$A+C$より大なる而已ならす效程に於て遙に優るか故に社會の交換の媒介は非常に增加したるものと認めさるを得さるなり

$A'+C'>A+C$

然れども前節にも述へしか如く信用の增張は久しからすして其限度に達し加之人口の增加支拂期限の短縮等の諸原因は愈々流通用として金屬貨幣の需要を增加し最早從來の金屬貨幣のみにては復如何とも爲すへきの術なく終には一時物價の下落を現出するの止むを得さるに至り其犧牲は漸く新に貴金屬を獲得するを以て得策とするを知らしめ茲に貴金屬の新供給(y)を見其貴金屬は先つ流通用に供せられ社會の有する金屬貨幣の總額は$A'+y+B'$となり交換の媒介の總額は今や$A'+y+c$たるに至るへし既にして交易愈增加し交換媒介の需要更に加はり信用の一單位の擴張を値するに至らは(y)の一部は又準備金中に編入せられ尙ほ

不足を感するに於ては更に貴金屬の新供給(z)を獲加し銀行準備金は$B+x+\frac{y}{n}+z$となり其上に構成せらるへき信用形式C″はC′よりも一層大なるものとなり終に社會の交換媒介總額は$A'+y-\frac{y}{n}+C''$なる式を以て示さるに至るへきなり

以上は一國の要する金屬貨幣の分量と交換媒介の分量との間に於ける關係の大要なるか吾輩は右敍述せし所により二者の關係上左の斷定を下すとを得るなり

一、世界貴金屬の年々產出額一定なりと假想するも(實際一定するものに非す)金屬貨幣の供給は信用形式による支拂方便に對して常に不規則の增加を現するものとす

二、金屬貨幣の額は交易の增殖に伴ひ其割合に照準して增加するものには非す

三、準備用正貨の額と其上に構成せらるゝ信用形式の額との間には一定の比例存在するとなし

本章參考書

Kinley, Money, ch. VII

Laughlin, Principles of Money, ch.II.

Kleinwächter, Lehrbuch der Nationalökonomie, S 343 ff

第十一章　貨幣の價格

第一節　意義及研究の範圍——第二節　貨幣數量說——第三節　貨幣の價格——第四節　交易の增加と貨幣の價格の平準——本章參考書

第一節　意義及ひ研究の範圍

貨幣の理論中最も錯雜し且つ最も困難なる問題を貨幣の價格とす抑も貨幣の價格は其一單位の購買し得へき貨物の分量によりて指示せらるゝものなりと雖も其貨物たるや或特種の貨物を指すものに非すして社會に存在せる有ゆる經濟貨物の綜合てふ無體的觀念を以てせる貨物を謂ふものとす更に之を詳說すれば貨幣の價格を指示する貨物とは市上萬般の交換貨幣の集合にして其單位中には各種の特種貨物の或分量必す包含せられ其一單位と其中に含有せらるゝ各特種貨物の分量との割合は市場に於ける有ゆる交換貨物の總量と各特種貨物の全量との比例と同一なる者とす然則貨幣の價格とは上述せる綜合的無體貨物と貨幣と

の關係問題にして或特種の具體的貨物と貨幣との關係にあらざるなり再言すれは貨幣の價格と云ふ時は一般物價の平準は如何と云ふ義にして何故に甲貨物は一圓にして乙貨物は二圓なりやと云ふ義にあらざるなり前者は貨幣と一般貨物との關係に關する問題にして後者は或特種貨物と他の特種貨物若くは貨幣との關係に關する問題なりとす。

貨幣價格の意義概ね上述の如し然而貨幣の價格は一の社會的現象にして箇人的現象にあらざるなり凡そ箇人の貨幣に對して認むる所の價値は各人によりて差異あり到底歸一すへきものにあらす隨て一般的論究を許さすと雖も社會に於ける交易上の競爭は終に一定の交換比例を生出すへきを以て之を社會の見地より する時は所謂貨幣の社會的價格なるものを認め得へきなり本章討究する所は即ち此社會的價格に他ならさるなり

貨幣價格の意義及性質右述へしかし如し今や此問題を討究するに當り講述の便宜上豫め其範圍を劃する要あり本章に於て論する所の貨幣は各種の貨幣中所謂貨物貨幣 Commodity money(金屬貨幣は即ち一種の貨物貨幣にして文明社會の貨物貨幣なりとす)に限り紙幣の類を包含せしめさるへし(紙幣の價格は後章別に之を論すへし但し紙幣及各種信用形式の金屬貨幣の價格に及ほす影響は本章に於ても之を論せさるを得さるなり)又貨幣中名目貨幣と稱すへきものは特別の理由により其名目價格を以て流通するものなると既に第七章に論せしか如くにして茲に之を再論するを要せさるを以て本章に於ては特に之に論及するとなかるへし

第二節　貨幣數量說

貨幣の價格は往時極めて單純なる學說を以て說明せられたり即ち貨幣の價格は其分量に逆比例し分量增加するときは其割合を以て價格を減し物價を騰貴せしめ分量減少するときは其比例を以て價格を增加し物價を低落せしむるものなりとせり之を貨幣數量說 The Quantitative Theory of Money と云ふ例へは茲に一千單位の交換すへき貨物あり之に對する貨幣の分量一千單位ありと假想するときは其割合は貨物の一單位に付貨幣の一單位なり而して其貨幣の一單位を一圓と稱するときは貨物一單位の價は一圓なるへく貨物の總量一千單位の價は千圓なるへ

し然るに今貨幣の數量を二倍して二千單位となすか若くは貨物の數量を半減して五百單位となすときは貨物一單位に付貨幣二單位の比例となるを以て貨物一單位の價は二圓となり貨物全體の價格は二千圓となるへく之に反して貨幣の數量五百單位即ち五百圓に減するか若くは貨物の數量二千單位に增加するときは貨物一單位の價は半圓となり其全體の價は五百圓となるか如し

以上は貨幣數量說の原始の形態なり現今に於ては新數量說とも稱すへきもの出て同說に所謂貨幣の內容を擴張し又其流通の回數を斟酌する等自ら其形態を異にするに至りしと雖も根本の道理に至りては右に述へし所と毫も異なるとなきもの尙ほ一派の學者によりて支持せられつゝあり今左に同學說の沿革を略敍し以て之を祖述する學者の地位を明かにせん

貨幣數量說の始祖として目すへき人之をジョンロックとなす(羅馬のジュリヤス、パウラス Julius Paulus は第三世紀の初めに此說を爲せしも其語辭明確ならす Pandects II, XVIII, p. 147.) ロックは千六百九十一年を以て一書(Locke, Some Consideration of the Consequence of the Lowering of Interest)を上梓し貨幣數量說を創始せり ロックに繼て同說を唱道せし重なる者はジョンロー、モンテスキュ、デビッド、ヒューム、ジョセフ、ハルリス等(John Law, Money and Trade Considered, with a Proposal for Supplying the Nation with Money, Edin., 1705; Montesquieu, L' Esprit des Lois, Geneva, 1748; David Hume, Essays, Moral, Political and Literary, 1752; Joseph Harris, An Essay upon Money and Coins, 1757)にして千七百六十七年に至りサー、ゼームス、スチユワートか之に對して疑義を挿みしまて(Sir James Steuert, An Inquiry into the Principles of Political Economy)メルカンチリズムの學者によりて一般に眞理なりとして遵奉せられたり

アダムスミスは物價に廣義の解釋を下し生產費を以て其主なる原因なりと主張し貨幣數量說を認さりしものゝ如し(Wealth of Nations, Book I, ch. V and Book II, ch. II.)

リカードは物價を解釋するに二個の相矛盾せる學說を用ゐたり即ち一方に於ては貴金屬の價格は其生產費によりて決定せらると曰ひ他方に於て不換紙幣を論するに當りては凡そ貨幣は其實價遙に名目價格より小なるも其分量大ならさる限りは其名目價格を以て流通するものなり蓋し不換紙幣は百パーセントの造幣料を課したる貨幣に他あらず故に其分量大ならされは其價格下落する者に非

すと曰ひ以て貨幣數量說を唱へ從來同說に所謂貨幣の中に紙幣をも包含せしめたり(Ricardo's Works)ヘンリーソーントン亦一方に於て物價は貴金屬の價格と他の貨物の價格との比例なりと主張し他方に於て貨幣數量說を唱へ自家撞着を免る能はざりき(H. Thornton, Enquiry into the Nature and Effects of the Paper Credit of Great Britain)其他カレンシー主義の論者は皆貨幣數量說を遵奉せり蓋しバンキング主義の學者とカレンシー主義の學者との主なる爭點の一はラフリン氏の指示せしか如く(Principles, ch. VII, §5-6)貨幣數量說を承認すると否とにありしなりセニオルも亦生產費學說を主張すると同時に貨幣數量說を唱へ信用も亦物價を騰貴せしむる原因をなすものなれは貨幣の一種と見るを正當とすと曰へり(Senior On the Cost of Obtaining Money)即ち貨幣數量說に所謂貨幣はリカードーによりて紙幣をも包含するものとせられセニオルによりて更に其範圍を擴張せられ信用も亦貨幣の一なりとせられしなりジョン、スチユワート、ミルはバンキング派の學者なれとも亦貨幣數量說の感化を脫すると能はす其物價論を講するや生產費の學說と貨幣數量說とを混用したり加之ミルは全くリカードー及セニオルの所說を採り價格の比準たり支拂の標準たり且つ交換の媒介たる貴金屬貨幣と單に交換の媒介たるに過きさる紙幣及小切手の類とを區別せす齊しく皆貨幣なりとし其分量の增減は必す直接に物價を騰落せしむへしと論せり(Principles, Book III, chs. VII—XII.)

右述るか如く貨幣數量說は近世に至りて漸く其原始の形態を失ひ同說に所謂貨幣の範圍大に擴張せられ之と同時に貨幣流通の速度 Rapidity of Circulation なるもの加味せられ今や貨幣數量說は左の如き算式を以て示さるゝに至れり

$$\frac{\text{交換貨物の分量} \times \text{交換の度數}}{\text{貨幣(正貨紙幣小切手等)の分量} \times \text{流通の度數}} = \text{貨幣の價格}$$

即ち貨幣の價格は或格段なる時期に於て交易の爲め提供せられたる貨物の單位の數量を總ての交換の媒介の單位の數量を以て除したる商なれとも其同期間に於ける貨物の賣買移轉の回數及ひ貨幣使用の度數即ち其效用を盡す程度は當さに酌酌を要する點にして畢竟貨幣の價格は貨物の數量に其移轉の度數を乘したるものを貨幣の數量に其流通の度數を乘したるものにて除したる商なりとす故に貨物の數量其交換の度數及び貨幣の流通の度數に變化なき時は貨幣の價格は

其數量に反比例すべしと云ふに在るなり

然而現今貨幣數量說を奉する學者其數尙ほ尠なしとせず又同說を奉する者の所說必すしも全然合致せざるか如しと雖も同說を唱ふる者は大抵皆複本位論者たるの觀あり是れ蓋し世界各國が皆金貨單本位の制を採るに於ては貨幣用貴金屬の供給潤澤ならすして甚しく物價を動搖せしむへしとの論據に基くものなるへし米國のウォーカー氏(Discussions in Economics and Statistics, I, 211; also 193-236)英國のニコルソン氏(Money and Monetary Problems, Pt. I, chs. V & VI.)の如きは其の錚々たる者なり

貨幣數量說か貨幣の價格を說明する唯一の法則として永時多數の學者によりて遵奉せられしこと上述の如し果して同學說は正當なる學說なるや抑も貨幣の價格なるものは斯る單純なる學說を以て說明し得へきものなるや請ふ次節の研究を俟て其正否を檢せよ

第三節　貨幣の價格

貨幣價格の意義は第一節に於て既に之を說明せり今や貨幣の價格は如何にして定まるものなるやを明かにせんとするに當り先つ其研究の方法を劃定するの要あり蓋し貨幣價格の物たる種々の事項の交涉的現象にして頗る錯雜せる問題なるを以て之を研究せんには先つ或一事項を捉へ其單獨の作用を究め然る後順次他の事項を追加して其各作用を論するを以て最も當を得たる方法なりとす而して吾輩は本問題を講究するに中り先つ第一に貨幣として用ゐらるゝ貨物の獲得と使用とに要する社會の犧牲と其效用との關係を論し次に其貨物の貨幣用としての效用と他の用途に於ける效用との權衡を究め第三に貨幣の效用と其價格との關係に及ひ第四に貨幣以外の交換法幷に貨幣の用を省約すへき利器の貨幣價格若くは物價に及ぼす影響如何を討究し最後に貨幣の分量と其價格との關係に關し貨幣數量說を批評するの順序を採らんとす

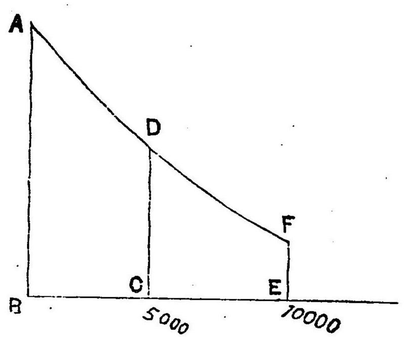
第一　貨幣として用ゐらるゝ貨物の社會に與ふる效用と其獲得行使に要する犧牲、此問題を攻究せんか爲め吾輩は今貨幣用の外一切他に用途を有せさる物質を以て成る貨幣を想像し貨物の交換每に必す之を使用し全然信用及ひ物々交換

法の行使を無視し以て其一定の分量と貨物の一定の分量とを對峙せしむへし

凡そ交換法の社會に與ふる效用とは社會か其方法の利用を開始したる爲め從來浴すること能はさりし貨物の效用を新に獲得するによりて生するものにして交換を爲し有無を相通して社會の得る所の利得は即ち之を馴致せる交換法の效用を定むるものとす今例を設けて之を說明せんに例へは茲に從來一切交易のことを知らす各人其生產する所の物を自ら消費する社會あり或一定の期間若干單位の貨物を消費す然るに其社會に於て突然貨幣なる交換の利器を發明し之を利用したる結果各人消費の殘部たる廢物は新に利用せらるゝに至り同一の期間更に若干單位の貨物を消費上に加ふるを得るに至りしと假想すへし此の場合に於て貨幣の其社會に與へし效用如何と云ふに社會は貨幣を用ゐし爲め新たに若干の貨物を消費に加へしものなれば其新貨物の社會に與ふる效用詳言すれは效用より運搬其他の勞費を控除したるものなれとも說明を簡單にせんか爲め暫く勞費を無視す)は即ち貨幣の效用たらさるを得さるや明かなり換言すれは貨幣の效用なるものは貨物の效用の映象に他ならすして其行使により發生せる貨物の效用は即ち其貨物の效用たると同時に貨幣の效用を成すものとす然則貨幣の效用は貨物の效用を支配する法則に從はさるを得さるや亦自ら明白なり凡そ貨物の總計效用 Total utility なる者は或程度までは其分量の增加と共に增加するものなりと雖も其疆界效用 Marginal utility は一般に謂ふ時は分量の增加に隨て減少するものとす去れは貨幣の效用も亦然らさるを得すして其總計效用は分量の增加と共に愈大なるへきも疆界效用は漸次減少すへきなり更に圖式を用ゐ　上述せし所を說明せんに例へは前例の社會に於て五千單位の貨幣を用ゐて交換を爲すときはX單位の新貨物起り貨幣の數量を二倍にし其一萬單位を使用するときはX＋Y單位の新貨物生すとせは貨幣の效用は當さに左圖に示すか如くなるへし

圖解—BCEの水平線を以て貨幣の數量を示しAB、DC、FEの垂直線を以て其效用を示す

此圖に於て五千單位の貨幣を用ゆるにより社會の得る所の總計效用はABCDの面積にして疆界效用はDCの高さとす而して貨幣の分量一萬單位に增加する時は總計效用は增加してABEFとなり疆界效用は減してFEの高さとなるへ

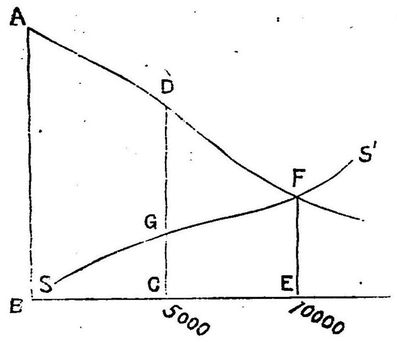


し然れともFEは必すしもDCの二分の一にあらすADFなる曲線の位置の如何により或は遙に其二分一よりも大に或は僅に其十分一にも及はさることあるへし由是觀之貨幣の總計效用は其分量の增加か最早毫も效用を創出せさるに至る點(上圖に於てはAFの曲線を伸張しBEの水平線を折斷する點)若くは其效用か犧牲と伯仲するか又は犧牲に及はさる場合(犧牲に就ては後段説明する所を參考せよ)に達するまて分量の增加と共に增加し彊界效用は分量の增加と共に愈減少すへしと雖も其增減は決して分量の伸縮と比例を保つへきものに非さるなり

以上は説明の便を圖り從來自給經濟を營みし社會を假想し廢物利用による效用の創設を以て貨幣の效用を説明せしものなるが交易經濟の下に於ける貨幣の效用は其社會に於ける交易せられたる貨物全體(貨幣用貨物を除く)の效用より犧牲を控除したるものと見るへきなり何とならは交易經濟の社會に在りては貨物は主として交易の目的を以て生産せられ交易俄に開始せられて始めて其效用を發揮するが如きことあらされはなり蓋し自給經濟の下に於ては各人の經濟上の危險は專ら生産(狹義)の方面に存するを以て人々需要額以上の生産を爲すを例とし隨て平素廢物を生すべきを以て交易を開始し其需要を喚起するときは交易の效用は其創始せる廢物の效用全部より運搬其他僅少の勞費を控除したるものに相當すへく敢て其獲得の勞費を算入するを要せすと雖も交易經濟の下にありては總ての貨物は交易の目的を以て生産せらるゝを原則とするが故に交易の效用は即ち交易せられたる貨物全體の總計效用より其總計犧牲(獲得運搬保存其他一切の勞苦)を控除したる殘部に當るへきなり

以上論述せし所は單に貨幣の效用に止より其行使に要する犧牲に關しては毫も論及する所なかりしを以て以下少しく其犧牲に就て説述すべし凡そ如何なる貨物と雖も自由に取得し得へき天惠物に非さる限りは毫も犧牲を要することなくして之を獲得す可らす貨幣の效用に對する犧牲は二個の方面に存在す曰く貨幣其物を獲得するに要する犧牲曰く貨幣を行使するに要する犧牲是なり去れは今

若しニコルソン氏に從ひ取得上毫も犧牲を要せざる「ドドボーンス」の如き物を貨幣として用ゆるも貨幣の效用に對する犧牲は貨幣の行使上に存在せざるを得さる道理なり今前例を借り其犧牲をSS′なる線を以て示す時は社會は五千單位の貨幣を用ゐX單位の貨物を獲得する時はGCの疆界犧牲を以てCDの疆界效用を得最終の單位に於て差引DGの利益を得へきも一萬單位の貨幣を使用しX＋Y單位の貨物を獲得する時は疆界犧牲も疆界效用も共にEFにして互に相伯仲し社會は最終の單位に於て毫も利得する所なきなり然則此點より以上は貨幣を增加するも社會は收支相償はさるを以て最早之を增殖するとなかるへし



世に說を爲す者あり曰く貨幣の數量は自由に伸縮し得へきものにして若し一萬單位の貨物を交換するに一萬單位の貨幣を以てせは貨幣の價格は一なれとも五千單位の貨幣を以てせは貨幣の價格は二となり二千單位を以てせは五となるへし故に貨幣の價格は之を以て交換すへき貨物の數量に變化なき以上は當に其分量に反比例せさるを得すと是れ純然たる貨幣數量說なり若夫れ論者の說の如くんは倘し極端に貨幣の數量を減し單に一單位のみとなすに於ては貨幣の價格は當さに一萬ならさるを得す之に反して一億單位を用ゆるに於ては貨幣の價格は當さに一萬分一とならさるを得さるへし是れ豈實際上起り得へき現象ならんや蓋し論者の說の如きは貨幣の性質竝に之が獲得行使に要する犧牲を無視したる暴論にして終に一顧を値せざるなり夫れ貨幣固と有體の貨物にして其用役を全ふせんには必すや汎く社會多數の人の間に分布せられ廣き地域に亘りて存在せさるを得す隨て其分量には自ら一定の限度あり漫りに之を減少すること能はさると同時に之か獲得行使に要する犧牲は亦漫りに之を增殖することを許さゝるなり若し一定の限度以內に其額を縮小せん乎交換上の障碍立ところに生し之か行使に對する社會の犧牲は大に增加し物々交換の犧牲と相擇まさるに至らん又適當の分量を超過して其額を膨脹せん乎之か爲め多大の資本勞力は必要なる生產を去て不必要なる貨幣の獲得に投せられさるを得すして貨幣材料及ひ各種貨物間に於ける生產上の利益の權衡を破るに至

るのみならす其分量の膨脹は之が行使上不便と費用とを增加せさるを得すして社會の犧牲は終に貨幣行使より享る效用を沒却するに至るへきなり果して然らは論者の說の如きは獲得上毫も犧牲を要せさる「ドドボーンス」若くは瓦礫を以て貨幣となし而かも其行使上何等の勞費を要せさる場合に非すんは眞なるを得さるや明かなり天下豈斯の如き貨幣あらんや

然りと雖も貨幣は吾人の假想せしか如く唯一回しか其用を爲さすして直ちに消滅すへきものに限らさるなり隨て貨幣の效程貨幣の分量と其成し遂くる仕事の分量との比率)の其效用及ひ犧牲に對する關係は當さに考慮すへき重要なる事項なりとす若夫れ一交換期間貨幣にして唯一回しか交換に使用せられすして消滅するものならんか或一定量の貨物を交換するに當り社會は極めて多額の貨幣を要すへく隨て其一單位の效用は小ならさるを得さるなり然れとも貨幣にして若し一交換期間幾回か轉輾使用せらるへきに於ては同量の貨物を交換するに其小量を以て足るへきか故に貨幣一單位の奏する所の效用は頗る大なるへきや明白なり即ち貨幣の價格は

貨物の單位の數		貨幣の單位數		價格
第一の場合	2	1	$=$	2
第二の場合	3	$\frac{1}{n}$	$=$	$2\times n$

上掲の如くにして若しn(一交換期間貨幣使用の度數)にして3なる時は貨幣の價格は貨幣か一回しか使用せられすして消滅する場合に比し三倍となり5なれは五倍とならさるを得さるなり去れは貨幣の効程は其效用竝に犧牲に至大の關係を有するや明白にして效程の大なる貨幣は其效用大なるか故に社會は其一單位の獲得に比較的大なる犧牲を爲し得へき道理なり然れとも前にも述へしか如く貨幣は其貨幣たる用務を完ふせんか爲めには自ら廣き地域に亘り汎く各人の間に分布せられ或分量の現存せんことを要するを以て貨幣の效程には自ら限度あり其行使の度數をして無疆ならしむる能はさるなり是に於てかnは無限なる能はす隨て$\frac{y}{n}$及ひ$n\times z$は無疆即ち零なるを得さるなり

第二　貨幣として用ゐらるゝ貨物の貨幣用としての效用と他の用途に於ける效用との權衡　上段吾輩は貨幣用の外一切他に用途を有せさる貨物を以て成る貨

幣を假設し其價格を論したり然れとも貨幣か貴金屬を以て成る時は其材料の用途は單り價格の比準支拂の標準竝に交換の媒介としてのみならす工藝用として直接消費上にも亦是あるなり去れは貴金屬貨幣の效用は貴金屬の工藝用に於ける效用と權衡を保たさるを得すして單獨に決せらるべきものにあらさるなり即ち若し貴金屬貨幣の供給か交換すへき貨物に對する適當の分量を超過し其價格下落し工藝用貴金屬の價格に及はさるときは貨幣の一部は直ちに流通市場を去て工藝用に供せらるへく之に反して貨幣の供給缺乏を告け地金に比し其價格騰貴し所謂名目貨幣たるに至る時は貴金屬は人爲的障碍の存在せさる限り直ちに造幣用に供せられ其移轉は結局右兩途に於ける價格の均等なるに至りて停むすへきなり隨て貴金屬貨幣にありては其分量は貨幣としての貴金屬の效用と工藝品としての貴金屬の效用との關係によりて制せられ漫りに伸縮し得べきものにあらす假し貨幣の供給一時餘剩を告くる場合ありと雖も前段に論せしか如く其價格か其分量に反比例を爲すか如きことあらさるなり

第三　貨幣の效用と其價格との關係　抑も貨幣の價格とは貨幣一單位の購買し得へき貨物の分量にして貨幣の總額を以て之に對して交換せらるゝ貨物の總量を除し得たる商を云ふ去れは此二者孰れか一方若くは雙方に變化を生するときは貨幣の價格は當然動搖せさるを得さるなり然れとも貨幣の效用は之に對して交換せらるゝ貨物の效用の映象に他ならさるを以て貨幣一單位の效用と其購買し得へき貨物の分量の效用とは常に必す均衡を得へきものとす

貨幣の效用と之に對して交換せらるゝ貨物の效用との二者か均衡を保つへきとは論を要せさる所なりと雖も凡そ交換は特種貨物と貨幣との交換にして綜合的貨物なるものは一の想像的のものに過きさるか故に實際市場に行はるゝ特種貨物の賣買か如何にして綜合的貨物と貨幣との間に效用の均衡を馴致すへきやを說明せさる可からす

箇人の見地より謂ふ時は總て交換は其當事者か之によりて利益を得されは決して行はるゝものに非さるか故に交換上貨幣の效用と貨物の效用とか均衡を保つとは箇人の位地より理解し得へきものにあらす然れとも市場に於ける賣買者雙方の自由競爭は或一定の割合を以て貨幣と特種貨物との交換を行はれしめ其結

果賣買當事者の交換上享受する所の餘剩利得 Differential Surplus は素より差異あるへきも結局其交換の割合は社會的價格を爲し貨物と之に對して支拂はるへき貨幣との社會的效用は均衡を保つへき道理なりとす而して斯の如くにして得たる特種貨物の效用と貨幣の效用との均衡は綜合的貨物の效用と貨幣の效用との均衡を解釋すへき鎖鑰を爲すものとす

今例を設けて市上個人間に行はるゝ各種貨物と貨幣との交換が如何にして其社會的價格を決するやを説明し然る後貨幣の效用と綜合的貨物の效用との均衡を保つべき理由を明かにせん

例へは茲に麥を賣らんと欲する者五人あり同時に之を買はんと欲する者五人あり其各人の麥及ひ貨幣に對する效用の評定左の如しと假想す

買方	甲	一圓に付麥	一斗五升以上	賣方 己	一圓に付麥　一斗　以下
	乙	一圓に付麥	一斗四升以上	庚	一圓に付麥　一斗一升以下
	丙	一圓に付麥	一斗三升以上	辛	一圓に付麥　一斗二升以下
	丁	一圓に付麥	一斗二升以上	壬	一圓に付麥　一斗三升以下
	戊	一圓に付麥	一斗一升以上	癸	一圓に付麥　一斗五升以下

今此十人相會して賣買を取組まんとし買方の者先つ一圓に付麥一斗六升の安直を呼ふとせん乎斯る安直にては賣方一人も之に應する者なきを以て買方は漸次競り上けさるを得すして終に其呼直一斗五升以下に至るときは賣買の投合は

一斗五升にては　五人買ひ　一人賣り
一斗四升にては　四人買ひ　一人賣り
一斗三升にては　三人買ひ　二人賣り
一斗二升にては　二人買ひ　三人賣り
一斗一升にては　一人買ひ　四人賣り
一斗　にては買人なく五人賣るへし

右の如くなるときは賣買は終に一斗二升と三升との間の相場を以て丁戊二人の買方と壬癸二人の賣方との間に行はれ自餘の賣方及ひ買方は所謂競爭上の弱者にして結局損失を忍んで賣買を決行するか若くは毫も賣買を爲さすして退去すへきなり即ち貨幣と麥との交換比例は市場に於ける競爭の結果貨幣一圓に付麥一斗二升餘と公定せられ其各社會的効用は此點に於て合致すへし

以上は麥なる一の特種貨物と貨幣との間に於ける社會的價格の決定竝に其効用の合致を示せるものなるか此説明は以て綜合的貨物と貨幣との關係に對する説明に資するを得へし即ち右と同一の理法により各種の貨物の貨幣に對して交換せらるゝ割合は市場に於て競爭の結果一定すへきを以て實際交換せられたる各種貨物の總量の代價を總計するときは當さに之に對して支拂はれたる貨幣の總額に符合すへきなり然而して右各種貨物の總量は即ち綜合的貨物の總量をなすものにして其社會的効用は之に對して支拂はれたる貨幣の總額の社會的効用と同等ならさるを得す貨幣の總額をn除して得へき其一單位の社會的効用は綜合的貨物の總量をn除したる分量の社會的効用と均衡を保たさるを得さるなり

Y——綜合的貨物の效用

$a+b+c\cdots n$——各特種貨物の效用の總計

X——貨幣總額の效用

$a'+b'+c'\cdots n'$——各特種貨物の代價の效用

$$X=a'+b'+c'\cdots n'$$

$$Y=a+b+c\cdots n$$

$$a+b+c\cdots n=a'+b'+c'\cdots n$$

$$\therefore Y=X$$

$$\frac{Y}{n}=\frac{X}{n}$$

第四　貨幣以外の交換法竝に貨幣の代用を爲すへき利器の貨幣價格に及ほす影響　貨幣の價格は交換上提起せらるゝ貨幣の分量と交換貨物との比例なりと雖も交換貨物は必すしも貨幣と交換せらるゝに限らす物々交換竝に貨幣の代用を爲す所の信用を利用する交換法の存在は之を無視することを許さゝるなり是に於て乎貨幣の價格を論するに當りては漫に貨幣の分量と交換貨物の總量とを對比せしめ之を算定することを得さるなり

物々交換は極めて幼稚なる交換法なりと雖も進歩せる社會に於ても尙ほ其行使を認むること第三章に述へしか如し去れは貨幣の價格は貨幣の分量と交換貨物の總量との對比によりて決せらるゝか如き單純なるものに非すして假令貨幣の代用を爲すへき利器の行使を無視するも物々交換法により交換せらるゝ貨物は當さに交換貨物の總量より控除せられさるを得さるなり

加之ならす元來貨幣を貨物の交易に使用する所以のものは貨幣交換法か物々交換法に優る所あるを以てなり而して物々交換法と雖も之か實行を見る以上は必すや其犧牲に對して一層大なる効用なかる可からす故に第一段に論せしか如く

貨幣の疆界單位の犧牲と其効用と相等しき點まて貨幣を增加するか如きは實際上起り得へからさる所にして貨幣の分量の增加は其効用か犧牲よりも稍大なる點に於て止まらさるを得す而して其點は物々交換法によるも貨幣交換法によるも交換上社會の獲る所の利得に差異なき點にして社會の使用し得へき貨幣の數量の最大限度を劃するものとす果して然らは第一段に掲けたる第二の圖式に於けるSS′の曲線はFを通過せすしてFよりも稍低き點に於てEFの線を横斷せさるを得さるなり

物々交換は又社會に於ける貨幣の分量の最小限度を劃す夫れ貨幣元と有體の貨物にして其用役を完ふせんには必すや汎く社會多數の人の間に分布せられ廣き地域に亘りて存在せさるを得す隨て其分量に一定の最小限度あると既に第一段に論せしか如し而して其額最小限度に及ばさる時は交易上の障害立ところに生し物々交換法を以て交易を爲す方却て利益なるに至るへし去れは社會の貨幣を用ゆるや其供給は物々交換の犧牲と貨幣交換の犧牲と相當る點を以て其最小限度となさるを得さるなり

由是觀之社會の交換上貨幣を使用するや其用は物々交換以外の交換に限り而かも其額は貨幣交換法の犧牲と物々交換法の犧牲と相伯仲する點を以て上下の限度として決定せらるへし故に貨幣の價格は交換貨物の總量より物々交換法により交換せらるゝ貨物の分量を控除したる殘額を右上下限度の範圍内に於て定められたる貨幣の數量を以て除したる商ならさるを得さるなり

物々交換の貨幣價格に及ほす影響は右の如くなるか信用の影響は更に之より大にして信用の行使は大に貨幣の用を省き其効程を增進するものとす蓋し信用取引の支拂は互に相消殺せらるゝと多く其貨幣を要するは唯其消合の殘額を支拂ふ場合に見るのみにして其殘額は總額に比すれは極めて微細なるを例とす然而現今の文明社會にありては信用の行使甚だ熾にして其大部分相殺せらるゝにも拘らず貨幣は流通上よりも寧ろ信用の保證即ち支拂準備に用ゐらるゝと多しとす亦以て信用の貨幣の效程を大ならしむる力の偉大なるを推知すへきなり然れとも支拂準備に要する貨幣の額は信用行使の狀況により自ら差異あり信用に對し一定の比例を保つものに非すして其額は必すしも信用の伸縮に伴はす隨て其

貨幣價格に及ぼす影響は一定せさるなり(信用の貨幣價格に及す影響に就ては後章別に之を詳論すへし)

之を要するに貨幣の價格は貨物と貨幣との交換比例に他ならすと雖も其材料たる物質に對する貨幣以外の需要物々交換法の存在竝に信用の行使等を無視した場合の如く單に其數量と交換貨物の總量との比例によりて定まるか如き單純なるものにあらす總て是等の複雜せる作用の結果として現はるゝものにして社會の交換貨物中物々交換法により交換せられたる分量を控除したる殘額を流通上の貨幣と信用の保證たる支拂準備用貨幣との和に其效程(貨幣の分量と其成し遂くる仕事の分量との比率)を乘したるものを以て除したる商なりとす然れとも凡そ交換媒介の數量は其形式の何たるを問はす漫に伸縮し得へきものに非すして交換上貨幣行使の犧牲と物々交換の犧牲と相伯仲する點を以て上下の限度とし其範圍内に於て決せられ貨幣の數量即ち流通上の貨幣と信用の保證たる支拂準備用の貨幣との合計額は其材料たる物質の各用途に於ける價格の均衡を得る點に於て定まるへきものとす

第五　貨幣の分量と其價格　貨幣數量說を奉する學者は貨幣の分量は自由に伸縮し得へきものゝ如く信し其分量と價格との關係を論し貨幣の價格は他の事情等しくんは其分量に逆比例すへきものなりと主張せり然れとも吾輩は上來論究せし所に據り此說の前提を非認し且つ其假設の架空なるを信するか故に之に左袒すると能はさるなり

惟ふに貨幣の分量を自由に伸縮し得へきは唯不換紙幣の場合に於て之を見得へき而已不換紙幣は其護得行使に大なる費用を要せさるを以て人民之を厭惡せさる間は政府は自由に其數量を增加し得へしと雖も貴金屬貨幣の如く其獲得行使に多大の犧牲を要し且つ其材料の用途獨り貨幣用のみに限らさるものにありては其分量は漫りに伸縮し得へきものにあらすして(一)其生產費と效用との間(二)其各用途に於ける效用間(三)貨幣交換の效用と物々交換の效用との間(四)貨物の効用と貨幣の效用との間に均衡を保持すへき點に於て決せられさるを得さるなり故に貨幣の分量の自由に伸縮し得へきか如く論するは誤れりと謂はさるを得す

次に數量說論者は貨物の分量其交易の度數貨幣の效程等に毫も變化なき場合を

假設し其假設の下に於て貨幣の分量の伸縮と其價格との關係を論し相逆比すへきことを說けり然れとも貴金屬貨幣の增減する場合は決して他の事情變化せすと云ふことなきを奈何せん貴金屬固と有價の貨物にして之か獲得に犧牲を要する以上は之を增加せんには社會は必す先つ其生產と他の貨物の生產との間に效用犧牲の比較を爲さゝるへからす隨て他の貨物の生產額に影響すへきは論を俟たす又貴金屬は貨幣用以外にも用途を有するものにして其各用途に於ける效用の均衡を保つへき點に於て各用途に配分せらるへきを以て貨幣の增加せる場合は亦工藝用貴金屬たる貨物の增加する場合ならさるへからす加之既に貨幣も貨物も其分量變化せる以上は貨物交換の度數及ひ貨幣效程の變化も亦自ら免れさる所なるへし即ち貴金屬貨幣の場合にありては貨幣の分量變化するに當り他の事情依然として舊の如くなるか如きは想像し得へからさる所なり既に他の事情變化せさるを得さる以上は貨幣の價格は其分量に逆比例すてふ數量說の支持すへからさるや明かなりとす

之を要するに貨幣の價格と其分量との關係は數量說論者の主張するか如く單純なるものたるを得すして都て貨幣の價格を決すへき各要素(貨幣の分量其效程貨物の分量其交換の度數)の伸縮と其相對的交涉とによりて決せらるへきものとす隨て貨幣の分量增加するも其價格必すしも下落するに限らす時に或は幾分の騰貴を見るとなきを保せす又貨幣の分量減少するも其價格騰貴するに限らす時に或は幾分の下落を見るとなきを保せさるなり

第四節　交易の增加と貨幣價格の平準の維持

貨幣の價格は或一團の交換に於て賣買者雙方の競爭より生するものなること前節に述へしか如し故に進步せる社會に於て諸般の事情日月を追て遷移するに當り其繼續して間斷なき各團の交換を通して一定の價格を維持せしめんことは到底之を期す可からす然れとも大に其動搖を防遏し若くは輕減する諸勢力の存在せる事實は無視するを得さる所にして是等の諸勢力は克く貨幣の價格をして急劇なる變化を生せさらしめ其平準を持續せしむる效あるものとす

貨幣の價格の動搖を防遏する勢力の主要なるもの三あり曰く交易の增加に隨伴

して起る貨幣の效程の增進曰く貨幣の分量の變化に對應する貨物供給の伸縮曰く貴金屬の生產費と其價格との關係是なり以下順次之を說明せん

第一　貨幣の效程の增進　繼續せる數團の交換に於て若し貨幣の分量と貨物の分量とに變化なき時は貨幣の價格は一定不易なるか如く考へらるへしと雖も貨幣の效程に變化ある時は然る能はさるなり貨幣の效程とは一に貨幣流通の速度なる文辭を以て言ひ表はさると雖も流通の速度と云ふは少しく語弊に陷れる嫌ありて往々誤解せらるゝ虞なきにあらさるを以て何をか貨幣の效程と云ふやに就き玆に一言說明をなすの要あり抑貨幣の效程とは貨幣の分量と其成し遂る仕事の分量との比率にして必すしも其流通の回數を意味するものにあらさるなり今例を以て之を明にせんに例へは同一量の貨幣を使用せる繼續せる二年あり其第一年に於て貨幣はX回使用せられ第二年に於て其二倍即ち2x回使用せらるとせんに若し第二年に於ける物價の平準か第一年に於ける物價の平準に二倍するときは(即貨幣の價格第二年に於て第一年の二分一なるときは貨物取引の額は當さに同一ならさるを得さるか故に貨幣の效程は亦同等ならさるを得す之に反して毫も物價に變化を來さすして第二年の取引の額第一年に比し二倍なるときは貨幣使用の回數は必すしも二倍ならさるも貨幣の效程は第二年に於て第一年の二倍なりと云ふを得へきか如し又甲乙二個の社會あり各同一期間に同量の取引を爲し同量の貨幣を使用するも甲の物價の平準は乙の二倍にして甲に於ける賣買の度數は乙に於ける賣買の度數の二分一なるときは貨幣流通の速度は一と二との割合なるへきも貨幣の效程は彼是相等きか如し要するに賣買取引の額及ひ物價の平準同等にして貨幣の分量に差あれは貨幣の效程に差異あるものとす貨幣の效程の意義上述の如し是より其增進か如何に貨幣價格の變動を防遏する力を有するやを講究すへし上述せし所によりて之を見るに若し貨幣の效程を增進することを得は一定の取引に要する貨幣の分量は之を減少することを得へく之に反して貨幣の效程退步せは同一量の取引を爲すに從前よりも多額の貨幣を要すへきや自ら明かなりとす惟ふに貨幣流通の最も迅速なるは商工業の隆盛なる社會にして斯る社會は交易常に增加し貨幣の增加を要すること最も切なるものとす而して其貨幣に對する需要の急切なる事情は必すや自然に其社會をして

出來得へき限り少額の貨幣を以て多大の用を辨せしめんと努めしむるに至らさるを得す即ち斯る社會は交易の增加に應せんか爲めには貨幣の分量の增殖を以てせんよりも寧ろ先つ在來の貨幣を利用し其效程をして愈大ならしめんことを企圖すへきなり果して然らは貨幣の效程の增進は大に其價格に影響せざるを得ずして然らすんば當に大に騰貴すべき貨幣の價格をして騰貴せしめす克く商業交易の增加に應して物價の平準を維持せしむる效果を奏するものとす

凡そ貨幣の效程を增進せしむる原因は五あり第一貨物に對する貨幣の供給の比較的に僅少なること第二人口の增加第三交通の進步第四物價及ひ收入の程度に適せる貨幣を製造すると第五一般の繁榮即是なり是等の事情は何れも直接若くは間接に貨幣の需要を喚起し其價格を騰貴せしめ終に貨幣の分量の增加若くは其效程の增進を促かすものとす然れとも前章に論せしか如く貨幣の分量を增殖するは社會に取り鮮なからさる犧牲を意味するものなるか故に社會は經濟の原則に從ひ犧牲の小なる他の方法を撰みて其急に應ずへし而して信用の利用其他の手段により貨幣の效程を大ならしむるは最も利益ある方法にして而かも進步繁榮の社會に取りては此方法を利用するこそ最も容易なるへきを以て貨幣效程の增進は必すや上記諸原因の發生せる社會の採擇する所ならさるを得ざるなり既に貨幣の效程增進せん乎新に起りたる貨幣の需要は之により融和せらるへきを以て貨幣の價格は爲めに騰貴することなく物價の平準は一時之を維持することを得へきなり

貨幣效程の適應は單り交易の增加せる場合のみならす亦交易の減退せる場合に於ても現出す所謂貨幣の彈力作用と云ふもの即是なり交易の減退に隨伴して起る貨幣效程の適應は二個の場合に於て現出すへし曰く恐惶襲來の虞ある場合曰く商業の不振若くは不景氣の場合即是なり市場變調を呈し恐惶到らんとする恐あるや樂天的なりし人心は俄に變して悲觀的となり信用取引は漸く縮小せられ世人一般に警戒を怠らさるに至るを以て賣買取引は大に萎縮し貨幣の效程は甚しく減縮せさるを得す又商況振はず世人不景氣を唱るの秋に於ては事業頓に衰微し企業亦起らず商業取引は愈其額を減すへきを以て茲に金融緩慢を來し貨幣の效程は大に減退すへきなり然り而して斯る場合に於ける貨幣效程の減退は大

に其價格の激變を防遏するものにして若し其效程に變化なきに於ては物價の低落は終に底止する所を知らざるに至るへし蓋し物價の下落は恐惶の虞ある時及び不景氣の場合に於て終に避くへからさる現象なるか如しと雖も斯る場合に於ける貨幣效程の減縮は大に其低落の度を融和するものと斷すへきなり

夫れ斯の如く貨幣の效程は商業交易の消長に伴ひて伸縮するものなるか故に其彈力作用は當さに貨幣價格の平準を維持する勢力の一として看過すへからさることに屬す即是れ貨幣は自ら自身の問題を解決する力を有すと謂ふへきなり

第二　貨幣の分量の變化に對應する貨物の供給の伸縮　以上吾輩は貨幣の價格の變動を論するに中り便宜上貨幣又は貨物何れか一方にのみ變化ある場合を捉へて之を說明せり然れ共實際に於ては貨幣の分量に變化あれは貨物の供給亦變化せさるを得さるなり而して其變化は貨幣に對して提供せらるゝ既成貨物の供給並に將來に於ける貨物生產の二方面に現はるへし以下各別に之を說明せん

甲　貨幣に對して提供せらるゝ既成貨物の伸縮　凡そ市場に存在せる貨物は必すしも皆或價格を以て貨幣に對して提供せらるゝものに限らさるなり其或部分は其時の相場にては賣却せられさるへし故に或格段なる時に於ける貨物の供給と云へは其當時の相場にて賣却せらるゝ部分のみを指すものにして市場存在貨物の全量を指すものにあらす然而貨幣の分量の變化により貨幣の價格下落せは貨物の供給は俄に增加し貨幣の價格騰貴せは貨物の供給減少すへきなり果して然らは貨物の供給は貨幣の價格の變動に應して自然に伸縮し價格下落せは之か需要を喚起し之を騰貴せしめんとし騰貴せは之か需要を縮少し下落せしめんとする結果其甚しき變動を防遏するものと謂ふへきなり

更に詳しく其然る所以を說明せんか爲め貨幣の分量減少せる場合に就て述んに凡そ社會に於ける貨幣の疆界單位の效用は物々交換の疆界的效用と均衡を保つを原則とす去れは若し或原因より貨幣の分量減少する時は其疆界單位の效用は增加し貨物の疆界效用に比し懸隔を生すへきを以て玆に從前よりも一層多くの物々交換を行ふの餘地を生し大に之か行使を見るへきなり既に物々交換にして增加せは貨幣に對して提供せらるゝ貨物の分量は減少せさるを得さるか故に貨幣の價格は其分量に比例して騰貴せさるへきや明かなり

然りと雖も以上論せし所は純然たる理論に過きす實際に於ては物々交換の增加の如きは實現するものにあらす蓋し一度貨幣交換に慣れたる社會か自然經濟の狀態に歸復するか如きは非常の場合の外あり得へきにあらさるのみならす物々交換は斯る社會に取りては犧牲の最も大なる交換法たらさるを得さるなり故に貨幣減少せるか如き場合に於ては社會は物々交換によらすして信用の擴張を以て之に應するを常とす是れ既に前章に論述せし所なり

乙　將來に於ける貨物生產の伸縮　貨幣價格の變動に應する貨物の供給の伸縮は單り既成貨物に於て之を見るのみならす將來に於ける貨物の生產上にも亦現るへし然れとも貨幣價格の下落に應する貨物生產の增加は容易に行はるへきも其騰貴に應する生產の縮少は之を行ふと頗る困難なる事情を有するものゝ如し蓋し現今の生產事業は多額の資本の放下を要するもの多きを以て生產物の價格下落するも俄に事業を縮少すること能はす之を縮少せんより寧ろ之を繼續する方損失小なるを得へきなり然りと雖も凡そ生產物の價格の下落と事業利得の減少は大に發明と改良とを促かし生產費の減少を來すへきを以て貨幣價格の騰貴に對しても亦將來に於ける貨物の生產上に於て之に應することを得へきなり之を要するに貨幣價格の動搖は既成貨物竝に將來に於ける生產貨物の供給の伸縮により大に防遏せらるへきは疑を容れさる所にして貨幣の價格下落し物價騰貴するときは既成貨物の供給の增加竝に將來生產の擴張により之を恢復せしめ之に反して貨幣の價格騰貴し物價下落するときは現在にありては既成貨物の供給を減し將來にありては貨物の生產費を減して之に應し甚しく物價の均衡を攪亂することなかるへきなり之を貨幣價格の平準を維持する第二の勢力となす

第三　貴金屬の生產費と其價格との關係　貨幣價格の平準を維持せんとする第三の勢力は貴金屬の價格と其生產費との間に於ける關係の薄弱なること是なり是れ古來學者の齊しく唱る所にして由來貴金屬は其性質として永久に保存し得へく隨て其現存高頗る巨額に上り輓近其年々產出額漸く增加するに至りしと雖も尙ほ世界に於ける總給供額に比すれは僅に其百分五六を以て算するに過きす而して其價格は主として總現存高に對する需要の消長によりて決定せられ生產費の如きは其價格に影響すること殆と是なしと云ふも可なり

今更に詳く貴金屬の生產費の其價格に及ぼす影響の微弱なる所以を說明せんに其理由の重なるもの二あり

甲　往時貴金屬の生產は經濟的に行はれさりしこと　輓近に至るまて古來世人は營利の目的を以て貴金屬の生產に從事せさりしものゝ如し是れ貴金屬の生產費か其價格を支配すること能はさりし理由の一を爲すものとす蓋し吾人々類の急遽なる致富を欲するの念は古來世人をして少數採金者の成效を羨ましめ相伸て搜金的冒險を敢てせしめ常に多數の失敗者を出せり去れは總ての搜金者の費せし所を合算して其採掘せし貴金屬の生產費と見做すときは到底其價格を以て生產費を償ふに足らさるや明かなりとす

乙　貴金屬の年々產出額は其現存額に比し甚た小なること　ジャコブ氏の計算に據れは、耶蘇紀元の初に於ける世界金銀在高は約三千五百八十萬磅にして第九世紀の初には減して三千三百六十七萬四千二百五十六磅となり夫より後七百年間金銀の年々產出額と消滅額とは殆と相當り現存額に差したる增減を見さりしも千五百四十五年ポシトの銀坑發見せられ爾來米國產の銀は年々平均二百二十五萬磅を加へ其狀況は約五十箇年間繼續せり十六世紀の終に於ける歐洲金銀貨幣在高は約一億三千萬磅にして十七世紀中金銀の產出額は年々平均三百三十七萬五千磅にして同世紀の終に於ける金銀貨幣在高は二億九千七百萬磅なりき而して十八世紀に至りては墨西哥の銀附加せられ千八百十年には世界に於ける貴金屬貨幣の在高は三億八千萬磅に上りたり然れとも爾來年々の產額稍衰へ千八百二十九年に於ける世界貴金屬貨幣の在高は三億一千三百三十八萬八千五百六十磅と算せられしか幾何もなくして西伯亞の砂金新たに加はり又千八百四十八年乃至五十年カリホルニヤ及濠地利の金坑の發見あり金の年々產額は千八百六十年まて大に增加し爾來千八百九十六年に至るまて其年々產額減少の姿を呈せしも其間銀の產額は非常に增加したりき

千八百九十七年よりは金の產出高再ひ增加し加之アラスカ及南亞弗利加の金坑の發見幷にコロラドに於ける舊鑛の再撰等は大に世界貴金屬現存高を膨脹し米國造幣局長の報告に據れは千八百九十九年に於ける金の產出額は實にカリホルニヤ金坑發見當時に於ける產額の九倍を以て算し夫の世界に於ける銀產額の最

高度に達せし千八百九十一年に於ける金銀合計産額よりも大に又九十二年より九十四年に至る三箇年間何れの年に於ける金銀の合計産額にも超過せりとあり而して千九百年より千九百二年に至る三年間は南阿戰爭の爲め金の産額稍減少せしも千九百三年以降は年毎に記錄を破りつゝあり

マルホール氏の統計字彙に載する所に據れは世界に於ける金の存在高は千六百年に於て約一億一千六百萬磅にして千七百年には一億八千三百萬磅となり其間百年間僅に六千七百萬磅を增し千八百年には三億八千二百萬磅となり千八百四十八年には五億磅なりしか爾來急激の增加を見千八百八十年には十億九千二百萬磅千八百九十年には十二億三千五百萬磅となれりとあり

依是觀之往古に於ける世界貴金屬の存在高は其增加甚た遲々として其年々産出額の如きは存在高に比すれは實に九牛の一毛に過きさりしを知る去れは古の學者貴金屬の價格を論するや之を以て生産費學說の例外をなすものなりとし其價格は主として現存高とそれに對する需要供給との關係によりて定まると說きしは蓋し故なきに非さるなり然れとも前掲計算に示すか如く輓近貴金屬の産額の增加の其存在高に及ほす影響は決して微小ならす加之ならす貴金屬の採掘は近年漸く經濟的となり營利主義を以て之を經營するに至れるの事實より推す時は現今に於ては最早貴金屬の價格を論するに當り漫然古の學者の所說を襲用すること能はす其生産費は大に其價格に影響すと謂はさるを得さるへし然るに尙ほ貴金屬の價格と其生産費との關係は極めて微弱なりといふは如何なる理由ありて然るか是れ當然起らさるを得さる質疑なり吾輩は此問に對して左の如く答へ以て貴金屬の價格と其生産費との關係は甚た微細にして其事實は當さに貨幣價格の平準を維持せんとする勢力の一たるへきことを主張せんと欲す

一、輓近貴金屬の産出か漸く經濟的となり一の企業として營利主義を以て經營せらるゝに至りしは疑ふへからさる事實なり然れとも貴金屬の生産費の限度を劃するものは其現存額とそれに對する需要とによりて決せらるゝ市價ならさるを得す換言すれは貴金屬の生産費は其價格に影響するよりも寧ろ價格によりて限定せらる而して貴金屬の價格は其現存額と之に對する需要との關係なりとす

二、輓近世界に於る貴金屬の産出額の大部分は直ちに銀行の庫中に藏せられ銀

行は之を支拂準備として貸出を營み其結果銀行劵若くは預金の形態を以てせる購買力盛に造出せられ以て貨物の取引を進捗し貴金屬の需要を增加す既に貴金の需要增加すれは年々多額の產出あるも社會は其大部分を吸收し得へきを以て大に其價格の下落を防き得へしと謂はさるを得さるなり

以上論述せし所は貨幣の分量の變化に對して其價格の平準を維持せんとする諸勢力の作用を說明したるものなり然れとも余は讀者か上述せし所を以て貨幣の價格は其分量に變化あるも必す維持せらるへきものなりと誤解せさらんことを望まさるを得す何となれは以上論述せし所は唯貨幣價格の平準を維持せんとする諸勢力の存在を示し其作用を說明し以て學者をして貨幣數量說的誤謬に陷らさらしめんことを期せしに他ならされはなり

之を要するに貨幣の數量の變化の其價格に及ほす影響は頗る錯雜し且つ之を攻究すること最も困難にして其數量の變化は時に毫も其價格に影響せす時に大に其價格を動搖せしむ而かも其價格に影響するときは其間に比例を認むること能はさるなり然而して其變幻的現象を呈する所以のものは左の諸事情の存するあるを以てなり

一、貨幣の數量變化するときは其效程變化すへきこと

二、貨幣の供給に隨伴して貨物の供給伸縮するを常とすること

三、金屬貨幣の數量の變化するときは之か代用を爲す信用形式の數量に伸縮ありて其價格に影響せしめさること

本章參考書

Kinley, Money, chs. VIII & IX.
Laughlin, Principles of Money, chs. VIII & IX.
Scott, Money and Banking, chs. VIII & IX.
Nicholson, Money and Monetary Problems, 5th ed, Pt. I,ch. V; Pt. II, ch. V
Kemmerer, Money and Credit Instruments in their Relation to General Prices.
Del Mar, Science of Money, ch XV.
Ditto, A History of Precious Metals.
Mill, Principles of Political Economy, Bk. III chs. VIII & IX.
Ricardo, Works (McCulloch's ed.) ch XXVII.
Marshall, Principles of Economics, 3d ed, pp. 185, 208, 919, 492 note, 424 note and 673-4 note.
Pareto, Cours d' Economie Politique, 1 § 290-306.
Philippovich, Grundriss der Politischen Oekonomie, 4te. Aufl., I Bd § 94.
Helfferich, Das Geld, II Buch, IV Abschnitt, 12 Kapitel.

第十二章　貨幣價格の變動

第一節　貨幣價格變動の意義——第二節　貨幣價格變動の原因——第三節　貨幣價格變動の狀況——第四節　貨幣價格變動の影響——第五節　貨幣價格の變動を測知する方法——第六節　輓近貨幣價格の趨勢——本章參考書

第一節　貨幣價格變動の意義

貨幣價格の定まる原則幷に其平準を維持せんとする傾向を有するものなることは前章に論せしか如し然れとも前章述へし所は抽象的に完全なる自由競爭の下に於ける貨幣價格決定の原則即ち貨幣價格の歸着すへき標準を示し且つ其價格の動搖すへき事情の發生するに當り自然に之を醫正すへき勢力の存在することを說明せしに止まり未た貨幣價格の變動の原因及ひ其結果に關しては毫も論究する所なかりき是に於て乎活動社會に於ける實際の現象を解釋する資料を得んか爲め茲に貨幣價格の變動に關する攻究をなすの要あり是れ本章を設くる所以なり

貨幣價格の變動を研究せんには先つ其變動と云ふ文字の意義を明かにせさるへからす何をか貨幣價格の變動と云ふや曰く其騰貴(Augmentation)及下落(Abaissement)に他ならす而して騰貴とは貨幣價格の向上を意味し下落とは其降下を意味すと雖も所謂價格(Prix)とは主觀的價格なるや將又交換價格(即ち購買力)なるやによりて自ら其趣を異にするを以て其何れを指すやを明示せさる可からす讀者は前章講究せし所より推及して今其何れを指すやを聞くの必要を感せさるへしと雖も余は豫め誤解を避けんか爲め茲に冗煩を顧みす其區別を明かにせんと欲するなり何とならは主觀的價格の變動は必すしも購買力の變動を意味せす此二者は全く別物にして混同することを許さゝれはなり例へは或原因より貴金屬貨幣の供給減少せりと假想せんに若し同時に貨物の分量も亦之に應して減せん乎貨幣及貨物の分量兩なから減少し其疆界効用增加するも其購買力には毫も差異を生せさるへく又之に反して貴金屬の供給增加するも若し其と同時に貨物の生產費減し其供給之に應して增すときは雙方の疆界效用は減少するも其相互の交換比例には何等の變化を來さゝるか如し(Kinley, Money, ch. X. pp. 177–178; Louin, Des Méthodes Propesées pour Regulariser la

Valeur de la Monnaie—Revue d'Economie Politique, 1902, XVI, p. 119)

吾輩の本章に於て攻究する所の貨幣價格の變動は其主觀的價格の變動にあらすして全く其交換價格の變動なりとす貨幣の主觀的價格は其交換價格の如く貨幣と貨物との對比的關係にあらさるか故に其變動は時としては絶對的變動とも稱せられ社會の福祉上より云ふ時は頗る重大なるものなるや勿論なりと雖も本章論する所と毫も關係なきものなり若夫れ貨幣の主觀的價格の變動若くは貨幣價格の絶對的變動に關しては後章理想的本位論の下に之を說述すへし本章論する所の貨幣價格の變動とは貨幣の貨物に對する交換比例の動搖にして例へは從前一單位の貨幣が十單位の貨物と交換せられしものか今や八單位の貨物としか交換せられさるに至れは貨幣の價格は下落したるものにして十二單位の貨物と交換せらるゝに至れは貨幣の價格は騰貴したりと云ふなり

貨幣價格の變動は時としては貨物の側に變化なき時は貨幣の供給額の伸縮を意味すと信せられ其供給增加せは其價下落し減少せは騰貴すへしと主張せらるゝこと往々あり然れとも是れ貨幣價格の變動の意味を明に說明するものと云ふを得す何とならは此說は左の二要點に留意せさるものなれはなり

一　貨幣價格の變動とは貨幣と貨物との對比的結果を云ふものにして其原因を指すものにあらす

二　貨幣の供給の伸縮は必すしも其價格に變動を與ふるに限らさるなり例へは貨物の供給に何等の變化なくして貨幣の供給縮少することあるも若し貨幣の代用を爲す所の信用形式增發せられ其兌換確實なるを得るに於ては貨幣の效程增加すへきを以て貨幣の購買力に何等の變化を來さゝるか如し

之を要するに貨幣の價格の騰貴若くは下落とは其社會的疆界效用の消長を云ふものにあらす唯其交換價格即ち貨物に對する購買力の增減を意味するものにして其由て生する原因か貨幣の側に在ると貨物の側に存するとを問はす事實に於て交換上貨幣に對する需要の程度に變化を生したる場合に起る現象を指すものとす

第二節　貨幣價格變動の原因

貨幣價格の變動の原因を說明せんには其騰貴の原因と下落の原因とを各別に列擧するを便とす

第一　騰貴の原因　貨幣の價格は貨幣と貨物との對比的關係なるが故に其騰貴とは貨幣の購買力の增加即ち物價の下落を云ふ而して其原因は之を要するに貨幣の供給及ひ效程の貨物の提供に對する比較的減少にして次の二つの場合を數ふるとを得へし即ち

一　他の事情に毫も變化なく交換せらるへき貨物の分量に比して貨幣の供給減少せる場合

二、他の事情に毫もあれども貨物の分量に比して貨幣の供給減少せる場合

三、貨幣の供給及ひ貨物の供給の比例に毫も變化なきも其他の事情に變化あり貨幣の效程減退せし場合

第二　下落の原因　貨幣價格の下落の原因は其騰貴の原因と相表裏すへきや勿論なり即ち左の如し

一　他の事情に毫も變化なく貨幣の供給に比して交換せらるへき貨物の供給減少せる場合

二、他の事情に毫もあれども貨物の分量に比して貨幣の供給減少せる場合

三　貨幣の供給及貨物の供給の比例に毫も變化なきも其他の事情に變化あり貨幣の效程增進せし場合

然りと雖も貨幣價格の變動なるものは實際上に於ては決して右の如く單純なる原因に歸する能はすして前章にも述へしか如く貨幣の分量增加するときは貨物の分量亦隨て增殖し貨物の提供增殖する時は貨幣の效程亦之に應して增進するを常とし所謂他の事情なるものは決して同一なる能はさるを以て其由て來る原因は頗る錯雜紛糾するを例とし互に相反せる二個以上の原因が同時に綜合的に種々の方面に働き而かも其勢力に强弱あるを免れすして其交涉の結果として現出するものとす

實際社會に於て貨幣の價格の變動を惹起する事情は右述へしか如く頗る錯雜し到底之を單純なる原因に追躡すること能はすと雖も今參考の爲め實際の事實に鑑み貨幣價格の變動か從來多く如何なる原因より起りしかを見るに其重なるもの實に次の如し

第一　貴金屬の側に於ける原因

一　經濟上の事情

甲　輓近貴金屬の生產漸く資本的となりし爲め商況の如何か其生產に影響するに至りしこと

乙　貴金屬の採掘業と他の生產事業との比較的利潤か貴金屬產出額の增減を生するに至りしこと

丙　新坑の發見生產法の改良生產費の減少か貴金屬の產額を增加せしこと

丁　幣制政革か貨幣用として金銀の需要に消長を來せしこと

戊　不換紙幣の整理か貴金屬の需要を增加せしこと

二　政治上の事情

甲　戰爭か貴金屬の產出を減し又一般生產業を攪亂せしこと

乙　購銀條列の如き特種の法令か一時或金屬の需要を生出せしこと

三　社會上の事情

甲　文明の進步生命財產の安固漸く保證せらるゝに至りしと共に貴金屬の藏匿漸く減するに至りしこと

乙　工藝用としての貴金屬需要の變遷

第二　貨物の側に於ける原因

一　生產法の改良

二　新市場の開始

甲　食料及ひ製造原料の供給の增加

乙　粗生品及製造品の販路の擴張

三　交通の進步と運送費の輕減

第三　信用の利用に關する原因

一　信用利用の增進

甲　信用制度の改善

乙　信用利用の區域の擴張

二　信用利用の緊縮

甲　恐惶

乙　不景氣

第四　金銀比價の變動

一　金貨國に及ぼせし影響

二　銀貨國に及ぼせし影響

以上列擧せし所は近年世界に起りし貨幣價格の變動の原因の重なるものなり而して是等の原因中或物は時に最も顯著にして貨幣價格の變動の唯一の原因なるか如く見ゆと雖も或物は間斷なく其作用を逞ふするを以て貨幣價格の變動は實際數多の原因の綜合的結果なりと云ふの外なく其追躡最も困難にして Caeteris Paribus を以て抽象的に論斷するを許さゝるなり

第三節　貨幣價格變動の情況

貨幣價格變動の情況は之を普通の情況及ひ非常の情況に分ちて說述するを便とす

第一　普通の情況　貨幣價格變動の原因は前節に述へしか如し去れと其作用は普通の場合に於てはケヤンス氏の論せしか如く (Cairnes, Essays in Political Economy—Essays toward a solution of the Gold Question.) 急激に一般的に而も諸貨物に對して同一の程度を以て現するものにあらすして國により又貨物の種類により自ら前後大小の差異あるを免れさるなり即ち或産金國に巨額の貴金屬の採掘あり諸國の貨幣爲めに大に增殖せる場合に於て先つ第一に物價の騰貴を見るは産金國にして次に産金國より直接に金を輸入する國に現はれ終に一般諸國に及ぼし而かも其影響波及の遲速は諸國の銀行制度の完否如何によりて差あり又是等諸國に起る物價の騰貴は貨物の種類により自ら遲速大小あるを免れすして例へは産金國より直接に金を輸入する國の物價の變動は如何なる有樣を以て行はるへきやと云ふに先つ第一に物價の騰貴を感するは産金國に向て輸出せらるゝ輸出品たるへきや明かにして之か生産に從事する者は一時非常の利益を享け之に使役せらるゝ勞力者亦自ら賃銀を增加せられ利得を受け其消費する所の貨物の價自ら騰貴すへし而して其影響は漸次他の貨物に波及し其生産額の比例を變化せしめ終に各種の貨物の騰貴を見るへきも其間多少の時日を要し又貨物の種類により其騰貴の程度を等ふせさるか如し

貨幣價格變動の原因か貨物の側に存する場合亦然り凡百の貨物の供給か同時に同一の程度を以て增減するか如きは實際有り得へからさることにして或物は增加し或物は減少し差引增加又は減少して以て物價を變動せしむるを例とす例へは年に豐凶あり農產物の收穫に增減を來し若くは製造上に新發明起り又は流行變遷し或特種の製造品の價格に變動を生する場合の如し斯る場合にありては其國の一般物價は爲に動搖し終に外國貿易上に影響すへきや勿論なれとも其動搖は凡百の貨物一般の增減に原因せすして或格段なる貨物の增減に基くものとす即ち吾輩の所謂綜合的貨物の成分に變化を生し其單位の分量の變化により物價の變動を來すものにして綜合的貨物の成分に變化を生することなくして其單位の分量の伸縮に因らさるなり

第二　非常の情況　上段敍述せし所は貨幣價格變動の普通の情況なるか非常の場合に於ては其情況自ら右の如くなる能はす非常の場合とは吾人の不常的心理作用の物價の上に現する場合を云ひ其變動急激にして一般的に(貨物により其程度を等しくせさるも)且つ誇張的なるを例とす譬へは或豐富なる金坑の發見ありて其採掘容易にして其產額鉅大なるへき見込ある場合の如きにありては其產出未た甚大ならす金の供給に未た何等の變化を見さるも世人の想像力の作用は既に巨額の產出ありしか如く一般貨物の價格は俄に暴騰し信用取引は盛に流行し投機の勃興を見るか如し又之に反して貨物の生產其度を誤まり需要供給の權衡を失し市場變調を呈する場合に於ては世人は俄に恐怖し急に信用を緊縮し企業を差控へ一般貨物は常規を稅して暴落するか如し

第四節　貨幣價格の變動の影響

前節に述へしか如く貨幣價格の變動は數多の原因の綜合より生するを常とし其由來を追躡攻查すること頗る困難なりと雖も要するに其變動の方向如何を問はす社會の消費に上る貨物の分量增殖し其總計效用增加するに於ては社會の福利は之か爲め大に進められしものと認むるを得へきなり然れとも社會の福利常に必しも個人又は或階級の福利と一致せさるを以て貨幣價格の變動の影響を究めんには之を幾多の見地より觀察するの必要を生するなり

今や貨幣價格の變動の影響を究むるに當り吾輩は之を産業上貸借上幷に收入出費上の三方面より觀察し以て社會各階級に及ぼす利害を考査すへし

第一　産業上に及ぼす影響　此方面に及ぼす影響を論せんには先つ現今の産業制度の大要を述ふるの要あり現今の産業社會は之を大別する時は資本家(地主を也含む)勞力者及ひ企業經營者の三階級より組織せらるゝものと認むることを得へし而して現今の産業は經營者を中心とし經營者か資本と勞力とを結合して事業を營み資本勞力に對しては其事業の結果を見さる以前に於て其報償たる利子及賃銀を協定し事業の成否は一に經營者の負擔に歸するを常とす換言すれば現今社會生産の果物は生産社會を構成する三階級の分配する所なりと雖も其分配の方法は資本家及勞力者は事業の結果如何に拘らす豫め經營者との間に協定したる配分を享け經營者の受くる所は其殘部にして事業の成否により伸縮するものとす故に現今の分配法を説明する學説を名けて利潤の最終配分説(The Residual Claimant Theory of Profit)若くは利潤の危險報償説(Risk Theory of Profit)と稱す

現今の産業制度右の如くなるを以て直接に貨幣價格の變動の影響を被る者は經營者たらさるを得すして若し生産費に變化なくして物價騰貴するに於ては彼獨り利益を收め之に反して物價下落する時は彼單り損失を被るへく資本家勞力者の如きは唯間接に其支出上に於て反對の影響を蒙るに止まり其利害は正に經營者の利害と相表裏すへきなり然れとも物價騰貴し經營者の利潤增加するときは自ら人氣を鼓舞し企業を奬勵し資本勞力の需要を增加し又其報償を高むるの傾向を呈すへきを以て物價の騰貴は畢竟資本家及勞力者の福利を增進し之に反して物價下落し利潤減するときは人心を沮喪し企業を萎微せしめ資本勞力の需要を減し其報償を低むる傾向を有すへきを以て物價の下落は結局資本家及ひ勞力者の利益を害すへし去れは此三階級の利害は永時に亘りて論する時は相背馳するものと謂ふを得さるなり

以上は生産費に變化なき場合幷に生産法に變化なくして企業盛衰の結果利子賃銀の增減する場合に就ての論なれとも生産法の改良運送賃の輕減等より生産費大に減するときは其結果物價下落するは當然なれとも若し生産費減少の度か物價下落の度よりも一層大なるに於ては結局利潤は增殖すへきを以て企業は愈興

り資本家勞力者は比較的其收入を增すと同時に其支出を減し企業經營者も資本家も勞力者も皆齊しく利益を獲産業は益々發達し社會の福利は大に進捗せらるへきや明白なりとす

貨幣價格の變動の産業上に及ぼす影響大略右の如し然れとも以上敍述せし所は物價の動搖か各貨物を通して一般的に行はれしものとしての論なるを以て之をして實際上の現象に適合せしめんには物價動搖の情況を斟酌せさる可からす前節に說述せしか如く物價の動搖は普通の場合に於ては貨物の種類により自ら前後あり且つ其の程度を等ふするものにあらさるを以て貨幣價格の變動の生産社會各階級に影響するや第一着に其變動を先つ感せし貨物の生産者に及ぼし順次他の貨物の生産者に及ぼし終に一般に波及するの順序を採るへく又影響の程度の如何は各貨物の生産に預る各階級の損益に大小を生せさるを得さるや勿論なりとす

第二　貸借上に及ぼす影響　貸借期間に起れる貨幣價格の變動の貸借上に及ぼす影響は之を窺知すると極めて容易なり即貨幣の價格騰貴し物價下落する時は債務者は其債務を辨濟するに當り借りたる貨幣よりも購買力の一層大なる貨幣を以て支拂を爲さゝるを得さるを以て損失を被り債權者は其丈利得を享くへきなり之に反して貨幣の價格下落し物價騰貴する時は債務者は利益を受け債權者は損害を被るへきなり現今の社會に於ては貸借は公私共に一般に行はれ國家は內外債を起し商工業經營者は亦多く債務を負ひ其業を營めり而して是等に對して債權者の位地に立つ者は無爲の資産家及ひ年金其他一定の收入を以て衣食する鰥寡孤獨を以て主とす故に貨幣價格の變動は單に貸借上より觀察するも其影響甚た大にして其財政上經濟上及ひ社會上に及ぼす所は決して看過するを得さるなり之を財政上より謂はん乎貨幣價格の下落は國家の利益にして其騰貴は國家の損失なり特に公債の所有者か外國人なる場合に於ては其影響一層顯著なりとす之を經濟上より謂はん乎貨幣價格の下落は企業を鼓舞し産業を發達せしめ假令投機空商を奬勵するの害を免れさるも結局社會の福利を增進すへし之に反して其騰貴は企業家の利潤を褫ひ産業を萎微せしめ不景氣を馴致し一般の福祉を減殺すへし之を社會上より論せん乎貨幣價格の下落は鰥寡孤獨等不幸の民の

生計を困難ならしめ其資産を減し其騰貴は彼等の生計を豐かにするの利益あるも同時に失職勞働者の數を增加し又往々惰民の濫費を奬勵するの惡果を來すへし

然りと雖も貨幣價格の變動俄に起らす貴金屬產額の消長等顯著なる原因により貸借取引を行ふに先ち豫め貨幣價格將來の趨勢を卜知し得へきときは貸借當事者の或者は金利を高低して豫め自衞の策を講すへく又斯る場合に於ては物價の變動商業の振衰に隨伴して金利自ら昇降すへきか故に貨幣價格の趨勢に通曉せさる者と雖も知らす識らすの間に其損益を免れ得へきを以て貸借上の不公平は前段に論せしか如く甚しからさるを得へきありフヒッシャー氏は此點に就き統計的研究を爲し物價騰貴する時は金利亦上騰するを以て貨幣價格の變動より生する貸借上の不公平は實際上甚しからさるを得へしと論し其他同一の說を爲せし學者尠からす Irving Fisher, "Appreciation and Interest"—Publications of American Economic Association, Vol. XI; Jacob de Haas, "A Third Element in the Rate of Interest"—Journal of R. S. S., March, 1889; J. B. Clark, "The Gold Standard in the Light of Recent Theory"—Political Science Quarterly, Sept., 1895; A. Marshall, Principles, 5th. ed., p. 593 et seq.)

去れと金利の高下を以て精密に貨幣價格の變動に應せしむるか如きは到底爲し能ふところにあらさるのみならす將來の物價の趨勢に關する各人の意見は決して其揆を一にせす實際と背馳せる意見を抱き事を爲す者多數あるへきを以て金利高下の程度は自ら物價變動の程度に及ふ能はすして貸借上の不公平は畢に全く之を避くると能はさるべし

物價の高低と市場金利との關係を示せるフヒッシャー氏の表*

		自一八二四至一八三一	自一八三二至一八四一	自一八四二至一八五一	自一八五二至一八六一	自一八六二至一八七一	自一八七二至一八八一	自一八八二至一八九一
倫敦	物價高キ時	三、八	四、四	三、六	五、四	五、一	三、七	三、〇
	物價安キ時	三、二	三、二	二、六	三、〇	二、六	二、五	二、五
紐育	物價高キ時				九、一	七、四	七、〇	五、三
	物價安キ時				九、一	六、七	五、一	五、一
伯林	物價高キ時					四、六	三、七	三、三
	物價安キ時					三、四	三、二	二、七
巴里	物價高キ時						四、一	二、六
	物價安キ時						二、四	二、六
2 カルカッタ	物價高キ時						六、二	五、四
	物價安キ時						五、六	六、二
3 東京	物價高キ時						一二、〇	一〇、一
	物價安キ時						一二、〇	一〇、一
4 上海	物價高キ時							六、〇
	物價安キ時							五、七

備考　※紐育ノ金利ハ最初ノ十年間ノモノハ平均ノ率ニ據ル

物價指數ハ一八二四―一八五一ノ分ハジエボンス氏表ニ據リ一八五二―一八九一ノ分ハ英ハサウエルベック氏表獨ハセートビーヤ氏表竝ニハインツ氏表米及佛ハフオルクナー氏ノ調製セシアルドリツチ氏セネート報告印度支那及日本ハ日本ノ報告ニ據レリ

一八九一年限リニテ止メタルハ同年以後米國ノ指數ヲ得ル能ハサレハナリ

2. カルカツタノ金利ハ其市場歩合ヲ知ルコトヲ得ザリシヲ以テベンゴール銀行ノ利率ニ從ヘリ又カルカツタノ欄ニ於ケル一八七二―一八八一ノ分ハ實際ハ一八七三―一八八一ノモノナリ一八七二年ノ指數ハ之ヲ得ルコト能ハサレハナリ

3. 東京ノモノ亦同一ノ理由ニヨリ一八七三―一八八一ノモノヲ代用セリ

4. 上海ノ金利ハ一八八五―一八九三ノモノヲ代用セリ其理由ハ同地ニ於ケル金利ハ一八八五年以前ノモノハ之ヲ知ルコト能ハス且ツ指數ハ一八九三年ヲ以テ終レルヲ以テナリ

第三　收入及出費上に及ぼす影響　凡そ團體と個人とを問はず其收入と出費との關係は之を大別して三種となすことを得へし曰く收入出費共に確定して變らさる場合曰く收支共に物價に應して推移する場合曰く孰れか一方確定し他の一方物價の變動に應して變化する場合即是なり

第一の場合にありては貨幣價格の變動により毫も損益を感することなかるへし例へは一方に或金額の負債を有し同時に他方に同額同條件の債權を有する場合の如し貨幣價格の變動により何れか一方に損失あるときは必す他方に利益あり彼是埋合すへけれはなり

第二の場合亦然り收入物價に應して增減し支出亦物價に應して伸縮するに於ては貨幣價格の變動より毫も損益を感せさるや明かなり然れとも前節にも述へしか如く價格の變動は各貨物を通して迅速に一般的に且つ同一の程度を以て行はれさるを例とし貨物の種類により其變動の遲速大小あるを免れさるを以て或は收入と支出との間に調和を保たさる場合生すへく當局者の業務位地階級の如何により自ら損益の度を異にすへきなり

第三の場合は之を小別して二種となすことを得へし即ち甲は收入確定し支出推移する場合乙は其反對に支出の方確定し收入推移する場合是なり而して甲の場合にありては物價下落せは其購買する所の貨物にして下落せは利益を受け騰貴

せは損失を被り乙の場合にありては物價騰貴せは利益を得下落せは損耗を被るへし夫の世上一般貸借の當事者及ひ俸給を支拂ひ若くは受くる者の如きは其何れかに屬し貨幣價格の變動により或者損失を被り或者利益を享くへきなり然れとも其損益の來る時期の遲速及ひ其額の多寡は實際上免れさる所とす

貨幣價格の變動の收入及出費上に及ほす影響は前段敍述せし所の其產業上に及ほす影響幷に貸借上に及ほす影響と併せて之を觀察するときは貨幣價格の變動の如何に社會各階級の休戚に關するかを窺知することを得へし即ち企業經營者に取りては生產費を增加せすして其生產する貨物の騰貴を見るときは直接に其利潤を高め之に反するときは其利潤を減殺し生產費減少して生產物の價亦下落するときは其比例の如何によりて利害を生し生產費の減少と生產物の價格の下落と相伯仲するときは損益なく貨物の價格の下落の方生產費の減少に比し一層大なるときは損失を被り生產費の減少の度貨物の價格の下落の度よりも多けれは利益を享くへきなり又貸借上に於て企業家は寧ろ債務者の階級に屬すへきを以て物價騰貴は其利益にして物價下落は其損失ならさるを得す收入及出費上に於ては企業家は第三の場合の乙に屬するを以て物價騰貴は又其利益を來たすものとす資本家に取りては物價の騰貴は其企業家と協定せる利子の購買力の減少を意味し又貸借元金の價格下落するものなるを以て直接に其損失を來たし之に反して物價の下落は直接に其利益を生すへしと雖も企業家の利益は結局企業を奬勵し資本の需要を增加すへきや明白なるを以て物價の騰貴は却て資本家將來の利益を生出するものなりと謂ふを得へし特に生產法の改良運賃の輕減等より來る生產費の減少に基く物價の下落の如きは毫も他の階級の利益と背馳することなくして資本家の福利を增進するものとす

然れとも自己の所有せる不動產を抵當として債務を負擔する地主の如きは此關係に於ては借方の位地に在るを以て上揭收入及支出上第三の場合の乙に屬し物價騰貴によりて直接に利益を受け下落によりて直接に損失を爲すと企業家の場合と異なるとなし

勞力者及俸給によりて衣食する階級に取りては其賃銀及給料が貨幣價格の變動に推應すると甚た遲々たるを常とするを以て物價の下落は其利益となり騰貴は

其損失を生するを例とす然れとも物價の下落は生産費の減少に基く場合の外企業の利益を奪ひ産業の衰頽を來たすへきを以て終に或は賃銀給料の低減となり或は勞力者役員の解傭となり畢竟彼等の不利益を釀さるゝを得す之に反して物價の騰貴は一時彼等の利益を害すと雖も企業を勃興せしめ勞力の需要を增加し終に賃銀給料の騰貴を來し且つ彼等の傭役を保證すへきを以て結局彼等の利益たるに至るへきなり又貸借上より論する時は彼等は所謂零碎資金の貯蓄者にして常に貸主の地位に立つ者なれは物價變動の影響として彼等の頭上に墮つる利害得失は資本家の其れと相擇む所なきなり

文明の進歩交通の開發生産法の改良運賃の低減等より來る物價の下落は其物價の下落か生産費の減少額に超過させる限り企業家を利益し産業の勃興を來たすを常とするか故に物價騰貴の場合の如く一時勞力者を苦しむる等の弊なくして克く彼等の利益を增進し其地位を高むるを以て社會の爲め最も歡迎すへき事に屬す

永久公債の所有者及ひ年金の受領者の如きに取りては貨幣價格の騰貴は利益にして其下落は不利益なると論を俟たす蓋し是等の階級は上掲收入及出費上に及ぼす影響の第三の場合の甲の適例をなすものとす

政府の財政上より謂ふ時は貨幣價格の下落は一般に其歳出を增加する結果を生すへし而して歳入は地租の如く課稅の目的物たるものゝ數量を增加する能はさる場合にありては貨幣の價格下落するも收稅額の變化なきを以て稅率を改正せる場合は論外なり貨幣の購買力の減少せる丈政府の損失に歸する道理なれとも貨物若くは收入等に課する稅にありては社會の繁榮と共に收稅額亦自ら增加すへきか故に貨幣の購買力は減少するも其金額の增加により政府の利益を生するとあり得へきなり貨幣價格騰貴の場合にありては其騰貴の原因の如何により政府の財政上に及ぼす影響に自ら差異を生すへし即ち貨幣價格の騰貴か文明の進歩交通の開發生産法の改良等の結果たる生産費の減少より來り而かも企業家の利潤增加し産業振興する場合に起るときは政府の歳入は愈增加し歳出は愈減少せんとするを以て歳計の餘裕は自然の結果として生し內治外交爲めに大に其實績を擧くるに至るへきも若し貨幣價格の騰貴か農業の不作商工業の不景氣若く

は政治上の攪亂等より來るときは歳入は愈々減縮し不時の歳出は物價下落より來る利益を拭去し國帑爲めに疲弊し財政漸く困難を告くるに至るとなきを保せさるなり

公債の元利償還上より見るときは貨幣價格の下落は政府の利益にして其騰貴は政府の損失を馴致すべきや明かなり何とならば公債は募集の際其償還條件を定むるものなるか故に償還の際貨幣の購買力下落せは政府は購買力の大なる貨幣を借り購買力の小なる貨幣を以て返濟するとなり之に反して貨幣の價格騰貴せは政府は購買力の小なる貨幣を受取り購買力の大なる貨幣を支拂ふとなるへけれはなり

第五節　貨幣價格の變動を測知する方法

貨幣價格の變動を測知する方法として學者により提起せられしもの一にして足らすと雖も其最も廣く採用せらるゝもの唯一あり或時期に於て多數の貨物の價格を記錄し之を標準とし他の時期に於ける價格に對比し以て其變動を測知するもの即是なり此方法により各時期に於ける多くの貨物の價を記錄し其高低を表示し以て貨幣の價格の變動の情態を明かにせるもの之を物價の指數(Index Numbers)と稱す蓋し貨物の價格は其種類により或者は騰貴し或者は下落し又其騰落の程度を一にせさるを以て貨幣價格の變動を知らんとせは大數觀察法に依るの外なく僅々一二種の貨物を以て其眞相を窺ふと能はさるや明かなり是れ多數の重要貨物を網羅せる物價指數の起る所以なり

今簡短なる例を以て物價の指數の如何なるものなるやを示さんに例へは千八百八十年の價格を基準とし爾後十年毎に物價の高低を知らんとせは左の如き表を作り八十年に於ける物價を一〇〇とし之に準して九十年竝に千九百年に於ける物價の比例を算出するものとす

	一八八〇	一八九〇	一八九〇	一九〇〇
米	一斗に付 一四〇—一〇〇	一四五—一〇三、五	一四五—一〇三、五	
麥	一斗に付 一、〇〇—一〇〇	一、一〇—一一〇、	一、〇五—一〇五、	
石炭	一噸に付 九、〇〇—一〇〇	八、九〇——九八、九	八、八五——九八、三	

石油	一箱に付	三、九〇—一〇〇	三、七〇——九四、九	三、五〇——八九、七
砂糖	一貫に付	一、五五—一〇〇	一、五〇——九六、八	一、五二——九八、一
鹽	百斤に付	三、五〇—一〇〇	三、四五——九八、六	三、四〇——九七、一
綿絲	一駄に付	一二〇、〇〇—一〇〇	一二〇、五〇—一〇〇、四	一二〇、〇〇—一〇〇、
（第一法）		一〇〇	一〇〇、四	九八、八
（第二法）		一四〇、三五	一四〇、六〇	一三九、七七
		一〇〇	一〇〇、二	九九、六

右は唯物價の指數の如何なるものなるやを示さんか爲めに作れる一假例に過きすして選擇せる貨物の數僅に七種に止まれとも實際のものは貨物の數も多く又其種類を明細に記載すると勿論なりとす然而茲に特に注意すべきは各年の平均相場の比を以て算出する基礎を定むるに二法あること是なり即ち第一法は各貨物の相場の比を以て計算の基礎とするものにして第二法は各貨物の實價を以て計算の基礎とするものとす而して此二法は計算の結果に於ては素より同一なるを得さるも價格の騰落の大勢を示す上に於ては決して背馳するとなし即ち前例に就て謂へは物價の比は第一法にありては一〇〇と一〇〇、四と九八、八にして第二法にありては一〇〇、二と九九、六なれとも千八百九十年の物價か千八百八十年の物價よりも高く千九百年の物價か千八百八十年の物價に比して廉に千八百九十年の物價に比すれは更に大に廉なるを示す點に於ては二法とも其趣を異にすることなきか如し

物價の指數の趣旨並に其調製の方法大略右の如し今や進んで其目的及ひ效用を説明するに當り先つ其沿革と各國に於ける重要なる物價指數表の種類と物價の指數に對する批評の大要を紹介すへし

第一　物價の指數の沿革

物價の指數と名け得へきもの、最も古きは千六百七十五年の出版に係るライスバウワン氏（Rice Vaughan）の（A Discourse of Coin and Coinage）中に見ゆる千三百五十二年の物價と千六百十年の物價との比較表にして唐黍家畜魚布帛リンネル獸皮等の貨物を擇みしものなり之に亞て古きものは千七百〇七年に出てしビショップブリートウッド氏（Eleetwood）の Chronicon Preciosum にして氏は唐黍肉類酒類布帛及

賃銀の高低表を作れり是等の物價高低表は何れも粗笨のものなれとも其趣旨は後世の指數表と毫も異なることなし此二氏に次て起りしは「サー、ジョージ、エベリン」氏(George Shuckburg Evelyn)にして氏は千七百九十八年 Philosophical Transaction 中に Some Endevours to ascertain a Standard of Weight and Measure と掲けたる一論文を公にし其章尾に「コンクエスト」以來の物價表を掲出したり

十九世紀の初めに至りてはヤング、ロー、スクローブ、ヘンリーゼームス、ポーター等の諸氏輩出し大に物價の指數の效用を皷吹せり(Arthur Young, An Enquiry into the Progressive Value of Money in England (1812); Joseph Lowe, The Present State of England in regard to Agriculture, Trade and Finance (1822); G. Paulett Scrope, An Examination of a Bank Charter Question with An Inquiry into the Nature of a Just Standard of Value (1833); Henry James, The State of the Nation (1835); G.R. Porter, Progress of the Nation (1838))) 就中ロー、スクローブ及ひポーターの三氏はジェボンス氏によりて物價指數本位說(The Tabular Standard) の創唱者を以て目せらるポーター氏の著書には千八百三十三年乃至千八百三十七年に於ける五十種の重要貨物の物價指數表を掲けたり

去れと是等諸氏の物價指數表は何れも僅々數箇年に亘れるものに過きす現今に至るまて繼續せる物價指數表にして最も古く且つ最も名あるものは「ロンドンエコノミスト」雜誌の表にしてニューマーチ氏の創設に係り千八百五十年より現今に至るまて年々の物價を掲けたり(但し一八五二年及ひ一八五四—五六年の分を缺く)

十九世紀の中頃濠洲及ひカリホルニヤの金坑發見に次て諸國の物價大に騰貴の趨勢を呈するやジェボンス氏は千八百六十三年起て之か研究を創始しトウク、ニューマーチの物價史及ひ「エコノミスト」の表を基礎とし自ら物價指數表を調製し之に據りて貨借の公平を得せしめんとし以て物價指數本位說を主張せり(Jevons, A Serious Fall in the Value of Gold ascertained and its Social Effects set forth (1863), The Variation of Prices and the Value of the Currency since 1792 (Journal of R. S. S. 1865); The Depreciation of Gold (Economist, May 8,1869)))

又獨逸に於ては千八百六十四年ラスペイレス氏起て漢堡に於ける物價の研究を創始したり((E. Laspeyres, Hamburger Waarenpreise, 1851-1863, und die californisch-aestrali-

schen Goldendeckungen seit 1848 (Jahrbücher für Nationalökonomie u. Statistik, III, 1864)

然れとも物價指數の特に世の注意を惹起するに至りしは輓近世界に於ける滔々たる物價下落の大勢にして英米獨佛其他の文明國何れも物價の研究を爲さゝるものなきに至り最近二三十年間各種の物價指數表を生し統計學の進歩と共に其調製愈々精確を加へつゝあるものゝ如し

第二　各國に於ける重要なる物價指數表　近年歐米諸國に於て調製せられし物價指數表の重要なるものを列擧すれは左の如し

英國、英國に於ける物價指數表の有名なるもの四あり曰く「ロンドンエコノミスト」の表曰くジエボンス氏の表曰くマルホール氏の表曰くサウエルベック氏の表是なり

一「エコノミスト」の表　同表は千八百五十年にニユーマーチ氏(Newmarch)の創始に係り現今まて繼續せる物價指數表中最も古きものにして且つ往時他に比類なかりしかは最も著名なるものなり千八百四十五年乃至千八百五十年に於ける二十二種の重要貨物の各平均價格を以て基準一〇〇とし爾來連年(一八五二年及一八五四―一八五六を除き)各貨物の相場(一月一日若くは七月一日の相場)を調査し一々基準に對する比例を算出し其總計を二十二除し以て一般物價の大勢を示せり

「エコノミスト」の表に關聯して記載すへき表二あり、ブールン氏の表(Bourne's Table)及ひパルグレーブ氏の表(Palgrave's Table)是なり前者は「エコノミスト」の表に掲けたる貨物の選擇宜しきを得すとて之に修正を加へたるものなり去れと其事業は千八百七十九年以後繼續せざりき後者は「エコノミスト」表に掲けたる各貨物は各重要の程度を異にするにも拘らす同表の毫も斟酌を加ふることなく漫然之を排列して平均を取りたるは當を失せりとて所謂輕重審査法(Weighting)を用ゐて同表を訂正したるものなり

二　ジエボンス氏の表　ジエボンス氏の表に二あり一は千八百六十三年の調製に係り他は千八百六十五年の調製に係れり前者は主として「エコノミスト」に據り三十九種の重要貨物を擇み之を六類に分ち千八百四十五年乃至千八百五十年の六個年の平均價格を基準一〇〇とし五十一年以降六十二年に至る連年の相場の

高低を示せり後者は千七百八十二年より千八百六十五年に至る四十種の重要貨物の表にして千八百四十四年までの相場は主としてトウック、ニユーマーチ兩氏の物價史(Tooke & Newmarch, History of Prices)に據り其以後の相場は前者と同しく主として「エコノミスト」に據りしものなり計算の方法は茲に詳記するの餘白を有せすと雖も同氏は一種獨創の法を採り所謂幾何中數(Geometric mean)を用ゐたり然れとも氏は輕重審査法を採用せさりき(詳細はフヲックスエル氏の編纂せし氏のInvestigations in Currency and Financeに就て研究せよ)

三　マルホール氏の表　マルホール氏(Mulhall)は千八百八十五年History of Prices since the year 1850と題する一書を著はし物價指數の信憑すへからさるを論し所謂「トレードレベルメソード」(Trade Level Method)なるものを以て之れに代へんことを主張せり「トレードレベルメソード」とは或期に於ける商業取引の總額を捉へこれと同種同量の貨物の前期に於ける相場を以て計算したる價格とを比較し以て物價の高低を知らんとする法なり此法に據りて作れる氏の表は英國の「ボールト、オフ、トレード」の報告(The Board of Trade Returns)中より五十種の重要輸入品を抽出し千八百四十一年より五十年に至る十年間に於ける其價格を計算し之を基準として千八百五十四年より八十四年に至る三十年間の物價の高低を示せるものなり

四　サウエルベック氏の表　オーガスタス、サウエルベック氏(Augustus Sauerbeck)の編製に係る物價指數表は千八百四十六年より現今に至る物價高低表にして其始て出てしは千八百八十六年九月英國統計協會雜誌に掲けられしものなり收むる所の貨物は之を六級に分ち總計三十七種にして其價格は主として年々の平均相場を採り千八百六十七年乃至七十七年の平均價格を以て計算の基準となせり計算の方法は「エコノミスト」表と同しく算術中數(Arithmetical mean)を用ゐ輕重審査法を採らすと雖も貨物によりては特に其二種若くは三種を收むるを以て實際に於ては多少輕重を斟酌せるものと認め得へきか如し

此表は「エコノミスト」の表と相並て現今學者により廣く引用せらると雖も材料の出所往々不明なると、貨物の選擇宜きを得さると、掲載せる相場の統一を缺けると、貨物の輕重其當を得さると等の諸點に於て學者の非難を免れさるなり

印度、英領印度の物價高低表の稍信頼し得へきもの唯一ありアトキンソン氏(Atkinson)の表即ち是なり氏は千八百九十七年英國統計協會雜誌に「ルーピー」銀貨を以て表はせる印度の物價高低表を掲けしか該表は銀貨國に於ける貨幣價格の變動を知るに足るへき唯一の資料として歡迎せられたり該表收むる所の貨物は四十五種にして內外貿易額を基本とし之に對して各貨物の輕重の比を審査し其得數を夫々各貨物の相場に乘し以て正鵠を得んことを期せり材料の出所はカルカッタ、ボムベー、マドラスの各商業會議所の調製に係る相場表、印度政府の發行せる印度物價及賃銀一覽其他私人の供給に係れる報道にして計算の方法は千八百七十一年に於ける物價を基準一〇〇とし算術中數を用ゐたり然れとも地方により甚しく相場の懸隔せる貨物を發見せる場合に於ては斯る貨物に限り其產出額の最も多き地方の相場を採擇し以て失當の謬なきを期せり

獨逸、獨逸に於ける物價指數表の重なるものはラスペイレス、バーシエ、フランデルボルヒト、コンラードの諸氏の表、クラール氏の表、セートビーヤ氏の表等なり

一　ラスペイレス氏等の表(Laspeyres, Paasche, Borght u Conrad.)　ラスペイレス氏は千八百六十四年に千八百三十一年以降千八百六十三年に至る漢堡の物價の研究を公にせり氏の表は千八百五十七年までの分はセートビーヤ氏の調査を借り餘は漢堡取引所相場表を基としセ氏の方法に從ひラ氏自ら調製したるものなり即ち毎月第一金曜日に於ける相場を蒐め算術中數を用ゐて毎年の平均價格を算出したるものにして基準としては千八百三十一年乃至四十年の平均價格を採用せり去れと貨物により右十年間の平均を得る能はさるときは其次の十年間即ち四十一年乃至五十年の平均價格を以て基準とし尙ほ其平均を得る能はさる場合には更に其次の十年間即ち五十一年乃至六十年の平均價格を採りて基準となせり選擇せる貨物の種類は總計四十八種なりと雖も製造材料及ひ採取的貨物(鑛物農產物の類)を主とし製造品の如きは殆と度外視せられたり

ラ氏の業はバーシエ氏によりて承繼せられバ氏は同一の資料に據り千八百六十八年より千八百七十二年までの表を調製して之を公にせり然れともバ氏の選擇に係る貨物は必すしもラ氏の選擇せしものに符合せすバ氏はラ氏の表中十七種

の貨物を削除し新たに十六種の貨物を加へたり計算の基準は千八百四十七年乃至六十七年の二十一年間の平均にして調製せし表に二種あり第一種の表は單に算術中數を掲出せるものなれとも第二種の表は選擇せし四十七種の貨物中更に二十二種の貨物を抽出し之を六類に分ち一種の輕重審査法を用ゐて算したる結果として成りしものなり

フワンデルボルヒト氏は右バ氏の第二の業を承繼して千八百八十年までの表を作り之を公にせり然れともボ氏は此外尚ほ一の別表を調製したり即ち千八百四十七年より六十七年に至る二十一年間の平均物價を基とし之と千八百六十八年以降毎三年の平均物價とを比較し更に千八百四十七年乃至七十五年の平均物價を基準とし之と千八百八十年に於ける貨物の消費高を千八百七十六年乃至千八百八十三年の五年間の平均價格を以て計算したるものとを比較して掲出せしもの是なり

コンラード氏はバーシエ氏の選擇せし四十七種の貨物に付一八四七——五〇、一八五一——六〇、一八六一——七〇、一八四七——七〇、一八七一——八〇、一八八一——九〇、一八九一——九五、一八九六、一八九七、及一八九八の各期の物價表を調製せり然れとも單に右各期に於ける各貨物の相場を表示し後千八百四十七年乃至七十年に於ける各貨物の平均價格を基準とし一八七一—八〇、一八八一——九〇、一八九一—九五、一八九六、一八九七、及一八九八の各期に於ける各貨物の相場の高低を算示せしに止まり綜合的指數を計出せす

コンラード氏は右の外尚三種の表を作りて公にせり其第一はバーシエ及ボルヒト兩氏の用ゐし二十二種の貨物を擇み千八百八十年獨逸全國に於ける同種各貨物の消費高に鑑み其輕重を斟酌し千八百四十七年乃至八十年の各平均價格を算出し之を基準一〇〇とし一八八一——八五、一八八六——九〇、一八九一——九五、及ひ一八八六年以後千八百九十八年に至るまて(一八九二を除き)毎年の高低の比例を計示し之に算術中數法を以て算したる百六十三種の漢堡輸入貨物の平均價格の比例を對照したるものにして第二は獨逸帝國の統計表より三十三種の貨物を擇み千八百七十九年乃至八十三年の平均幷に千八百七十九年乃至九十八年の平均を基準とし算術中數を用ゐて各別に近年の物價の高低を計示したり

第三はコンラード氏獨特の選擇に係る二十二種の貨物の表にして同しく算術中數を用ゐて近年の物價の大勢を示したるものなり

二　クラール氏表　クラール氏(Franz Kral)は其著獨逸帝國に於ける貨幣の價格及び物價の變動と題せる書中千八百七十一年の相場を基準とし一八四五――五〇以降千八百八十四年に至る二百六十七種の漢堡物價の高低表を掲出せり計算の方法は「エコノミスト」表に同し

三　セートビーヤ氏表、現今各種物價指數表中最も有名なるものゝ一をセートビーヤ氏(Soetbeer)の漢堡物價高低表とす氏の表は千八百五十一年以降千八百八十八年に至るまて百十四種の貨物の相場の高低比例を示すものにして主として漢堡商業統計局より其材料を仰けり千八百八十八年漢堡の獨逸關稅同盟に加入するや爾來同統計局の報告は海上輸入品のみに限られ陸上輸入品相場は復た往時の方法を襲ふて之を記錄することなかりしかはセートビーヤ氏表を繼續するに足るへき資料は同年以來之を獲ると能はさるに至れり然れともセ氏は千八百九十二年に至り千八百八十六年より九十年に至る期間に對する表を作りて其缺を補へり

セ氏の表調製の方法は單純なる算術中數を用ゐて計算し曾て輕重審査法を採らす千八百四十七年より五十年に至る平均相場を基準一〇〇となし百十四種の貨物を八類に分ち千八百五十一年以降毎年の高低及五ヶ年毎の平均高低の比例を表示したるものなり

千八百九十二年セートビーヤ氏卒するや漢堡商業統計局長ハインツ(Heinz)氏起て千八百八十八年前後を通して其高低をト知し得へき貨物を擇ひ一の信憑すへき物價指數を調製せんとを企圖せり氏は古き記錄に據り漢堡海上輸入品百八十種(内七十種はセートビーア表中にあり)を抽出し千八百五十年より千八百九十一年まての相場を蒐集しこれを表掲してフオルクナー氏の「アルドリッチ、レポート(Falkner, Aldrich Report)の材料に供せり然れともハインツ氏の調製せし表は漢堡海上輸入品百八十種の實際の相場を記載せしに止まり未た其高低の比例を算出せさるを以て之に據りて物價指數表を作らんには尚ほ多大の勞苦を要するものとす

佛蘭西、佛國に於ける物價指數表の記載すべきもの二ありド、フォビーユ氏の表幷にバルグレーブ氏の表即是なり

一　ド、フォビーユ氏表ド、フォビーユ氏(De Foville)は Documents statistiques を基礎とし千八百六十二年を計算の基準とし千八百四十七年より千八百八十年に至るまで毎年の輸出入品の物價指數表を調製せり調製の方法は毎年一月 Documents statistiques に掲載せらるゝ輸出入品の假定價額(前年度の輸出入品の總量を前々年度の相場を以て計算したる假定價額)と後數月を經て同報に掲載せらるゝ前年度の輸出入の實際價額とを對比して得たる物價の比例を基とし歷年の趨勢を計示せるものなり

二　バルグレーブ氏表、バルグレーブ氏(R. H. Inglis Palgrave)は Third Report of the Royal Commission on the Depression of Trade and Industry の附錄に千八百六十五年より八十四年に至る二個の佛國物價高低表を掲載せり選擇貨物の種類は「エコノミスト」表に　ひ總で二十二種にして二表とも何れも千八百六十五年乃至六十九年の五年間の平　價格を基準として計算したり而して其調製の方法は第一種の表(第二十八號表)にありては全く「エコノミスト」表と同しと雖も第二種の表(第二十九號表)にありては各貨物の輸入價額に應して其輕重を審査し計算に斟酌を加へたり

米國、米國に於ける物價指數表として記すべきはフォルクナー氏の調製に係るアルドリッチ氏報告並にフォルクナー氏の第二の表是なり

一　アルドリッチ氏報告の表　同表は千八百九十三年 Aldrich Senate Report に掲載せられしものにしてフォルクナー氏の監輯に係り所掲貨物の種類の多きと歐米諸國を通して此右に出つるものなし即ち千八百四十年より九十一年に至る九十種の貨物の表並に千八百六十年より九十一年に至る二百二十三種の貨物の表より成れるものなり材料は直接商工業者の帳簿より之を取り毎年一月一日の相場を以て其年の相場とせり去れと冬季特に高價なる貨物は他季の相場に據れり計算は千八百六十年の相場を以て基準とし其結果は單に算術中數を用ひて計出せるものと輕重審査を用ゐしものと二欄に分ちて之を掲出せり而して貨物の輕重は合衆國勞働委員の報告に係る二千五百六十一の家族の消費豫算に準據せり

二　フォルクナー氏第二表、フォルクナー氏は合衆國勞働省の囑託を受け千八

百九十年より千九百年に至る卸賣相場の高低を調査し九十九種の重要貨物に對する指數表を調製せり之をフ氏の第二表と云ふ此表は前掲アルドリッチ報告の業を承繼するを以て目的とせしや明かなれども輓近經濟社會の進歩は大に消費貨物の變遷を來し調査材料の蒐集亦故例を襲ふことを許さゝりしかは其内容全然アルドリッチ表を繼續すると能はざりき今其差異の重なる點を擧れは所掲貨物の數に於てアルドリッチ表は二百二十三種なれとも此表は彼是加減を施して九十九種となし表中同類屬貨物の比價を算定する上に於て前者は其種類の異同を問はす悉く各貨物を獨立せしめ同一の重みを付與せしか後者にありては同種貨物は之を集めて其平均を算出し其商に對して一の重みを有せしめたり又基準相場及年々所採の相場に於て前者は千八百六十年一月一日の相場を基準とし毎年一月一日の相場を拾集掲載するのみなりしが後者は千八百九十年一月一日より九十二年一月に至る間の九季の平均相場を以て基準とし年々四季の平均相場を拾集算定して之を掲載せり

第三　物價の指數に對する非難、　物價の指數は貨幣價格の變動を測知する方法として普く使用せらるると雖も其効用に對する非難甚た暮し而して其非難の點は主として其調製の方法に關するものゝ如し即ち計算上用ゆる所の中數(Mean)の種類如何、所掲貨物の選擇其當を得たるや否や、所掲貨物の相場の單位如何、相場は卸相場によるへきや小賣相場によるへきや、相場調査の區域及ひ精粗如何等は常に各種の物價指數表に對する議論の要點にして或學者の如きは(例へはマルホール氏の如き)在來の物價指數表を以て何れも信憑すへからさるものなりと極言するに至れり蓋し若し理想的物價指數を索れは左の條件を完備するものたらさるへからす

一、中數は精確にして公平なるものを用ゆると
二、所掲貨物は有形無形を問はす凡百の重要貨物を網羅すると
三、各貨物の分量の比例を精査し其輕重當を得ると
四、相場を調査するに當り到る處貨物の品質及分量同一なると
五、相場の調査正確にして一般的なると

然れとも右の如き條件を具備せる理想的指數は實際上到底調製し得へきものに

あらさるを以て吾人は其比較的良好なるものを以て甘せさる可からす以下少しく物價指數表調製の方法に關する要項に就き論究すへし

一　中數の種類及其優劣、物價の指數調製上計算に用ゆる中數(Mean)の種類四あり曰く算術中數(Arithmetical mean)曰く幾何中數(Geometric mean)曰く調和中數(Harmonic mean)曰く列項中數(Median)是なり算術中數は各項を積算して其項數を以て除するもの例へは米一石の價十五圓、十五圓十錢、十五圓二十錢、十五圓三十錢とある時は之を積算して得たる和六十圓六十錢を四にて除したる商即十五圓十五錢を云ひ幾何中數は各項を乘して得たる數を其根數にて開くもの例へは前例に依れは$\sqrt[4]{15\times15.10\times15.20\times15.30}$調和中數は各項の逆的分數の算術中數の逆數(Reciprocal)例へは麥一俵三圓、三圓十錢、三圓十三錢とあらは$\frac{1}{3}$ $\frac{1}{3.10}$ $\frac{1}{3.13}$の逆的分數を作り其和を三除して得たる商の逆數を採るものにして列項中數は單に排列せる諸項の中心に位する數を云ふ例へは五、八、九、十、十三、とあれは九は即ち是なり而して是等の中數は勿論其値を等しくせす算術中數最も大にして幾何中數之に亞き調和中數最も小なりとす例へは五、六、八、九、十一の五項ある場合に於ては算術中數は七、八幾何中數は七、五調和中數は七、二列項中數は八にして又四乃至二十五の二十二項ある場合に於ては算術中數は十四、二分一幾何中數は十調和中數は六、二十九分二十六列項中數は十四及十五の二項なるか如し然而今上記諸中數の得失を略記すれは算術中數は算計簡單なれとも相場に激變ありしときは甚しく影響を受け大項を重視するの傾あり幾何中數は計算最も煩雜にして小項の影響を受くると大なり調和中數は計算困難にあらすと雖も常例的相場より遠かる恐あり去れと算術中數に比すれは相場激動の影響を受ると少なし列項中數は項數奇數なる場合にあらされは單獨に用を爲すと能はすと雖小項多く大項少なき時は穩當なるものなり然れとも是等中數孰れか數學上適理なりやは論斷すると能はさる所にして其選擇は要するに目的の如何により て決せられさる可からす例へは物價に差したる變動なく二個の時期に各貨物の賣買せらるゝ額に變化なしと認め得へき場合に當り其二個の時期に支拂ふへき公平の金額を知らんとするには算術中數を以て最良とし各貨物の賣買額の比例如何を問はす其全體に對する貨幣の購買力の消長を知らんには幾何中數を可と

し又諸貨物中其少數のものゝ相場に激變あり多數のものゝ相場に變動少なきときは調和中數を以て最も適切となすか如し

二　所揭貨物の種類、選擇すへき貨物の種類は便宜によるの外なしと雖も一般重要貨物を代表し得へく且つ所揭貨物何れも需要の廣汎なるものたるを要するや勿論なり惟ふに既に凡百の貨物を適當の分量を以て網羅し得ざる以上は貨物の選擇上より物價指數の結果に多少の誤謬を生するを免れすと雖も元來物價指數の物たる其目的物價の大體の傾向を知るに止まるか故に這般の如き缺點は忍ひ能はさる所にあらす加之斯る誤謬を生するは殆と常數にして計算毎に必す起るへきものなるに於ては其結果の比較を爲す上に差したる障碍を爲すものにあらさるなり

然りと雖も所揭貨物は一度之を選擇したる以上は千遍一律を以て永久取捨變更を許さすと思惟すへからす社會の進運は貨物の生產消費に變化を與へ又絕へす重要なる新貨物を發生すへきを以て隨時適當の斟酌を加へ取捨增補を行はさるに於ては或は終に物價指數所期の目的を達すること能はさるに至るへし

三、貨物の分量、社會凡百の貨物皆其緊要の程度を等ふするものにあらす米と胡椒とを同一の分量を以て算入せる表の當を得さるや自ら明かなり是に於て乎各貨物の輕重を審査するの要あり之に關する論議を生す或者各貨物の生產額を標準とし或者社會多數の民衆の消費に準據し又或者貨物の輸出入額を基とし其他種々の標準を用ゐて所揭貨物の輕重を斟酌せり而して是等輕重審査法は自ら長短あり理論上其優劣を究むるの必要素より之ありと雖も然れとも物價の指數に尙ふ所は貨物の輕重よりも寧ろ各期を通して計算法の統一せるに在り貨物の分量の如何の如きは實際上左程重要なる事項にあらさるなり何とならは第一に各貨物につき適當なる分量を定むるは極めて困難の業にして且つ貨物毎に一々之を應用するか如きは殆と不可能のことなると同時に第二に所揭貨物の種類多きときは其輕重を斟酌すると否とは計算の結果に差したる影響を與ふるものにあらされはなり

四、相場の種類、蒐集する所の相場は小賣相場なるへきや將た卸賣相場たるへきやも亦論議を免れさる問題なり然れとも其何れに據るへきやは主として製表

の目的の如何によりて決せられさるを得さるなり若し其目的單に物價の趨勢を知らんとするに在らは卸賣相場にて毫も差支なきも若し物價變動の社會各階級に及ぼす影響如何を知らんとするに在らは小賣相場に據らさるを得さるなり

然りと雖も元來卸賣相場は小賣相場に比し其性質一層均齊的にして之を調査蒐集するの勞亦一層小なるのみならす一層廣き地域に應用し得べく又其變動一層敏活にして賣買競爭の影響を受ること一層多く隨て貨幣價格の變動を一層明確に表示するものと謂はさるを得さるなり

第四、物價指數の用役、物價指數の效用は其調製法の宜きを得るや否やと其目的に適合せるや否やとの二點によりて決せらるへし即ち其調製上より云ふ時は總ての貨物を網羅し最も精確に其相場を蒐集するを以て理想となすと雖も斯の如きは實際上到底爲し得へき所にあらさるを以て出來得へき限り精密なる表を作りて甘せさるへからす而かも其調製宜きを得るは頗る困難なるとに屬するを以て其效用に瑕瑾なきを得さるなり何とならは實際蒐收する所の貨物の種類は掌調整理し得へき程度に止めさるを得さると同時に拾集する相場は必すや或格段なる地方のものを採らさるを得さるか故に地方により素より徑庭あり各地方の平均相場を基として算出せる中數は汎く各地に應用し得へきものたるを得す加之各地方の相場亦時々變動を免れさるか故に其各平均相場なるもの亦必しも正當なる相場を表示するものに限らされはなり其目的上より云ふ時は目的により自ら掲載貨物の種類を異にせさるを得す若し一般物價の趨勢を知るを以て目的とせは須らく有形無形を問はす世上凡百の貨物を適當に代表せしめさる可からすと雖も若し其目的物價の變動の社會或階級に及ぼす影響を究めんとするに在るときは一般貨物を網羅せる表は其用を爲すこと能はさるなり何とならは階級により自ら其消費する所の貨物の種類を異にするを以て斯る目的に向つては其格段なる階級に適應せる特種の表を作らさるを得されはなり之を要するに物價の指數は克く其使用の目的に適ひ其調製宜しきを得て始めて其效を奏し得へきものとす然而して今其完備せるものを作り得たりと假想し其效用を列擧すれは大率左の如くなるへし

一、永時に亘り物價の大勢を知り得へく又各時代に於ける經濟の情況を卜察し

得へく經濟史研究上無上の好資料なり

二、賣買交換に異變なからしめんか爲め物價の平準を維持するに必要なる標準を供し經濟政策上利益甚大なり

三、永時に亘る貸借を公平に辨濟せしむる標準を供す

四、各地方若くは各人民の賃銀及收入の購買力の消長を測知する手段を供す

第六節　輓近貨幣價格の趨勢

貨幣價格の變動は物價の指數によりて測知し得へきと前節に述しか如し而して輓近歐米諸國に於ける物價の趨勢は之を各種の物價指數表に徴するに前世紀の中頃カリホルニヤ及ひ濠地利の金坑の發見ありし以來千八百七十三年に至るまて漸次騰貴し同年大勢一變し爾來千八百九十六年に至るまて逐年下落の狀勢を呈せしか其後再ひ騰貴の傾嚮を現し來り千九百二年乃至三年に於て稍下落の色を見せしも大勢は漸く騰貴の方向を取り既に七十三年以降に於ける下落の大半を回復したり而して現今の情況より觀察するに物價の騰貴は到底近き將來に於て停止すへくもあらさるなり

按するに前世紀の中頃以來七十三年に至るまての物價騰貴の原因は主として新金坑の發見せられし爲め金の供給の俄かに增加したるに在り米國造幣局の計算に據れは千八百五十年に於ける世界中金の存在額は凡そ十六億〇六百四十萬弗なりしも千八百七十三年に於ては其額凡そ二十九億七千四百二十二萬弗に達せりとあり亦以て其增加の著きを知るへきなり蓋し此金の供給の增加は其生產費の減少と相待て大に一般物價を騰貴せしめさるを得すして當時諸國は貨幣として漸く銀を廢し金を採用するに至り又交通の進步工業上の新發明に隨伴して貨物の生產費大に減少するに至りしにも拘らす物價騰貴の勢は滔々として停止する所を知らす其結果は商業の膨脹となり信用の濫用となり投機の勃興となり物價愈昂騰し終に七十三年の大恐慌を馴致せり

七十三年の大恐慌は實に世界物價の大勢の變轉を劃するものにして恐慌に續て起りたる商況の不振は大に物價を下落せしめ各種の新發明及ひ製造法の改良を促かし大に貨物の生產費を減したり而して是等生產費減縮の原因は商況恢復の

後に於て益現出し加るに機械使用の增進交通の開發運賃の遞減商路の擴張等を以てし爾來生產費愈廉に生產額愈多く商業交易愈盛大を致したり而して其當然の結果として生せる貨幣需要の增加は優に金の供給を吸收し終に其供給の不足を訴るに至れり然るに金の產出は當時稍衰勢を呈し復た昔日の如くならざりしかは其價格は漸く騰貴し其效程は社會の必要より著しく增進し支拂の具として信用形式の使用漸く盛なるに至りしも終に交易の增加に應する能はす加るに當時金銀比價の變動は諸國をして競ふて銀を廢し金單本位を採用せしめしかは金の缺乏は愈甚しく其價格は愈昂騰せり已にして信用の擴張は其極度に達し亦如何ともすると能はす諸國の銀行は或は割引政策を用ゐ或は正金方策を講し爭ふて金の吸收に努めしも限りある金の供給は到底其需要を充す能はす其結果は益々物價を下落せしめたり之を要するに七十三年以降世界物價の大勢の逐年下落せしは交易の增加と貨幣の供給との間に甚しく權衡を失せしより生せし現象に他ならざるなり

金の缺乏と其價格の騰貴とは大に其供給の增加を要せしを以て茲に新坑の發見と舊鑛の再撰を促しアラスカ及ひ南亞弗利加の新坑の發見竝にコロラドに於ける舊鑛の再擇は之に應して起れり而して千八百九十四年以降世界に於ける金の產額は漸く增加の狀勢を呈し千八百九十九年の產額は始て記錄を破り其後南亞戰爭あり一時稍其產額を減せしも千九百〇三年以降更に其產額を加へ年を追て未曾有の產出を見るに至れり今米國造幣局長の報告に基き千八百九十四年より千九百〇五年に至る毎年の產額竝に世界現存額の計算を示せは左の如し

	毎年產出額	世界現存總額
一八九四	一八一、一七五、六〇〇弗	四、〇八六、八〇〇、〇〇〇弗
一八九五	一九八、七六三、六〇〇	四、一四三、七〇〇、〇〇〇
一八九六	二〇二、二五一、六〇〇	四、三五九、六〇〇、〇〇〇
一八九七	二三六、〇七三、七〇〇	四、五九四、九〇〇、〇〇〇
一八九八	二八六、八七九、七〇〇	四、六一四、六〇〇、〇〇〇
一八九九	三〇六、七二四、一〇〇	四、八四一、〇〇〇、〇〇〇
一九〇〇	二五四、五七六、三〇〇	四、九〇六、七〇〇、〇〇〇
一九〇一	二六二、四九二、九〇〇	五、一七四、四〇〇、〇〇〇
一九〇二	二九六、五四八、八〇〇	五、三八二、六〇〇、〇〇〇

一九〇三	三二五、五二七、二〇〇	五、六二八、二〇〇、〇〇〇
一九〇四	三四七、〇〇〇、〇〇〇	五、八六〇、〇〇〇、〇〇〇
一九〇五	三七五、〇〇〇、〇〇〇	六、一五〇、〇〇〇、〇〇〇

斯の如き急激なる金の供給の増加は漸く比年世界諸國の困みし金の缺乏を醫し其物價に及ぼせし影響は前世紀の中頃に於けるカリホルニヤ及ひ濠地利の金坑の發見の影響に髣髴たるものありて歐洲に於ては千八百九十六年以降米國に於ては千八百九十八年以降既に物價騰貴の勢を現はし爾來小康なきにあらさりしも其勢は滔々として停止せす現今に至るまて年を逐て益熾なり乃ち知る近年世界金產出の增加は十數年以前世界諸國の一般に感ぜし金の缺乏を補ひ又爾來商工業の繁榮交易の增進より起りし金の新需要を充たして尙ほ綽々たる餘裕を存するに至りしを然り而して此情勢は果して永く持續すへきか現今の狀況に於ては毎年金產額の增加の勢は鐵石炭小麥等の產額の增加に比し遙に急激にして若し此割合を以て進めは世界に於ける黃金の在高は爾後二十年を出てすして必すや現今の在高に倍徙すへきなり去れは物價の騰貴は終に何時まて繼續すへきか又此物價の趨勢は如何なる影響を經濟社會に及ぼすへきや是れ頗る重大なる事項にして大に討究を要する問題なりとす

凡そ經濟上の豫言は最も困難なるとに屬し經濟上の現象は幾多の勢力の交叉的結果として生するを常とするを以て Caeteris paribus を以て或一事件の結果を豫斷するを許さす去れは現今金の產出の如きも爾後何年間此勢を以て持續すへきやをトするが如きは最も危險なる企圖なりと謂はさるを得す然れとも到底永久に持續すへからさるは自ら明白にして現今の生產費と其價格の趨勢より推す時は爾後十年を出てすして必すや其の產出額に頓挫を來さゝるを得さるなり去れと金の價格の其產額に及ぼす影響は左記の事情の存するあり急速に現する能はさるを以て金の產出は現今の勢を以て少くとも爾後十數年乃至二十年間持續すへしと信する者多きか如し

一、金の價格漸く下落し其生產費を償ふに足らさるに至るも企業家は尙ほ其價格の恢復に望を屬し俄かに其採掘を停止せさるへし

二、金抗に放下せられたる巨額の固定資本は漫りに之を放棄すると能はす其放棄より生する損失は收支相償はさる採掘より被る損害に比し遙に大なるを以て

企業家は寧ろ其事業を繼續すへし

三、金は他金屬殊に銅の副產物として採取せらるゝと多し去れは其產出は主產物の採掘持續せらるゝ間は停止するとなかるへし

金の產出の增加の爾今何年間繼續すへきやをトするは一種の投機に屬すと雖も近き將來に於て停止するとなかるへきは殆と疑を容れさる所なり而して其物價に及ぼす影響如何を考究するは蓋し現下の急務なりとす

經濟社會か物價の動搖を見るとなくして將來に於ける金の供給を悉く吸收し得へきや否やに就ては學者其說を一にせす積極論者は曰く現今世界に於ける金の需要は其工藝用及ひ貨幣用の需要を合する時は頗る多額にして特に後者にありては各種の信用形式の準備として既に甚しく其供給の不足を感せり而して將來に於ける是等の需要は益增加せんとするの傾向あり去れは年々多額の產出を見るも社會は優に之を吸收し得へく假し一時其供給の餘剩を見るとあるも商工業の擴張は忽ち之に對する新需要を喚起すへしと消極論者は之に反對の說を爲して曰く世界に於ける金の需要は大なりと雖も其缺乏は既に近年產出の增加によりて略之を醫するとを得たり若し將來に於ける年々の產額にして現今の比例を以て增加するに於ては必すや久しからすして其供給の過剩を來さゝるを得すして商工業の振興も終に之に追及すると能はす其結果は貨幣效程の減縮となり物價の騰貴とならさるを得すと

今右積消兩極の說を檢するに共に理ありて容易に其當否を斷すへからさるか如しと雖も既に千八百九十六年以降金產額の增殖に隨伴して世界諸國に於ける一般物價の騰貴せる事實ありしより推すときは近年金の供給の增加か其缺乏を補足せしと否とに拘らす將來其產出益增加せは必すや益物價を騰貴せさるを得すして若し其增加か爾後十數年間近年の如き步調を以て進まは物價は或は前世紀に於ける最高點に近くやも知るへからさるなり果して物價の趨勢か將來騰貴に傾くへしとせは其情況は如何あるへきか是れ攻究を値する問題なりとす

惟ふに金の產出の增加より來る物價の騰貴は前世紀中米國及ひ濠洲の金坑の發見に續て起れる物價騰貴の轍を踐まさるを得すしてケヤンス氏の研究せしか如く(前出)先つ鑛坑の附近に現出し續て金產地と直接に商業的關係を有する國に起

り金産地に輸送せらるゝ貨物の價漸く高く漸次諸貨物に及ぼし終に普く全世界に波及するものとす賃銀の騰貴亦同一徹に出つへきなり然而して此影響の波及は良好なる銀行制度を有し信用の利用盛なる國に於て特に迅速なるへきは論を要せさる所とす既に物價にして益騰貴の情勢を呈せん乎商業取引は愈活潑を加へ企業振興し資金の需要愈起り玆に金利の昂騰を見不動産株券の如きは大に騰貴し之に反して公債社債の如き一定の利子を付し償還期限長きものゝ價は著しく下落すへさなり

本章參考書

Kinley, Money, ch. X.
Laughlin, Principles of Money, chs. VI. & IX, & pp. 388-390.
Johnson, J. F., Money and Currency, ch. VI.
Edgeworth, Thoughts on Monetary Reform (Economic Journal, vol. V, pp. 434-451.)
Farnam, Some Effects of Falling Prices (Yale Review, Aug. 1895, pp. 183-201.)
Price, Money in its Relation to Prices, ch. II.
Walker, Money, ch. IV.
Cairnes, Essays in Political Economy, Theoretical and Applied,—"Essays on the Gold Question.'
Pierson, Principles of Economics, ch VII, § 8.
——, Index Numbers and Appreciation (Economic Journal, vol V, pp, 239—)
Ettinger, Einfluss der Goldwährung auf das Einkommen der Bevölkerungsklassen und des Staates.
Philippovich, Grundriss, 4to Aufl., I Band, § 98.
Moody's Magazine, Dec. 1905.

第十三章　信用の貨幣價格に及す影響

第一節　信用の意義要件及ひ形態——第二節　交換の媒介としての信用の機能——第三節　信用と貨幣價格との關係に關する諸學說——第四節　信用の貨幣價格に及す影響——本章參考書

第一節　信用の意義要件及ひ形態

信用の何物たるやに就ては學者其說を一にせすと雖も吾輩の見を以てすれは信用とは未來に同價格のものを返濟する條件を以てする貨物の移轉にして生產上資本の效果を收めんか爲め行ふものに他ならさるなりクニース氏は信用に定義を下して信用とは當事者の一方か現在の勤勞を與へ他の一方か之に對して未來の勤勞を供すへき交換なりと曰へり(Knies, Der Kredit, I, 68.)蓋し肯綮に中れりと謂つへきなり然るに世に說を爲す者あり上述の定義を非難して曰く抑々信用とは吾人の他人に對して有する主觀的信認なり然るに信用を以て貨物の移轉若くは現在貨物と未來貨物との交換なりと云ふ時は信用と信用取引とを混同するものなり故に非なりと然れとも論者の區別の如くんは信用は之を使用するとなくして成立し得へきを以て若し吾人か世人を信認するの度愈深きに至らは未た之を行爲に實現せすして社會の信用大に增加せりと云ひ得へきなり天下豈斯の如き言を聽さんや之を要するに經濟學上信用とは信用取引を指す外他に何等の意義を有すへからさるなり

今や更に詳しく信用の何たるを說明するに中り先つ其成立に要する元素を明かにせさる可からす世人動もすれは信用の要素は信認なりと主張すれとも其は唯信用の何故に行はるゝやを說明するに止まり未た以て信用其物の眞相を穿つものと謂ふ可からす吾輩の見を以てすれは信用は未來に返濟せらるへき條件を以てする現在貨物の移轉にして其成立の元素は時なり時なる元素なくんは信用生し得へからす蓋し時は信用の骨子にして信認は其の行否を判定する準率なり故に信認を以て信用の要素なり基本なりとなすか如きは徒らに字義に拘泥し事物の本體を解說し得たるものと謂ふを得さるなり之を家屋に譬へんか信用は家屋其物なり時は之か構成に缺くへからさる建築材料なり而して信認は其家屋か果

して住居に適するや否や之を建築するの可否如何を鑒別する標準を供するものに他ならざるなり

次に討究すべきは信用を許容する準率たるべき信認の問題なり凡そ人は漫りに他人を信するものにあらず必すや將來に於て其現に移轉する貨物と同格のものを返却すへしと確信するに非すんは信用を許さゞるなり而して信認の基礎たるもの二あり曰く受信者の德義心曰く受信者の返濟能力是なり此二者は實に信認の要件にして其關係車の兩輪の如く二者其一を缺かん乎信用行はるゝを得さるなり返濟の意志なきこと明かなる時は假令陶猗の富を重ぬる者と雖も信用の當事者たるを得す又德義心如何に高きも無資無產にして而も何等收入の目的なき者ならんには人の信認を受く可からざるや明白なり

返濟能力は更に之を小別するときは二種あり受信者既に貨物を所有すると及ひ未た之を有せさるも信用期限前に之を獲得し得へき關係に在ると是なり

信用の元素及ひ其許容の準率上述の如くなるか故に凡そ信用は次の條件を具備するものたらさるを得す第一授信者より受信者への貨物の任意的移轉第二返濟の期限第三授信者の受信者に對する信認第四受信者の其受取たる貨物に對する完全なる所有權の獲得第五受信者より授信者に對して爲す將來貨物の反對給付是なり之を信用の五要件と云ふ

信用は其受授する貨物の種類より分類して二種となすことを得へし曰く資本信用曰く貨幣信用是なり資本信用とは種々の形態を有せる資本其物の貸借にして貨幣信用とは正貨幣其他正貨幣の代用を爲す所謂資金の貸借を云ふ然れとも現今の社會に於ては凡そ信用は其資本信用なると貨幣信用なるとを問はす貨幣の名稱を以て其額を表示し返濟貨物は貨幣若くは其代用物たるを原則とせり

信用は又其由て起る所より商業信用及ひ銀行信用の二別を生す前者は多く普通の商品の賣買取引より起るものにして主として資本信用なり後者は資金の貸出より起るものにして悉く貨幣信用なりとす蓋し信用は社會各人の間に行はれ得へきものなりと雖も其最も重要なるものは商業信用並に銀行信用の二者たらさるを得さるなり就中銀行信用は或は商業信用より生する將來に支拂はるへき債權を要求次第支拂はるべき現在債權に化し或は全然新たに現在債權を創設し以

て企業に資するものなるを以て其結果は正貨幣の增殖に異ならす其效驗最も顯著なりとす

信用の結果として生する債權は種々の形式を以て現はる即ち商業信用にありては帳簿上の貸借(掛)及ひ手形(約束手形又は爲替手形)を主要なる形式とし銀行信用にありては預金及ひ兌換劵を以て重なる形式とす何れも皆債權の證憑に他ならさるなり然而して是等の信用形態若くは債權の證憑は信用其物とは全く別物なるにも拘らす往々にして同視せられ經濟學者にして是等信用形態に關する說明を以て信用論なりと思惟する者尠なからさるか如しマクラウド氏の如きは其一人なり蓋し是れ經濟上の信用と法律上の信用とを混淆するものにして貨物の移轉は信用の經濟的部分を爲し信用形態は信用の結果にして其行爲の證憑に他ならさるとを看過せるものなり誤れりと謂つへし

第二節　交換の媒介としての信用の機能

交媒の媒介としての信用の機能は之を二個の方面より說述するを便とす第一信用は正貨幣の代用を爲し大に其用を省き社會をして犧牲の小なる交換の利器を得せしむると第二信用は最も多く彈力性を有する通貨を社會に供するものなると是なり

第一、信用の正貨代用作用、前節に述しか如く信用は其由て起る所より區別するときは銀行信用及ひ商業信用の二種に分つとを得へし而して前者より生する信用形式は兌換劵及ひ預金の二者にして何れも交換の媒介として正貨の代用を爲し且つ其發行總額準備を以てせさる以上は大に正貨の用を節約し社會をして小額の正貨を以て多額の交換の媒介を得せしむるものとす換言すれは是等信用形式の利用は正貨の效程をして大ならしめ交換に要する社會の犧牲を減少するものとす例へは或社會の銀行か一億圓の本位貨幣を準備して二億圓の兌換劵と三億圓の振替預金とを發行(敢て發行と云ふ兌換劵も振替預金も共に貸出の手取金として銀行の創設に係るものなれはなり)せりと假想するときは差引四億圓の通貨新たに構成せられし計算にして社會は僅に一億圓の正貨を準備して五億の支拂の具を得之を利用して大に交易を盛ならしむるとを得るか如し然るに若し

正貨幣のみを用ゐて同量の交易を營まんとせは社會は或は新に鑛山を掘り或は外國に向て貨物を輸出し以て四億圓の正貨幣を得さる可からす其犧牲や決して小なりと謂ふ可からす即ち社會は信用を使用するによりて犧牲の小なる交換の利器を獲得し得へく信用は正貨幣の代用を爲し大に其用を節約するものなりと謂はさるを得さるなり

商業信用より生する信用形式は掛貸借及ひ手形(爲替手形及ひ約束手形)を以て主要なるものとす而して掛貸借は或は交互計算を以て相殺せられ或は現金(正貨兌換劵小切手の類を云ふ)を以て決濟せられ其消滅の方法を一にせすと雖も其現金を以て決濟せらるゝものゝ外は悉く正貨の用を省くものにして社會は貨物の交換上此形式に依る信用の利用により大に交換の犧牲を避くるとを得るなり加之ならす現金を以て決濟せらるゝ部分と雖も亦正貨幣によらすして兌換劵又は小切手によるものは前段に敍述せる銀行信用の方法を以てせる正貨省略の利益に浴し得へきなり

手形は或は逆手形の振出により相殺せられ或は轉輾して他の支拂に使用せらるゝ時は其都度正貨の用を節するものにして唯其最後に現金を以て支拂はるゝ場合に於てのみ正貨を要するものとす而して其場合と雖も若し其代金か銀行に於て支拂はれ(銀行拂のものは支拂人に於て豫め銀行に其資金を供託するものにして多くは預金を以て之に充つ)若くは兌換劵小切手を以て支拂はるゝときは是等信用形式の正貨節約の範圍内に於て正貨の用を省くものとす故に手形の使用も亦大に社會の交易を容易ならしめ社會の正貨獲得の犧牲を輕減するものとす

之を要するに信用を利用する場合に於ける社會の交換の要具は流通上の正貨預金兌換劵及ひ差引消滅すへき債務の四者より成り就中最後のものは全然正貨の用を省き第二及第三即ち預金及兌換劵は其發行額と之に對する銀行準備金との差額に相當する正貨を節約するものとす去れは社會は信用を利用するにより流通用の正貨と支拂準備用の正貨とを合したる額丈の正貨を有して總ての交換の媒介の總額丈の效果を享受し得へき道理なり信用の正貨代用作用亦偉なりと謂つへし

第二、信用の彈力作用、信用は啻に正貨の用を省き犧牲の小なる交換の媒介を

社會に供給するのみならす亦た正貨幣に比し一層彈力性に富める交換の媒介を社會に供給するものとす即ち商工業大に振興し交換の媒介の需要盛に起る場合に於ては銀行に向て手形の割引若くは貸付を依賴するもの踵を接して起り銀行之に應して盛に兌換劵を增發し若くは振替預金を創出するときは世の交換の媒介は爲めに大に增殖すへく又之に反して商況沈靜の狀勢を呈し交換の媒介の供給過多を感する場合に於ては銀行の貸出は相繼て返濟せられ新に割引貸附を依賴するもの俄に減縮すへきを以て其結果は自然に交換媒介の縮少を來さゝるを得すして信用形式による交換の媒介は克く社會の需要に應して容易に且つ迅速に伸縮すへきなり是れ正貨のみを通貨として用ゆる場合に到底望む可からさる所とす何とならは正貨にありては之か獲得に多大の犧牲を要すへく且つ信用形式の如く迅速に之を增加すると能はさると同時に其供給過多を感するも遽かに之を縮小すると能はさるを以て其間金融の圓滑を缺き物價の動搖を免れさるを得されはなり

然りと雖も信用形式の增殖は無限に行ひ得へきものにあらすして其擴張には自ら限度ありて存すると既に第十章に論せしか如くなるを以て所謂信用の彈力作用とは唯其限度の範圍內に於ける作用を意味するものと解すへきなり若夫れ交易の增加駸々として停ます通貨の需要愈加はるに於ては信用の彈力作用は銀行の支拂準備金を增加するとなくして一時其急に應するとを得へきも久しからすして其限度に達し玆に正貨を獲得するの必要を見るへきや勿論なりとす

第三節　信用と貨幣價格との關係に關する諸學說

惟ふに信用に關する學說中最も困難なる問題は信用の物價(貨幣價格)に及ほす影響是なり而して此問題を攻究する方法に二あり第一信用を以てする貨物の購買を貨物に對する需要の增加と認め以て其物價に及ほす影響を追躡する方法第二信用を以て交換媒介の供給の增加と見做し以て其物價に及ほす影響を攻究する方法是なり此二法其孰れを採るも其結論に於て素より差異あるへからす

信用の物價に及ほす影響に關しては從來學者の說區々にして定らす今其二三を

紹介して其如何に歸一せさるかを明かにせん

第一、信用の爲め起る貨物の需要の增加は其結果に於て全然正貨幣の增加の爲め起る貨物の需要の增加に等しと云ふ說、此說は信用は一種の購買力にして正貨幣と同一の作用を有するものなるが故に信用新に創出せられ貨物の需要之が爲めに起る時は物價は同額の正貨の增加せし場合と同一の割合を以て騰貴すへしと云ふものにしてジョン、スチユアート、ミルの主張せし所なり(Mill, Principles, Book III, ch. XII.)マクラウド氏亦嘗て同樣の說を唱へたり(Report of Royal Commission on Gold and Silver, 1888, pp. 234 & 245.)

第二、信用は普通の場合に於て毫も物價に影響するものに非すと云ふ說、此說は信用の貨物に對する需要は之を全體に就て觀察する時は自ら相消合せらるへく又此種の需要は社會に交換の起りし以來總ての時代を通して正貨の貨物に對する需要と併存したるものなるが故に信用か物價に影響を及ぼすと云ふは當を得たるものにあらすと云ふに在りラフリン氏は蓋し此說を主唱するものゝ如し(Laughlin, Principles of Money, ch. IV.)

第三、物價は正貨幣の分量及ひ需要によりて決せらるゝものにして信用取引は其物價を以て取結はれ毫も物價に影響を與へすとの說、此說はウオーカー氏の唱ふる所にして信用取引より生せし債務は悉く相消殺せらるゝを原則とするか故に恰も物々交換の如く之か爲め正貨の需要を喚起するとなし隨て信用取引は物價の平準に何等の影響を及ぼすものに非すと斷せしものなり(F. A. Walker, Discussions in Economics and Statistics, I, 199–200.)

第四、信用の物價に及ぼす影響は其行使の額より之に要する支拂準備金を差引たる殘額丈の正貨幣の增加の物價に及ぼす影響と同等なりとの說、此說はセリグマン氏の唱ふる所にして氏は信用は一種の購買力にして正貨幣と同一の作用を爲すものなれとも支拂準備金を要するものなるを以て其物價に及ぼす影響たるや其全額の正貨の影響と同一なる能はすして畢竟信用の總額より支拂準備金を控除したる殘額と同量の正貨幣の增加の影響と相當らさるを得す詳言すれは信用は同額の正貨幣と同等の影響を物價に與へ之を騰貴せしむへしと雖も之に要する支拂準備金は流通市場に於ける正貨幣の額を減し其丈物價を下落せしむ

へきを以て彼是相差引き其物價に及ぼす純影響は其總額より支拂準備金を減したる殘額の影響と同等ならさるを得すと曰へり (Seligman, Principles of Economics, Book IV, ch. XXIX, § 196.)

第五、信用の物價に及ぼす影響は信用取引より生する債務の消合せらるゝ程度如何によりては大小ありと云ふ說、此說はキンレー氏の主張する所にして信用による取引は若し其債務盡く相消殺せらるゝに於ては同額の正貨の用を省略すへきを以て毫も信用を用ゐさる場合に比し其丈物價を騰貴せしむへしと雖も凡そ信用は悉く消合さるへきものに非す其一部は必す消合されすして殘留すへし而して其差額は結局貨幣を以て決濟せられさるを得さるか故に信用の物價を騰貴せしむる程度は其正貨の用を省略する程度如何に依るものとす即ち信用の物價に影響するや其より生する債務の消合の程度如何によりて差異あるものなり (Kinley, Money, ch. XI.)

以上吾輩は信用の物價に及ぼす影響に關する學說の重なるものを列擧したれは之より進て各說の正否を檢せさる可からす然れとも各說自ら其說明の目的とする所を等ふせさるか故に先つ其目的の差異を明かにするの要あり蓋しミル、マクラウド、セリグマン、及ひキンレーの四氏は信用の物價に及ぼす影響を靜止的に觀察せるものにして或格段なる時期に於て與へられたる貨物の供給と正貨幣竝に信用の額とを對比し以て貨幣の價格を算定し信用の影響を論究せしものなるかラフリン及ひウォーカー二氏は然らすして信用の物價に及ぼす影響を變動的に觀察し一定の物價の平準を假想して新に信用伸縮せらるゝ時は如何に之に變化を及ぼすへきやを論せしものなり既に其目的を等ふせさる以上は其目的に應して各說の當否を檢せさるへからさるや勿論なり

第一、彌兒及ひマクラウドの說は信用の物價に及ぼす影響は其全額に相當する正貨の增加の影響と等しとなすものなるか是れ信用の保證たる支拂準備金の要を看過したるものと謂はさる可からす蓋し信用は正貨の用を省き之が代用を爲すものなるや明かなれとも其正貨代用作用たるや前節にも論せしか如く其總額より支拂準備金を控除したる差額に相當する範圍ならさるを得す隨て信用の行使は其總額に相當する正貨の增殖と同等なりと云ふは當を得たる說にあらさる

なり

第二、ラフリン氏の説は之を二段に別つを要す即ち其一は物價は貨幣信用併行の結果たる現象なるか故に信用は物價に影響するものにあらすとの説其二は信用より生する債務は悉く相消殺せらるへきを原則とすへきを以て信用取引如何に多く起るも物價に影響を及ぼすものにあらすとの説是なり第一の説は一見頗る適理なるか如し然れとも若し信用か常に存在せし故を以て毫も物價に影響を與へすと云ふ時は貨幣も亦同一の理法により物價に何等の影響を與ふるものにあらすと云ふを得へし其誤れるや蓋し言を要せさるなり惟ふに物價なるものは貨幣交換及ひ信用交換の二者か竝ひ行はれて生する現象なるを以て其何れか一方の物價に及ぼす影響を究めんと欲せは須らく其存在せさる場合に於ては如何なる結果を生すへきやを想像せさる可からす斯の如くして始めて其影響の如何を知り得へきなり漫然其常に存在せし事實を捉へ常に存在せしか故に物價に影響を及ぼすものに非すと斷するか如きは素より非なり第二の説はウオーカー氏の説と同一なるか故に次段に合せて之を批評するを便とす

第三、ウオーカーの説は信用取引より生する債務は悉く相消殺せらるへきを原則とするか故に其伸縮は毫も物價に影響せすと云ふにあり蓋し信用取引より生する債務悉く消殺せらるゝに於ては信用大に擴張せられ同時に貨物の供給大に増加し其取引額隨て膨脹するも物價は從前の平準を維持すへきと明白なるか故に此説は斯る假定の下に於ては正當なりと雖も信用取引より生する債務果して悉く消合せらるゝものなるや否やは頗る疑問なり吾輩の見を以てすれは信用より生する債務は大部分消殺せらるへきも悉皆消殺せらるへきものにあらさるなり而して其理由二あり左の如し

一、商業取引に於ては時期及ひ金額の二點に於て貨物の賣買か悉皆投合すると能はさるは止むを得さる所なり蓋し信用の完全なる消合を得んには或瞬間若くは期間に於ける各種貨物の購買額か同期間に於ける其賣却額と全然符合せんとを要するなり然るに斯の如きは實際上到底望むへからさるとに屬し信用取引は其金額に於て互に相符合せざるを例とし又其支拂の時期に於て一致せさるを常とせり

二、産業界に屢々起る所の攪亂は貸借をして完全に消殺せしむると能はす貨物需要の消長生産消費の失衡流行の變遷固定資本及ひ流動資本の不調和其他種々の事變は常に産業界を攪亂し以て信用の消合を妨くるものとす加之或一部に於ける破綻は會々債務の不履行を來し其差額を生出すると尠なからす

第四、セリグマン氏の説は信用の物價に及ほす影響は信用の總額より其支拂準備金を控除したる殘額に相當する正貨の増殖の影響と同等なりとなすものなり故に氏の説は前掲彌兒マクラウドの説の缺點を補ひたるものにして之に一歩を進めたるものとす

第五、キンレー氏の説は信用の物價に及ほす影響は信用より生する債務の消合の程度によりて定まり其消合完全に行はるれは其全額に相當する正貨の増殖と同し程度に於て物價を騰貴せしめ其消合完全に行はれされは之に要する支拂準備金の多寡によりて物價を騰貴せしむる程度に大小ありとなすものにして結局セリグマン氏の説と異なるとなし吾輩は靜止的觀察として二氏の説の肯綮に中れるを認む若夫れ其然る所以の説明に至りては請ふ之を次節に讓らん

第四節　信用の貨幣價格に及ほす影響

信用の貨幣價格に及ほす影響を論するに中り吾輩は先つ其前提として信用か物價の決定者の一たるとを述んと欲す凡そ如何なる社會と雖も苟も物々交換貨幣交換及ひ信用交換の方法を知る以上は其孰れの方法を採擇するも三者悉く之を併用するも素より其自由にして社會は何れの場合に於ても犧牲の最も尠なき方法によりて交換を爲すへきは經濟の當さに然らしむる所とす然而斯る採擇の自由を有する社會か各種の交換法を用ゆるに當りては必すや其によりて利益を享有し得へき限り之を利用し其以上之を利用するも最早毫も利益を生せさる極點に至りて始て停むへきなり然則此點に於ける貨幣の疆界效用は當さに物價の平準を指示せさるを得さるや明白なりとす何とならは既に貨幣を用ゆる以上は如何なる交換法によるも物價は貨幣の名稱を以て言ひ現はさるゝものなれはなり然りと雖も元來貨幣の疆界效用なるものは單り流通用の貨幣の需要のみによりて決せられす亦大に信用交換の消合差額を決濟するに要する支拂準備金として

の貨幣の需要の影響を受けさるを得さるや明かなるを以て信用は當然物價の決定者の一たらさるを得さるなり

信用の物價の決定者の一たるとは從來信用を利用せる社會に於て俄かに之を廢止したる場合及び從來毫も信用を利用せす貨幣交換のみを行へる社會に於て俄かに信用交換を開始したる場合を想像し其各場合に於ける物價の平準の變化を考慮するときは容易に之を了知するとを得へし即ち

第一の場合に於ては從來信用の支拂準備用に資せられたる貨幣は悉く其用途を變して流通用に供せられ流通用貨幣の總額は爲めに大に增殖すへしと雖も貨物の需要從前と異ならさるに於ては其成遂くへき仕事の分量は信用廢止前に於けると毫も異ならさるか故に比較的小額の支拂の具を用ゐて從前と同額の交易を爲さゝるを得す其結果貨幣の疆界效用は急激に增加し其價格は大に騰貴し物價の平準は著しく下降すへきなり

第二の場合に於ては信用交換開始の結果從來直接交換用に供せられたる貨幣の一部は支拂準備用に供せらるへしと雖も信用交換より生する債權債務は相消合せらるへきもの多きを以て總額準備を要せさるや明白なるか故に貨幣の他の一部は全く不用に歸すへし而して其不用となりたる貨幣にして全然廢除せらるゝに於ては毫も物價の平準を動かすとなかるへしと雖も若し其一部分にても市場に殘留するときは社會は其丈貨幣の餘剩を感し其價格は爲めに下落し隨て物價の平準は騰貴せさるを得さるなり然れとも其餘剩貨幣は悉く皆流通用に供せらるゝものと思惟すへからす必すや流通用並に準備用の二途に配分せられさるを得すして其配分は右二途に於ける貨幣の疆界效用の均衡を以て標準とすへきなり

信用の物價の決定者の一たるとは上述せし所によりて明瞭となれり去らは其物價に及ほす影響の範圍は如何にと云ふに之を要言すれは信用の物價に及ほす影響は信用行使の結果として起る貨幣の效程の增加に因るものとす而して貨幣の效程は或與へられたる時期に於ける貨物の供給額を貨幣の總量に其價格を乘したる積にて除したる商なり例へは貨物の供給額五千單位あり貨幣の總量一千單位にして內二百單位丈流通用に供せられ殘八百單位か信用の保證たる支拂準備

金なる場合に貨幣の價格貨幣一單位に付貨物一單位の割合なる時は貨幣の效程は $5000 \div x(200 \div 800) = 1.$ $x = 5.$ 五なるか如し即ち此場合に於て信用の物價に及ぼす影響は物價を五倍丈騰貴せしむるものと謂ふへきなり何とならば信用を行使せさる時は貨幣の價格は $5000 \div 1000 = 5.$ 五なるへきに之か行使の結果其五分一に減するものなれはなり

信用の物價に及ぼす影響は種々に之を言ひ表はすを得へし即ちセリグマン氏の如く信用形式たる交換の媒介の總量より之か支拂準備金たる貨幣を控除したる殘額に相當する正貨の增加と同等なりと云ふも又キンレー氏の如く信用より生する債務の差引消合せらるゝ程度如何によると云ふも皆前述せし所と同一の意味を有するものとす今前例を借りて其然る所以を明かにせんにセリグマン氏の所謂信用形式たる交換媒介の總額は流通上の貨幣二百單位を貨物の供給額五千單位より控除したる殘額にして其より支拂準備金たる八百單位を差引きたる殘額四千單位の貨幣の增加は貨幣の總量を五千單位となすに等しく之を貨物の供給額五千單位に對比せは貨幣一單位に付貨物一單位の比例となり前段に示せし所と同一の意味となり又キンレー氏の所謂信用の差引消合せられさる部分は即ち支拂準備金に相當する額なるか故に信用は四千八百單位に付八百單位丈消合せられす差引四千單位丈全く貨幣の用を省きたる計算にして信用は貨幣の效程を五倍したるものなり

由是觀之信用の物價に及ぼす影響は支拂準備金を要せさる時最も大にして支拂準備金を要すると多きに隨ひ愈小ならさるを得す去れは其影響の大小は信用制度の完備せると否とによりて決せらると云ふを得へく信用制度完備すれは支拂準備の要自ら尠なく貨幣の效程自ら大なるへきなり

然りと雖も以上述へし所は或格段なる時期に於て一定量の貨幣と一定量の貨物とを對峙せしめたる場合に於ける信用の物價に及ぼす影響に就ての說明にして未た彼我の分量に增減變化を生せし場合に信用の伸縮の物價に及ぼす影響を解釋し得たりと云ふを得す換言すれは以上は信用の物價に及ぼす影響の靜止的觀察にして變動的觀察にあらさるなり是に於て乎一歩を進めて信用の伸縮の物價に及ぼす影響如何を論究するの要あり

信用の伸縮の物價に及ぼす影響は其結果として起る貨幣の效程の變化と貨物の供給の變化との對比關係如何によるものとす信用伸縮の結果として起る貨幣の效程の變化とは信用伸縮の爲め一定量の貨幣の成し遂け得へき交換の分量の變化を云ふものにして例へは從來一千單位の貨幣か五千單位の貨物交換に資せられ其交換比例貨幣一單位に付貨物一單位貨幣の效程五なりしものか今或原因より五百單位の貨幣克く同一の交換比例を以て五千單位の貨物交換に資し得へく又は之に反して一千單位の貨幣を以て僅に四千單位の貨物しか交換するを得さるに至り其交換比例從前と異ならさる場合の如し即ち前者にありては貨幣の效程は增進して十となり後者にありては減退して四となりしなり

然り而して信用行使の結果貨幣の效程の變化を生するは信用より生する債務の消合ひ得へき程度如何に因るものにして若し消合克く行はれ多額の信用取引を爲すも支拂準備金の需要比較的に增加せさる時は結局一定量の貨幣の成遂け得へき交換の分量從前よりも增加せし道理なるにより貨幣の效程は增進し之に反して若し債務の消合充分に行はれす信用取引を行ふに隨ひ支拂準備の要愈增加するに於ては一定量の貨幣の成遂け得へき交換の分量愈減少すへきを以て貨幣の效程は減退すへきなり

又信用の伸縮の結果として起る貨物の供給の變化とは物價の變動に隨伴して貨物の提供せらるへき分量の增減するを云ふ凡そ貨物の供給とは其現存額全部を意味するものにあらす或價格にて賣却せらるへき分量を指すものなり去れは信用の變化の結果として物價騰貴の傾向を呈するときは貨物の供給隨て增加すへく之に反して物價下落の情勢を呈するときは貨物の供給隨て減少すへきなり

今や活動社會に於ける信用の物價に及ぼす影響を明にし且つ信用行使の盛なる現今の社會に於て實際上信用の消長か如何に物價を動搖せしむるやを說明せんか爲め先つ第一に從來毫も信用を行使せさりし社會を假想し新に信用の利用を始めたる場合に於ける物價變動の有樣を敍述し次に從來既に信用を利用せし社會に信用の緊張を現せし場合に於ける物價變動の情況に論及すへし

第一の場合に於て信用創始せられ貨物の供給隨て增加するときは物價の成行は信用の爲め貨幣の效程の增加する程度と貨物の供給の增加の程度との比較的强

弱によりて定まらざるを得さるへし即ち前者の方後者よりも大なるときは物價騰貴し兩者相伯仲する時は物價變動せす前者後者に及はさる時は物價下落すへきなり

第二の場合即ち從來既に信用を行使し來りし社會に於て信用の緊張せられし場合に於ては其物價に及ほす影響は左の如くなるへし先つ信用擴張せられし場合に就て述へんに信用擴張の結果は次の四個の影響何れか一を生せさるを得す其一貨物の供給の增加の程度信用の擴張の程度に及はすして貨幣の疆界效用爲めに減少す其二信用の擴張に應して貨物の供給增加し而かも擴張せられたる信用取引は克く消合され之か爲め毫も支拂準備金の增加を要せす其三信用の擴張に應して貨物の供給增加せしも擴張せられたる信用取引は消合充分に行はれす從前に比し却て多額の支拂準備を要し貨幣の疆界效用を高めたり其四信用擴張の爲め大に信用の改善を來し其消合從前に倍徙し爲めに却て支拂準備の餘裕を來し貨幣の疆界效用を低下せり而して右各場合に於ける物價の情況は其一及ひ其四の場合にありては騰貴すへく其二の場合にありては從前の平準を維持すへく其三の場合にありては當然下落すへきなり

次に信用緊縮せられし場合に於ける物價の情勢は如何にと云ふに此場合に於ては若し信用の萎縮と共に貨物の供給亦減するも前者の程度後者の程度より大なるに於ては物價は下落し兩者相當るときは物價動搖せす前者後者に及はさるときは物價は騰貴すへきなり

之を要するに信用の伸縮の物價に及ほす影響は貨幣の效程の變化と貨物の供給の變化との對比的關係によりて定まるものにして信用伸縮の結果たる貨幣の效程の增減と貨物の供給の增減と其比例を等ふする場合には物價は毫も動搖せす貨幣の效程の增進の方貨物の供給の增加よりも比較的大なる場合には物價は騰貴し之に反する場合には物價は下落すへきなり

信用の物價に及ほす影響大略上述の如し今や本章を終るに臨み各種の信用形態の物價に及ほす影響の大小に就て一言せんと欲す說を爲す者あり曰く兌換劵手形小切手等の信用形式は帳簿上の貸借に比し一層大なる影響を物價に與ふと而して其論據とする所は是等信用證劵の輾轉流通して正貨の代用を爲すの點に存

するものゝ如し然れとも吾輩を以て之を見るに斯る論據を以て其物價に及ぼす影響大なりと論斷するは正鵠を得たるものと謂ふを得さるなり蓋し是等信用證券は貨物に對する信用取引の需要を盛ならしむるものにして帳簿上の貸借に比し消殺し得へき貸借を多く行はれしむると同時に亦消殺する能はすして殘留すへき債務の差額をも多く生せしむるものとす故に是等信用證券の物價に及ぼす影響は帳簿上の貸借の影響に比し大なるは事實なれとも是れ其輾轉流通の性質に附隨せる結果にあらすして其信用取引を盛に行はれしむる作用に基くものとす

參考書

Laughlin, Principles of Money, ch. IV, § 8.
Colwell, Stephen, The Ways and Means of Payment, ch. VII.
Kemmerer, E. W., Money and Credit Instruments in their Relation to General Prices, Book I, chap. VIII.
Johnson, J. F., Money and Currency, chs. III. & VI.
Kinley, Money, ch. XI.
Macleod, Theory of Credit, Vol. II, Pt. I, ch. XII.
——, Report of the Royal Commission on Gold and Silver, 1888, pp. 234, 245.
Mill, J. S., Principles, Vol. II, Bk. III, chs. XI–XIII.
Pierson, N. G., Principles, part 2, ch. II.
Knies, Der Kredit, VI.
Philippovich, Grundriss, 4 te Aufl., I Band, § 109.
Komorzynski, Johann von, Die Nationalokonomische Lehre vom Credit.

第十四章　本位制度

第一節　現今文明國の本位制度と複本位論の運命——第二節　複本位に關する萬國貨幣會議——
第三節　跛行本位制——第四節　金貨爲換本位制——第五節　金銀合成本位制及新複本位制——
參考書

第一節　現今文明國の本位制度と複本位論の運命

貨幣の職分及ひ之に要する物質的性質は本篇第四章に敍述せしか如し而して現今文明諸國に用ゐらるゝ貴金屬貨幣は克く價格の比準となり交換の媒介たるに必要なる性質を具備すと雖も將來の支拂の標準たるに要する價格不變の性質に至りては間然する所なきを得す是に於て乎貴金屬を本位貨幣となすに當り其如何なるものを如何なる方法によりて本位貨幣と定むれは最も能く支拂の標準たる職分を盡さしめ得へきかの問題を生す

現今世界文明諸國の本位制を見るに自由造幣の金單本位制は漸く一般の採用する所となり英國は千八百十六年卒先して此制を採り獨逸は千八百七十三年斷然本位銀貨の製造を廢止し金貨單本位制を實施し北米合衆國は同年本位銀貨の自由造幣を罷め佛蘭西亦其翌年之に倣ひ千八百七十八年に至り他の羅甸同盟諸國と共に全然之か發行を停止し何れも從來の金銀兩本位制を革めて所謂跛行本位の制に遷り金貨を以て基準本位貨幣となせり其他墺地利匈牙利は千八百九十二年を以て其幣制を改革して金單本位制を採り印度及露西亞は其翌年銀貨の自由造幣を停止し其後智利コスタリカ日本露西亞の諸國何れも相接て金貨單本位制を採用し印度比律賓墨西哥の如きは所謂金貨爲替本位制なるものを創始し只管列國の背後に墮ちさらんとを努めつゝあり

諸國の情況既に斯の如くなるか故に本位選定の問題は實際上に於ては既に解決せられ現今殆と論議の餘地を存せすと云ふも可なり然れとも金の價格は前々章に論せしか如く前世紀の中頃より千八百七十三年に至る迄大に下落し同年以降前世紀の終頃まて著しく騰貴せしかは單獨に之を本位となすを不得策とし金銀複本位制を以て一層優れる制度なりと主張する者輩出し銀坑を有し若くは巨額の銀貨を保有せし邦國にして之か處分に窘せしもの亦盛に金銀複本位制を採る

の得策なるを皷吹し之に關する論議は一時世上に喧しく終に之が爲め前後三回の萬國會議を開くに及へり世に本位戰爭 The Battle of the Standard (Währungsstreit) として知らるゝもの即是なり現今に於ては諸國既に金單本位制を採るもの多く又輓近金の產出額の非常なる增加あり物價回復の趨勢を呈するに至りしを以て複本位論は稍屏息の姿を呈するに至りしと雖も尙ほ之を主張する者決して尠なしとせざるなり

今や複本位制を主張する者の論旨を紹介し之に對して論評を試みんとするに中り吾輩は先つ單本位及ひ複本位の意義を明かにするの要あるを認む

之を嚴格に言へは單本位制とは如何なる金屬にても其唯一種を本位貨幣とする制度を謂ひ複本位とは二種以上の金屬貨幣を本位貨幣となし之を併用する制度を意味し敢て其造幣の制限の有無を問ふものにあらすと雖も現今一般に理解せられ且つ實際に用ゐらるゝ意義に從へは單本位制とは金又は銀孰れか一を自由造幣無制限法貨となすを云ひ複本位制とは金銀二金屬を併用して共に之を自由造幣無制限法貨となすを云ふ故に複本位制とは金銀兩本位制 (Bimetallism) を意味するものと解すへきなりウオーカー氏は其著複本位論中に所謂複本位制の意義を說明して曰く若し何等の條件を付せす或は前以て毫も說明を加ふるとなくして唯普通用ゐらるゝ所に隨ひ此語辭を使用するときは複本位制とは夫の千七百九十二年乃至千八百七十三年に北米合衆國に成立し又千七百八十五年以後に佛蘭西に實施せられ其他種々の時代に他の諸國にも行はれし所の金銀二貨の法定比價を律して之か自由造幣を許せし一國內の兩本位制を意味するに非ずんは夫よりも意義の一層適當なる夫の國際兩本位制 ——同盟國共通の法定比價を以て金銀二貨の自由造幣を許すもの——例へは千八百六十五年より千八百七十三年に至る間羅甸貨幣同盟諸國に實施せられしもの若くは接續せる萬國貨幣會議に提起せられ又は多くの著書論文演說等に唱道せられし國際兩本位の如きものを意味するものとすと (Walker, International Bimetallism p. 1.)

一般に所謂單複本位の意義概ね上述の如し然れとも一國若くは少數の邦國に於て複本位制を實行するも金銀比價變動し其の法定比價と市場比價と相隔離するに至るときはグレシヤム氏法則の作用により高貴なる貨幣は廉價なる貨幣の爲

めに直ちに流通市場より驅逐せられ複本位國は最早其制度を維持すると能はす廉價なる貨幣の發行を停止し若くは大に之に制限を加へて人爲的に其供給を減縮するに非さるよりは忽ちにして廉價なる金屬を以てなる單本位國と化せさるを得さるや必然なり是れ佛蘭國其他の羅甸貨幣同盟國及ひ北米合衆國等の實際經驗せし所にして何人も疑はさる所とす去れは現今論議せらるゝ所の複本位制とは斯の如く一國若くは少數の邦國にのみ行ふへきものを意味するものにあらすして主として世界諸國一般若くは有力なる多數の邦國の間に行ふへき所謂國際兩本位制を意味するものと解せさるを得さるなり

偖吾輩は以上に於て單複本位の意義を明かにしたれは之より複本位論者の論旨を紹介し之に對して論評を試むへし然れとも從來提起せられし複本位論は啻に經濟上の論議たるに止まらすして亦同時に政治上の爭論たるの觀あり頗る錯雜せるを以て問題を明確ならしめんか爲め今單に經濟上の見地よりのみ之を講究すへし

複本位論者の論旨の重なるものは左の四點なり

一、單本位制にありては其貨幣として用ゐらるゝ金屬の需要供給の消長により甚しく物價を動搖せしむるの恐あれとも複本位制にありては金銀二種の本位貨幣を併用するものなるを以て其孰れか一方騰貴するときは貨幣として廉價なる金屬を多く用ゆるに至るへきを以て前者の需要を減し其價格を下落せしむると同時に後者の需要を增加し其價格を騰貴せしめ兩々相待て以て金銀二貨幣の法定比價を保持せしめ又貨幣の價格の平準を維持し物價の變動を防くことを得へきなり

二、複本位制は金銀二種の金屬を本位貨幣として用ゆるものなるか故に其孰れか一方のみを用ゆる單本位制に比し貨幣の供給常に潤澤なるを得へく隨て物價の變動を防くの效あり何とならは貨幣の分量潤澤なるときは新に起る其供給の增加若くは需要の增進の爲め其價格に影響を受ること小なるへけれはなり

三、單本位制にありては動もすれは貨幣の缺乏を來し物價を下落せしめ貸借上の不公平を生し債務者に損害を與へ事業の不振を招き勢力者の所得を減し貧者を苦むるの害ありと雖も複本位制にありては貨幣の供給自ら潤澤なるを得へき

を以て斯る弊害なきを得へし

四、諸國か或は金單本位制を採り或は銀單本位制を採り其揆を一にせさるとき は金貨國と銀貨國との間に爲換上平價を確立すること能はす國際の貿易は爲換相場の變動により頗る投機的となり隨て其發達を期すへからす然るに諸國擧て統一せる金銀兩本位制を採るに於ては貿易上這般の如き危險を剔除することを得へし

複本位論の要旨大概上述の如し果して複本位制は論者の言ふか如く克く金銀貨幣の法定比價を維持し貨幣價格の變動を小ならしめ善美なる貨幣を社會に供給するに足るものなるや否や請ふ吾輩をして之を檢せしめよ

複本位論者の第一に主張する所は複本位制にありては金銀二種の本位貨幣を併用するか故に二者間所謂辨償作用 Compensatory action (Equilibratory action) なるもの行はれ其市場比價をして常に其法定比價と合致せしめ若くは相近邇せしめ又貨幣價格の變動をして單本位制に於けるか如く大ならさらしむるの利益ありと云ふに在り辨償作用とは同一の職務を盡す二種の貨物あるとき其孰れか一方の價或原因より騰貴せは世人の需要は代用法則 Law of substitution の作用により直ちに他の一方に向ふを以て前者の需要を減し其下落を馴致すると同時に後者の需要を增加し其騰貴を來たし以て彼此相矯制せしめ二者間に價格の開きを生せさらしむるを云ふ即ち金銀二貨を本位貨幣として併用するときは若し新坑の發見冶金術の進步其他貴金屬の生產の消長を來すへき原因發生し之か爲め例へは銀の價金の價に比し大に下落することあらは金銀二貨は最早從來の法定比價を以て交換せられす良貨たる金貨はグレシャム氏法則の作用により多く流通市場を去て地金市場に出て惡貨たる銀貨は金貨に代つて多く貨幣として用ゐられ地金市場に於ける其供給は爲めに漸く減少するに至るへし然るときは其當然の結果として金の價は次第に下降し之に反して銀の價は次第に恢復し彼是相中和し兩々相待て終に一時相離隔せし金銀の法定比價と市場比價とは再ひ相接近すへきなり果して斯の如くなること明白なるに於ては市場に於ける金銀の比價は其動搖の原因發生するも所謂市場の豫測的需要の作用により或は毫も變動を現はすとなくして其法定比價と一致すへく或は終に其變動を防く能はさるも其變動たる

や大ならさるへきを以て尠くとも常に其法定比價に近邇し著しく離隔することなかるへきなり既に金銀貨幣にして其法定比價を維持し得へしとせは是れ複本位制に於ける貨幣の供給の單本位制に於ける場合の如く甚しく變化することなき證左となし得へきを以て物價の動搖は複本位制の方單本位制よりも一層小なりと論結し得へきなり

右述ふるか如く複本位制は辨償作用を有し金銀貨幣をして獨り其相互の關係に於て變動少なからしむるのみならす又一般貨物との關係に於て金銀孰れか一方のみを用ゆる單本位制に比し遙かに物價の變動を小ならしむることは複本位論者の最も有力なる論據にして單本位論者すら尚ほ全然之を非認すること能はさる所なりラブレー氏は獨逸の學者は一般に辨償作用を承認し其金單本位制を主張する者尚之を許せりと曰へり

然りと雖も辨償作用の效力に就き學者の之を認むる程度に自ら徑庭あることを看過すへからす極端なる複本位論者は辨償作用を以て完全に行はるへきものとし若し世界中重なる邦國か悉く一致して金銀兩本位を採用するに於ては金銀の法定比價は永久持續するを得へしと主張せりツエルヌスキー氏の如き是なり之に反して穩和なる複本位論者並に單本位論者の或者は辨償作用は決して完全に行はれ得へきものに非すと雖も其效力大なるは疑を容れすとなせり

吾輩を以て之を見るに抑々複本位の下に於ける金銀二貨の間に行はるへき辨償作用なるものは大に其比價の離隔を防遏する力を有するや明かなれとも極端なる複本位論者の謂ふか如く永久に其市場比價をして法定比價に合致せしむるか如きは到底望むへからさる所とす惟ふに極端なる複本位論者は性質を異にせる二種の貨物を同一視するの誤謬に陷りしものと謂はさるを得すして是れ恰も米と麥とを一視し鐵と銅とを同認せんとするに異ならす是等の貨物は互に代用をなし得へく米價高けれは麥多く需要せられ銅騰貴せは鐵の用增加すへきや疑なしと雖も社會の是等貨物に對する需要には自ら差異あり其供給の增減亦自ら同きを得さるを以て其相互の交換比例は常に一定するを得さるなり貨幣としての金銀亦然らさるを得すして經濟の進歩と共に社會各階級の收入支出愈大なるときは重量の割合に價格の大なる貨幣益々需要せられ其他外國貿易の支拂內國諸

地方間の送金等何れも重量小にして價の貴き金屬を擇むに至るは必然なるを以て畢竟金は貨幣として銀よりも其效用一層大なるものとならざるを得す隨て其價格騰貴するも複本位論者の謂ふか如く必す銀の爲めに其用を奪はるゝに限らすして或は其新比價を以て二幣併ひ行はるゝことなきを保せさるなり加之ならす金の生產と銀の生產とは各特異の事情に支配せらるへきものなるを以て其比較的供給の消長は豫め之を劃すへからす隨て其比價は假令兩者の間に辨償作用なるもの行はるゝも之を一定不變のものたらしむるを得さるや明かなりとす由是觀之複本位論に所謂金銀二貨の辨償作用なるものは到底完全に行はるゝ能はさるのみならす其法定比價と市場比價との離隔を防遏する效力も亦其實際に於ては複本位論者の想像する如く顯著なる能はさるへし

複本位論者の第二に主張する所は複本位制に於ては單本位制よりも貨幣の供給自ら潤澤なるを以て貨幣の需要供給に變化を生するも其價格を動搖せしめ物價に變動を與ふること比較的に小なりと云ふに在り彼等は譬喩を設けて曰く池沼は旱魃に涸渴し積雨に充溢すと雖も浚湖の水面は唯僅少の高低を示すのみ而して海洋に至ては毫も變化を呈することなしと然り彼等の言洵に理あり然りと雖も複本位制にありては單本位の場合に比し物價動搖の幅狹小なる代りに其變動の方向極りなく且つ其度數一層頻繁なることを記せさる可からす蓋し複本位制の下にありては貨幣價格の變動は金銀二金屬に及ひ其區域隨て狹小なれとも物價は常に金銀孰れか價格の下落せる貨幣に對して唱へらるへきを以て其市場比價の動搖する毎に其影響を受けさるを得さるなり然るに單本位制に於ては一種の本位貨幣を使用する結果其金屬の需要供給の消長により甚しく物價を變動せしむることあれとも其變動は騰貴若くは下落何れか一方に偏するを常とし複本位の場合の如く其方向極りなきか如きことなかるへきなり然而經濟社會に取り單本位の下に於ける物價の趨勢と複本位の下に於ける物價の趨勢との利害如何を考察するに或は前者の漸進的にして比較的變動の區域大なる方後者の變動小なるも其起るや頻繁にして且つ其方向極りなきに優れるやも知るへからさるなり何とならは物價の高低極りなき時は豫め之に應することを能はされとも其趨勢何れか一方に向ふ時は假令其變動大なるも豫め之に備ふること必すしも難から

されはなり

複本位論者の第三の主張は複本位制にありては貨幣の供給自ら潤澤にして貨幣價格の變動を防遏する力を有するか故に單本位制に於けるか如く動もすれは貨幣の缺乏を來たし其價格を騰貴せしめ債務者の負擔を增加し企業の不振を招き勞力者の所得を減し貧者を苦しむるの害なきを得へしと云ふに在り此議論は前世紀の終二三十年間(七十三年乃至九十年代)世界に於ける金の產出其需要に及はす物價滔々として下落の趨勢を呈せし際に當り盛に唱へられし所なりしか輓近諸國の物價漸く恢復し來り金の產出亦比年大に增加するに至りしかは現今に至りては殆と時機を失せるの觀なきにあらす然れとも學理上の問題として之を評論するは今尙ほ決して無用の業にあらさるへし

抑々複本位制に於て貨幣價格の動搖なきを得るや否やは金銀二貨の辨償作用の完全に行はるゝや否やによりて決せらるへし而して其完全に行はるゝこと能はさる所以は既に論究せしか如し去れは右複本位論者の第三の主張は複本位制の效力を過重視したるものと謂はさるを得さるなり

加之ならす複本位制の下に於ける物價の變動は金銀二貨の辨償作用の爲め其程度狹小なりと雖も其度數頻繁にして其方向極りなきこと明かなるを以て其貸借上及ひ企業上に及ほす影響は單本位の場合に比して良好なるや否や遽かに斷すへからさるなり蓋し物價の變化の貸借の公平を破り企業の發達を害するは永時に亘る物價變動の趨勢にあらすして寧ろその頻繁なる動搖に在り即ち例へは單本位の場合に於て貨幣として用ゆる或一種の金屬の供給の增加か其需要の增加に追及する能はすして比年物價下落の趨勢を呈するときの如きにありては企業家及債務者は其趨勢に鑑み豫め之に備ふるを得へしと雖も複本位の場合の如く物價の變動高低極りなきに於ては假令動搖の程度大ならさるも企業家及貸借の當事者は豫め之に備ふると難きを以て不時の損害を被るの機會多からさるを得さるへし

複本位論者は又經濟社會に於て債務者の階級を成す者は多く貧民なるか如く思惟し物價の下落は貧民の利益を害するか如く論すれとも是れ全く事實を誤るものと謂はさるを得す蓋し現今の經濟社會に於て債務者として先つ指を屈すへき

は銀行及び商工業者にして彼等は其資本以上の多額の資金を借入れて事業を營むを例とせり而して薄給を以て衣食する者及一般勞働者の如きは所謂零碎せる資金の所有者にして彼等の多くは粒々辛苦して剩し得たる貯蓄を銀行其他に預入れつゝあるなり去れは債務者の階級を成す者は多く貧民なりとするか如きは決して正鵠を得たる觀察にあらさるへし

複本位論者の第四の主張は世界諸國か金若くは銀の單本位制を採る時は其間に爲換の平準を確立すると能はす國際貿易をして投機に類せしめ其發達を阻害すと云ふにあり此議論は誠に正當にして何人と雖も一點の異議を挾むと能はさるへし然れとも是れ單本位を捨てゝ複本位を採るへしとの結論を生せさるを奈何せん何とならは世界諸國擧て金若くは銀孰れにても同一金屬の單本位制を採るときは爲換の平準を確立すると最も容易にして敢て複本位の採用を待たされはなり現今諸國の狀勢を觀るに金單本位制は漸く文明國一般の採用する所となり從來銀貨國を以て知られたる東洋諸國幷に墨西哥の如きは所謂金貨爲換本位制なるものを採用し以て金銀比價の變動より生する國際貿易の障碍を除去せり

複本位論に對する吾輩の論評概ね上述の如し之を要するに複本位論は金銀二貨の辨償作用を以て根本の論據とするものなるを以て其完全に行はるゝと否とは即ち複本位論の死活を制するものとす而して複本位制は未た曾て列國一般の間に實施せしとなきを以て漫りに其正否を斷すへからすと雖も之を一國若くは數邦の間に行ひし從來の實驗に鑑み又現今文明國に於ける商業取引上の必要に徵し所謂辨償作用なるものゝ如何に行はるへきやを老究するときは蓋し其價値を卜するに難からさるへし

以上は理論上より複本位制を論評せしものなるか尙ほ之を實際上より觀察するに同制は到底其實施を見ると能はさる運命を有するものゝ如し蓋し其然る所以は其實行上二個の重要なる障碍の存するあるを以てなり障碍とは何そや曰く金銀の法定比價を定むるに當り列國の合意を得るの困難なると曰く各同盟國か果して其協約を遵守すへきやに付大に疑あると即是なり

金銀の法定比價を協定するに當りては必すや先つ從來或國に行はるゝ法定比價を襲用すへきや又新に金銀の市場比價に近き比價を律定すへきやに就て議論を

生すへし而して在來の比價たる一と十五半又は一と十六を襲用するときは廉價なる銀貨の需要をして其地金の價格か法定比價に達するまて增加せしめんとを要するの困難を有するか故に議論の結果は恐くは新に市場比價に近き比價を律定するを可とする者多數を占むへしと雖も果して列國悉く此決議に贊同すへきやは大に疑なき能はさる所なり何とならは從來一定の法定比價を以て發行せる銀貨の多額を保有する邦國は悉く之を改造せさるを得すして之か爲め莫大の費用を負擔せさるを得されはなり例へは從來一と十五半の比價を有する佛國の如きは若し其五法銀貨を改造して一と三十五の比價に準せしめんには約十一二億法朗の損失を被るへく又北米合衆國は千八百九十二年に於て約三億六千萬弗の銀弗貨を有せしか其一と十六の比價を革めて一と三十五となすときは約二億弗の損失を期せさるを得すと云ふ是れ豈佛米二國の所ゆる所ならんや或者斯る貨幣の改造は實際其國の經濟上の損失を意味するものにあらすと論すと雖も之を實行するに當りては必す其改造補塡に相當する金額を準備せさるを得さるや明白なるを以て斯る議論は實際上重きを爲すに足らさるなり

第二の障碍たる同盟國の信頼し得へきや否やの問題は單に列國の德義上の問題に止まらすして其財政上並に政治上に至大の關係を有するものとす而して此懸念は如何なる理由に基くやと云ふに德義上の問題の外其理由凡そ二あるとを發見す

其一、正貨兌換の停止、若夫れ同盟國中或原因より正貨の兌換を停止せさるを得すして不換紙幣を濫發せん乎金銀の正貨幣はグレシャム氏の法則の作用により流通市場より驅逐せらるへし而して斯る邦國其數多きを加ふるときは實際複本位制の行はるゝは殘餘の少數の邦國に止まるに至り終に複本位制度の廢滅を來さるゝを保せさるなり何とならは金銀法定比價の維持は複本位制の要件にして多數の邦國の同盟して金銀二貨を併用するによりて始て其目的を達し得へけれはなり正貨兌換の停止は歷史上其實例に乏しからす前世紀の下半諸國の正貨兌換を停止せるもの頻々として起りし事實に徵するときは思ひ半に過きん若し千八百六十年頃歐米列國の間に複本位制採用せられしと假想せは如何なる結果を來すへかりしや北米合衆國は南北戰爭の爲め其翌年を以て率先之を委棄し爾

來十八年の久しき間同盟以外に立たさるを得さりしなるへく露西亞は千八百六十三年に脫離し九十七年を以て纔に回歸せしなるへく墺利匈牙利は六十七年に正貨兌換を停止し近年漸く之を恢復せしのみ佛蘭西は七十年より七十五年に至るまて同盟中の國ならさりしなるへく其他伊太利は六十六年に脫離し千九百二年を以て再ひ加はり西班牙の如きは千八百九十一年以降全く信賴するに足らさりしなるへし斯る事態の下複本位制の維持亦難しと謂はさるを得さるなり

其二、商業上の必要　重量の割合に價格の大なる金屬か經濟の發達せる社會の支拂の具として最も適切なるは論を要せさる所にして現今文明諸國に於て貨幣として銀の需要漸く減少し金の使用愈々增加するの傾向を呈せるは決して偶然にあらさるなり去れは一且文明國間に複本位制採用の議成るも商業社會に於て依然金貨を好む以上は何れの國と雖も平然として金貨の減少を介意せさるものなかるへしダーウキン氏は其著複本位論中に金銀二貨の比價を小にするとに反對して曰く若夫れ金銀の法定比價にして小に失せん乎同盟國中或は國際の協議を以て監督するを得さる方法により金貨の造幣を奬勵するの擧に出つるとなきを保すへからす既に斯る事實あるに於ては各同盟國は互に相疑ふに至るへきを以て此二事終に同盟を不確實ならしむる分子を成すへし而して斯る場合に於て若し或國か貯藏若くは其他の手段により巨額の金を其領域內に吸集し得たりとせん乎其國の政府は複本位同盟を破壞し金貨の價格を騰貴せしめ之により巨利を博せんか爲め或は進て金單本位制を採用するに至るやも知るへからす特に戰爭開始の際に於て交戰國の一方か以て敵國の利益を減すへしと思惟せし時の如きは斷然斯る擧に出るとあるへしと

然り而して此種の事情か複本位制の實行に大なる障碍をなすへきは想像するに難からさる所にして夫の列國貨幣會議に於ける列國の態度に徵するも亦獨逸の幣制改革に續て諸國の採りし政策に鑑みるも複本位制は到底一個の空論たるに過きさる運命を有するものゝ如し

第二節　複本位に關する列國貨幣會議

輓近銀價漸く下落し世界諸國爭ふて銀貨を廢し若くは之か自由造幣を罷め專ら

金貨を用ゐんとするの形勢を呈するや多額に銀貨を所有し若くは銀坑に富める邦國は萬國複本位制を實行し以て銀の需要を恢復せんと計り之に關する列國會議は前後三回開催せられたり然れとも終に其目的を達すると能はさりき今各會議の報告を抄譯し如何に其實行の困難なるかを示さん

第一回列國會議、第一回の會議は北米合衆國の主唱に係れり千八百七十八年二月同國々會は大統領をして歐洲列强の政府を糾合して金銀兩本位制を採用し諸國を通して金銀の比價を確定せんが爲め列國會議を起さしむとの決議をなせしを以て大統領は此決議に基き直ちに招集狀を歐洲列國に發したり是に於て列國貨幣會議は同年八月十六日を以て佛京巴里に開かれ獨逸幷に歐洲大陸に於ける數個の小國を除き自餘の諸國は悉く之に應して各委員を參列せしめたり

此會議に於て北米合衆國の委員グルースベック W. S. Groesbeck 氏は左の二個の議案を提起せり

一、歐米諸國に於て銀貨の自由造幣を爲さゝるは望ましきとに非す

二、列國の同意を以て金銀の比價を一定するとを得は金銀兩貨幣を無制限法貨として使用するとを得へし

而してグ氏は右提案に附加するに千八百七十三年米國に於て銀貨の製造を中止する法律を制定せしは全く議會の輕卒に出てしものにして決して有力なる理由の存せしに非さりしと竝に當時銀價の下落及ひ羅甸同盟國の銀貨の製造を制限せし事實は米國をして亦銀貨の製造を制限するの止むを得さるに至らしめしとを以てせり

右の議案提出せらるゝや茲に討論は開始せられ英國の委員ゴッシェン Goschen ギブス Gibbs 兩氏は劈頭第一にグ氏に質すに米國議會の輕卒とは如何なる意味なるやを以てせしにグ氏は之に對へて當時米國に於ては一の新聞紙も一の商業會議所も同議案に就て論議せしものなかりしのみならす議員の多數は全く討議事項の何たるを知らすして輕卒に決議に加はりしとを自白すと曰へり然るに瑞西の委員フェルヘルツオグ Feer Herzog 氏は右グ氏の答辯を反駁して曰く抑も北米合衆國に於て銀弗貨の流通市場を去りしは遙かに七十三年以前に起りし事實なり隨て同年の法案は充分討究せられし末制定せられしものにして決して米國委

員の言ふか如く咄嗟の間不注意に決議せられしものに非す其目的は明かに金單本位制を立てんとするに在りしなりと

ヘ氏の反駁論出つるや米國委員ウオーカー(F. A. Walker)氏は直ちに起立して次の言明をなせり曰く當時余は米國の一大學に於て經濟學の講座を擔當し貨幣論を講せしか全然貨幣に關して如何なる議案か國會に現はれしやを知らさりき恐くは國民の大多數は全く之に就て何等の報道に接せさりしならん故に該議案は咄嗟の間に充分討議せられす輕卒に通過せしものに相違なしと

右の辯明了るや白耳義の委員ピルメー(Pirmez)氏は發言して曰く抑々米國委員提案の眞意は蓋し列國を糾合して萬國複本位制を立てんとするに在るへしと雖も白耳義國は斯る提議に同意を表すると能はさるなり惟ふに萬國複本位制を實行せんとせは其直接の結果は市上金銀の比價を動搖せしめ會々投機者流に巨利を與ふるの外あるへからすと

ピルメー氏に次て萬國複本位制の設定に反對せしは諸威露西亞及ひ英國の委員なりき諸威の委員ブロック(Broch)氏は金銀兩本位は元來虛僞の制度なり實際斯る制の行はれし例何處にもあるとなし蓋し若し一國にして法律上兩本位制を採らん乎其國は必す直ちに金銀孰れかの單本位國と化せさるを得さるへし假りに歐洲諸國擧て兩本位制を採用するも必す印度及ひ支那の影響を受け絕へす銀の輸出入を見幣制の攪亂は蓋し免る能はさる所なるを奈何せんと曰ひ露亞西の委員ド、テルネー氏(de Thoerner)は金銀二貨の間に一定の比價を律定するか如きは理に於て許さるゝ所にして決して行ひ得へきものにあらすと斷言し英國の委員ゴッシェン氏は英國は萬國兩本位制に贊同すると能はす然れとも此問題に就ては英領印度の爲め多大の利害を感するを以て銀價の下落を防遏する方策に對しては出來得る限りの掩助を爲し又一致行動を採るを躊躇せすと曰へり

第一回會議に提起せられし米國の委員の提案は斯の如く列强委員の反對を受け形勢甚た非なりしか佛國の委員にして本會議の座長たりしレオンセイ(Léon Say)氏は千八百七十四年以後に於ける佛國の態度に就て辯明を試み其已ひ得さるに出てしとを言明し以て米國の提案に贊同の意を表せり其要に曰く佛國か銀貨の製造を制限し次て之を停止せしは誠に已ひを得さるに出てしものにして政府は